

研究報告書
(医療技術評価総合研究事業)

インターネットを活用した医療施設情報の提供と 利用の促進及び安全な医療情報流通促進のための 個人情報の取り扱いに関する調査研究

(H12 - 医療 - 013)

平成14年3月

主任研究者
札幌医科大学教授 辰巳治之

インターネットを活用した医療施設情報の提供と 利用の促進及び安全な医療情報流通促進のための 個人情報の取り扱いに関する調査研究

（H12 - 医療 - 013）

主任研究者 辰巳治之 札幌医科大学医学部 教授

分担研究者

花井 莊太郎 国立循環器病センター 高度情報専門官
三谷 博明 日本インターネット医療協議会 事務局長

研究協力者

水島 洋 （国立がんセンター研究所）
高橋 基文 （医療法人二葉会）
西藤 成雄 （西藤こどもクリニック）
小内 亨 （おない内科クリニック）
大山 博司 （医療法人社団明人会田島病院）
森田 巧 （ソニーコミュニケーションネットワーク株式会社）
前田 泉 （ティー・エム・マーケティング株式会社）

目 次

〔研究主旨〕	5
A.研究目的	6
B.研究方法	6
C.研究結果	7
1.患者アンケート	7
1.1. 単純集計結果	7
1.1.1 回答者のプロフィール	7
1.1.2 インターネットへの接続方法	7
1.1.3 よく利用する検索エンジン	7
1.1.4 情報の利用頻度	7
1.1.5 利用情報について	8
1.1.6 利用情報の信頼性	8
1.1.7 信頼できない理由	8
1.1.8 信頼できるウェブサイト	8
1.1.9 報内容の信頼性の基準	8
1.1.10 情報の信頼性を損ねる要因	8
1.1.11 掲示板やオンライン会議室の利用頻度	9
1.1.12 掲示板やオンライン会議室利用のメリット	9
1.1.13 掲示板やオンライン会議室の利用時の問題点	9
1.1.14 医療相談の体験	9
1.1.15 医療相談時の不安	9
1.1.16 信頼できる医療相談の相手	10
1.1.17 個人の医療（健康）情報への取り扱いへの関心	10
1.1.18 プライバシーポリシーの必要性について	10
1.1.19 プライバシーポリシーの運用法について	10
1.1.20 倫理規範やガイドラインについて	10
1.1.21 自由回答	11
1.2. 性別によるクロス集計結果	11
1.3. 疾患別によるクロス集計結果	11

1.4. 患者・家族別によるクロス集計結果	11
1.5. 年代別によるクロス集計結果	11
1.6. 利用頻度によるクロス集計結果	11
D.考察.....	11
E.結論	14
資料1.1. アンケートの内容と単純集計結果	18
資料1.2. クロス集計結果	64
1.2. 性別によるクロス集計結果	64
1.2.1 回答者のプロフィール	64
1.2.2 インターネットへの接続方法	64
1.2.3 よく利用する検索エンジン	64
1.2.4 情報の利用頻度	64
1.2.5 利用情報について	65
1.2.6 利用情報の信頼性	65
1.2.7 信頼できない理由	65
1.2.8 信頼できるウェブサイト	65
1.2.9 情報内容の信頼性の基準	66
1.2.10 情報の信頼性を損ねる要因	66
1.2.11 掲示板やオンライン会議室の利用頻度	66
1.2.12 掲示板やオンライン会議室利用のメリット	66
1.2.13 掲示板やオンライン会議室の利用時の問題点	67
1.2.14 医療相談の体験	67
1.2.15 医療相談の相手	67
1.2.16 医療相談時の不安	68
1.2.17 信頼できる医療相談の相手	68
1.2.18 個人の医療（健康）情報への取り扱いへの関心	68
1.2.19 関心の内容について	68
1.2.20 プライバシーポリシーの必要性について	69
1.2.21 プライバシーポリシーの運用法について	69

1.2.22 倫理規範やガイドラインについて	69
1.3. 疾患別によるクロス集計結果	84
1.3.1 回答者のプロフィール	84
1.3.2 インターネットへの接続方法	84
1.3.3 よく利用する検索エンジン	85
1.3.4 情報の利用頻度	85
1.3.5 利用情報について	86
1.3.6 利用情報の信頼性	86
1.3.7 信頼できない理由	87
1.3.8 信頼できるウェブサイト	87
1.3.9 情報内容の信頼性の基準	88
1.3.10 情報の信頼性を損ねる要因	88
1.3.11 掲示板やオンライン会議室の利用頻度	89
1.3.12 掲示板やオンライン会議室利用のメリット	90
1.3.13 掲示板やオンライン会議室の利用時の問題点	90
1.3.14 医療相談の体験	91
1.3.15 医療相談の相手	92
1.3.16 医療相談時の不安	92
1.3.17 信頼できる医療相談の相手	93
1.3.18 個人の医療（健康）情報への取り扱いへの関心	94
1.3.19 関心の内容について	94
1.3.20 プライバシーポリシーの必要性について	95
1.3.21 プライバシーポリシーの運用法について	96
1.3.22 倫理規範やガイドラインについて	97
1.4. 患者・家族別によるクロス集計結果	111
1.5. 年代別によるクロス集計結果	125
1.6. 利用頻度によるクロス集計結果	139

患者・家族におけるインターネット上の 医療(健康)情報の利用状況と 意識に関する調査

【研究主旨】

インターネットを活用して、医療(健康)情報やサービスを提供・利用していく際の情報の質や信頼性確保に関する問題を検討するため、利用者である患者やその家族を対象に、実際の利用状況や情報の質、プライバシー保護、倫理ガイドライン等に対する意識についてアンケート調査を実施した。

集計分析の結果、インターネット利用の信頼性確保という観点から、検討すべき課題があることが確認された。

A. 研究目的

現在、インターネット上には病気や病気の治療法に関する情報、医療機関や医師に関する様々な情報が提供され始めているが、新規な技術媒体ということもあって、情報やサービスの提供方法や利用法に関し、提供者・利用者間のコンセンサスが確立されていない状況である。

医療機関や医師に関する情報提供についても、既存のメディアにおいては、これを規制する法律があり、その枠内において行われているが、インターネットを利用した情報提供は規制の対象外にあることから、情報提供が自由とされ、医療機関をはじめ、民間企業、患者（団体）あるいは個人等、様々な立場から、医療や健康に関する情報が提供されるようになってきた。

今日の情報化社会では、医療・保健の領域において、一般の国民や利用者が病気のケアの質を高めたり日常の健康管理に役立つ情報を容易に入手してうまく役立てていく上でインターネットを活用した医療や健康に関する情報の提供・利用が期待されるが、実際に提供されている情報やサービスをみると、その内容面において有用性が認められるものがありながら、一方では情報やサービスの内容、及びその提供方法において、安全性や信頼性の面で疑問を感じるものも見受けられる。そこで、本研究では、インターネット利用における信頼性確保という観点から、実際にインターネット上で医療や健康に関する情報やサービスを利用している患者・家族を対象にアンケート調査を行い、日常の利用状況やその意識を調査分析する研究を行った。

B. 研究方法

日常的にインターネットを使用し、医療や健康に関する情報を利用している患者及びその家族を調査対象に設定した。日本エル・シー・エー社の協力を得て、高血圧、糖尿病、喘息、アトピー性皮膚炎、胃がん・乳がん・大腸がんの疾患を有する患者及びその家族に依頼し、Webサイト上で所定の質問に回答してもらった。対象者はいずれも、同社のWebサイト（「わたしの病院」）の利用者で、この種のオンライン調査に同意があり、かつ今回の調査の条件に該当する人たちの中から任意で選定した。個人情報の扱いに注意し、個人宛のアンケートの依頼は、対象者の名簿を有する同社に委託し、本研究班は、個人情報を除く回答データ並びに集計データのみ扱うようにした。

アンケートの協力を依頼した人数は2,000名であった。内訳は男性1,000名、女性1,000名、また患者と家族の割合も同数とした。疾患別では、高血圧618名、糖尿病407名、喘息595名、アトピー性皮膚炎595名、胃がん・乳がん・大腸がん219名であった。

なお、疾患の種類を5種としたのは、今日、代表的な生活習慣病としてとらえられている疾患（高血圧、糖尿病）、近年患者の増加が顕著で、疾患の解釈や治療法をめぐり様々な意見が出ている疾患（喘息、アトピー性皮膚炎）、治療が難しく、治療法の選択が大きく違う結果をもたらしうる疾患（胃がん、乳がん、大腸がん）毎の傾向を比較するねらいがあった。

質問の内容は、インターネット上で提供される病気や薬などの医療（健康）情報の利用状況に関するもの、掲示板・オンライン会議室や医療相談の利用状況に関するもの、それらの信頼性に関するもの、個人情報の保護や、プライバシーポリシー、Webサイトの運用ガイドラインなどに関するものであった。全ての質問項目を資料1-1に示す。

C. 研究結果

1. 患者アンケート

オンラインでのアンケート回答方法により、2002年2月1日から2月5日の間に、1081名の回答を得た。依頼者全員に対する回答率は54.1%であった。回答者の内訳は、男性401名、女性380名、それぞれの回答率は40.1%、68.0%であった。患者本人か家族かの区別では、患者551名、家族530名、それぞれの回答率は55.1%、53.0%であった。また、疾患毎の回答率は、高血圧53.2%、糖尿病54.1%、アトピー性皮膚炎60.7%、喘息63.7%、胃がん・乳がん・大腸がん合計で49.3%であった。

1.1. 単純集計結果

アンケートの内容と、単純集計結果を資料1-1に示す。

1.1.1 回答者のプロフィール

回答者の平均年齢は37.1歳であった。性別では、男性の平均年齢は41.3歳、女性は34.7歳、また患者の平均年齢は39.2歳、家族の平均年齢は35.0歳であった。疾患別の平均年齢は、高血圧41.4歳、糖尿病38.8歳、アトピー性皮膚炎33.6歳、喘息33.9歳、胃がん・乳がん・大腸がん38.1歳であった。

回答者における年代別の構成は、20歳以下2.2%、20代21.9%、30代40.9%、40代22.6%、50代8.2%、60代3.2%、70歳以上0.9%であった。性別の構成は、男性37.1%、女性62.9%であった。患者本人か患者の家族かの区別では患者本人51.0%、家族49.0%であった。疾患別の構成は、高血圧30.4%、糖尿病20.4%、アトピー性皮膚炎33.4%、喘息24.3%、胃がん・乳がん・大腸がん10.0%、その他が12.2%であった。一人の人が、複数の疾患を有する場合もあった。

1.1.2 インターネットへの接続方法

主なインターネットへの接続方法としてあげたものは、「モデムまたはISDN利用によるダイヤルアップ接続」53.0%、「ADSLまたはxDSL」22.8%、「CATV」19.9%、「光ファイバー」0.9%、「携帯電話またはPHS」0.8%、その他2.5%であった。

1.1.3 よく利用する検索エンジン

医療（健康）情報を検索する時、最もよく利用する検索エンジンは「Yahoo!」61.8%、「Google」13.1%、「Goo」8.3%、「MSN」7.4%、「Infoseek」4.9%、「LYCOS」1.4%、「Netscape」0.5%、その他2.6%であった。

1.1.4 情報の利用頻度

掲示板やオンライン会議室は除き、「インターネットを利用して病気や薬などに関する情報をどのくらいの頻度で利用されていますか」の問いに対して、「ほとんど毎日」7.1%、「1週間に1度以上」15.8%、「1カ月に1～3回」48.4%、「1年に1～数回」28.7%であった。

1.1.5 利用情報について

「利用している情報」（複数回答）については、「病気に関する一般的情報」73.7%、「病気の治療法に関する情報」59.2%、「薬に関する情報」54.9%、「医療機関に関する情報」32.0%、「同じ患者の体験情報」31.5%、「QOL（生活の質）に関する情報」7.5%、「医師に関する情報」6.9%、その他2.2%であった。

1.1.6 利用情報の信頼性

「利用されている情報は全体的にみて、信頼できると思いますか」の問いに対して、「かなり信頼できる」9.5%、「まあまあ信頼できる」83.0%、「あまり信頼できない」7.1%、「ほとんど信頼できない」0.4%であった。

1.1.7 信頼できない理由

利用している情報が、「あまり信頼できない」「ほとんど信頼できない」と回答した人81名にその理由を尋ねたところ（複数回答）「情報の中身の確かさがわからない」61.7%、「情報量が少ない」33.3%、「情報の質が低い」28.4%、「情報量が多すぎる」17.3%、その他8.6%、不明1.2%となっていた。

1.1.8 信頼できるウェブサイト

利用している情報が、「かなり信頼できる」「まあまあ信頼できる」と回答した人1,000名に、どのようなウェブサイトが提供する情報が信頼できるかと上位5つをあげてもらったところ、「大学病院、国立病院」45.2%、「公的な研究機関」42.4%、「患者（個人または団体）」36.6%、「民間の医療情報提供会社」35.7%、「診療所・クリニック」35.2%、「厚生省などの国の機関」31.8%、「製薬メーカー」30.2%、「地域の中核病院」24.0%、「医師会」23.8%、「保健所」18.4%、「薬剤師」12.5%、その他2.1%、不明1.0%となっていた。

1.1.9 情報内容の信頼性の基準

情報を利用する時、内容の信頼性の基準としてどのような点に留意しているかに関し、「信頼できる」と思われる要素の中で重要なものは何かと尋ねたところ（複数回答）「実在する医療機関が提供する情報である」55.0%、「公的な機関が提供する情報である」48.1%、「医師または医師団体が提供する情報である」47.5%、「患者（団体）が提供する情報である」44.7%、「薬をつくっている製薬メーカー自身が提供する情報である」28.5%、「薬剤師が提供する情報である」18.3%、その他2.3%であった。

1.1.10 情報の信頼性を損ねる要因

情報を利用する時、利用者側からみて「信頼性を損ねる」要因は何かと尋ねたところ（複数回答）「誰が情報提供者がよくわからない」67.3%、「情報が一方的で偏っている」60.5%、「情報提供に営利的な要素がからんでいる」58.6%、「情報の作成日が古い」44.3%、「裏付けとなる文献・資料など、情報の出所が不明である」43.8%、「営利企業が提供している」42.3%、「情報に科学性、客観性がない」37.2%、「専門家の監修を経ていない」26.3%、「情報の作成日が不明である」26.2%、その他1.4%であった。

1.1.11 掲示板やオンライン会議室の利用頻度

インターネット上の掲示板やオンライン会議室の利用頻度については、「ほとんど毎日」10.8%、「1週間に1度以上」14.9%、「1カ月に1～3回」27.5%、「1年に1～数回」46.8%であった。

1.1.12 掲示板やオンライン会議室利用のメリット

掲示板やオンライン会議室を利用するメリット（利点）は何かと尋ねたところ（複数回答）「同じ患者の書き込みから参考情報が得られる」61.7%、「病気や治療法に関する情報が交換できる」50.9%、「医師など専門家の意見をきくことができる」33.6%、「医療機関や医師に関する情報が交換できる」24.1%、「自分の意見を書き込むことができる」20.3%、「コミュニケーションを深めることができる」19.9%、「自分の持っている情報が提供できる」12.7%、その他2.4%であった。

1.1.13 掲示板やオンライン会議室の利用時の問題点

掲示板やオンライン会議室を利用する時の問題点については（複数回答）「内容に思い込みや偏見がある」51.9%、「営利、広告目的の投稿がある」46.0%、「投稿者の身分、立場がわからない場合がある」40.6%、「感情的なやりとりがある」36.2%、「投稿者自身のプライバシーが危ないことがある」26.8%、「他人のプライバシーを侵害する投稿がある」25.7%、「誹謗、中傷の内容がある」25.3%、「低俗な表現や乱暴な言葉遣いがある」24.2%、「匿名の投稿がある」20.6%、その他2.6%であった。

1.1.14 医療相談の体験

回答者自身が今までにインターネットで医療相談をしたことがあるかどうか尋ねたところ（同じ内容で複数回のやりとりは1回とみなした）「1回利用したことがある」16.7%、「2回以上利用したことがある」12.0%、「利用したことはない」71.3%であった。

なお、この質問で「利用したことがある」と回答した人310名に、相談の相手がどのような立場の人だったかを尋ねたところ（複数回答）「医療機関のサイトや相談ページで直接は知らない医師」64.5%、「患者（団体）」17.1%、「民間の医療情報提供会社」16.8%、「薬剤師または薬局」9.7%、「製薬メーカー」9.7%、「かかりつけの医師」8.4%、「利用している医療機関の他の医師」7.1%、「医療機関のサイトや相談ページで医療従事者ではない人」6.8%、「医療機関のサイトや相談ページで看護婦や検査技師などのコメディカル」5.8%、「保健所職員」1.6%、その他2.3%、不明0.3%となっていた。

1.1.15 医療相談時の不安

今までの医療相談において、または今後、医療相談などのオンラインでのケアサービスを利用するに際して、利用者側からみて「不安に感じる」のは、どのような場合であるかを尋ねたところ（複数回答）「自分の健康データなど個人情報が守られているかわからない場合」62.1%、「得られたアドバイスが正しいものかわからない場合」58.4%、「相手が本当に実在する医師かどうか確認できない場合」57.2%、「相手が医師など医療従事者でない場合」39.7%、その他1.8%であった。

1.1.16 信頼できる医療相談の相手

オンラインで医療や健康に関する相談する際、信頼できる相手として誰を選ぶかについて、上位3つまであげてもらったところ、「医師」93.1%、「薬剤師」37.8%、「患者（団体）」33.5%、「看護婦・検査技師などのコメディカル」32.2%、「民間の医療情報提供会社」26.8%、「保健所職員」16.8%、「製薬メーカー」11.1%、その他1.3%であった。

1.1.17 個人の医療（健康）情報への取り扱いへの関心

インターネットの普及でプライバシー性の高い個人の医療（健康）情報が、さまざまに流通・利用されるようになっていくことに関し、個人の医療（健康）情報がどう扱われていくかについて関心の程度を尋ねたところ、「非常に関心がある」35.1%、「まあまあ関心がある」54.5%、「あまり関心はない」10.2%、「まったく関心はない」0.3%であった。

なお、この質問で、「非常に関心がある」「まあまあ関心がある」と回答した人968名に、どのようなことに関心があるかを尋ねたところ（複数回答）「どのような目的に利用されているかについて」76.3%、「第三者に利用されていないかについて」64.7%、「誰が情報やデータを扱っているかについて」59.8%、「何の情報が収集されているかについて」55.7%、「どのように内部で管理されているかについて」53.3%、「コンピュータのハッキングや不正アクセスに対して防壁対策があるかについて」44.1%、「保管された情報が間違っていないかどうかについて」29.5%、その他0.5%、不明0.5%となっていた。

1.1.18 プライバシーポリシーの必要性について

インターネットを利用して医療機関や企業が、個人の医療（健康）情報を取り扱う場合、個人情報の取得方法や管理方法に関して、個人情報の取り扱い方針を作成し、これをウェブサイト上で利用者に告知する、いわゆるプライバシーポリシーについて、その必要性を尋ねたところ、「プライバシーポリシーは不可欠である」80.9%、「プライバシーポリシーがあればあったほうがいい」15.9%、「プライバシーポリシーはなくてもいい」1.2%、「よくわからない」2.0%であった。

1.1.19 プライバシーポリシーの運用法について

法的な拘束性のないプライバシーポリシーの運用に際して、第三者機関からのチェックや法的な規制の必要性を尋ねたところ、「プライバシーポリシーを法的に義務づけるべきである」40.8%、「法的な規制もしくは強制力のあるガイドラインが必要である」26.7%、「プライバシーポリシーの策定だけでなく、これを監査・評価する第三者機関の設置が必要である」26.2%、「プライバシーポリシーの自主的な運用で充分である」6.3%であった。

1.1.20 倫理規範やガイドラインについて

インターネット上で提供される情報やサービスの質を確保するため、情報やサービスの提供者が自主的に定めていく倫理規範やガイドラインについてどう思うかと尋ねたところ、「ぜひ必要だと思う」62.8%、「やや必要だと思う」34.4%、「あまり必要だと思わない」2.6%、「必要ない」0.2%であった。

この質問で「あまり必要だと思わない」「必要ない」と回答した人30名にそう思う理由を尋

ねたところ（複数回答）「自主基準の運用のチェックが難しい」33.3%、「すべて事業者の自主性に任せればよい」30.0%、「自主基準では実効性がない」26.7%、「法的な規制があれば充分である」23.3%、その他3.3%不明6.7%となっていた。

1.1.21 自由回答

医療・保健分野においてインターネット上で提供される情報やサービスの質、もしくは個人情報保護の問題などに関して、意見を自由に募ったところ、全部で538件のコメントがあった。（全コメントを資料1-1に記載した）

1.2. 性別によるクロス集計結果

回答者を男女の2群に分け、他の質問項目に対するクロス集計を行った。その結果と分析を資料1-2に示す。

1.3. 疾患別によるクロス集計結果

回答者を高血圧、糖尿病、アトピー性皮膚炎、喘息、胃がん・乳がん・大腸がんの疾患別のグループに分け、質問項目に対するクロス集計を行った。
その結果と分析を資料1-3に示す。

1.4. 患者・家族別によるクロス集計結果

回答者を患者本人と家族グループに分け、質問項目に対するクロス集計を行った。
その結果を資料1-4に示す。

1.5. 年代別によるクロス集計結果

回答者を年代別グループに分け、質問項目に対するクロス集計を行った。その結果を資料1-5に示す。

1.6. 利用頻度によるクロス集計結果

回答者を問3のインターネットの利用頻度の回答によって4群に分け、質問項目に対するクロス集計を行った。その結果を資料1-6に示す。

D. 考察

最初にアンケート回答者のプロフィールについてであるが、今回の調査対象者はすでに何らかの健康上の問題をかかえており、インターネット上で医療（健康）に関する情報やサービスを利用した経験のある、または現在利用最中の人たちであった。

従って、今回の調査で得られた分析データからは、医療（健康）に関する情報を得るために、これからインターネットを利用しようとしている人たち、もしくは今後、病気になった時に利用するかも知れない人たちは調査対象からはずれていることを了解しておく必要がある。

回答者の年齢では、全体の平均年齢が37.1歳と比較的若い数値を示していたが、これは選定した疾患及び調査対象者データベースの構成を反映したと考えられる。各疾患ごとの平均年齢も、それぞれの疾患の罹患者の一般的な年齢層と比較して若い傾向があるが、これも同様の理由と考えられる。

回答の内容を見ていくと、インターネットの接続方法については、「モデムまたはISDN利用によるダイヤルアップ接続」が過半数を占めたが、ブロードバンド接続の可能な「ADSLまたはxDSL」と「CATV」を合わせてすでに4割を超え、今後の急速な普及が予想される。

検索エンジンについては、「Yahoo!」が6割を超え、他を圧倒していた。「Yahoo!」は医療に限らず、生活情報その他の分野でも検索エンジンとしての利用頻度が高く、インターネットへ接続するポータルサイトとなっていることから、アクセスのしやすさ、便利性から、医療（健康）情報の入口としても利用されていることがうかがえた。情報の利用頻度は、「ほとんど毎日」から「1カ月に1～3回」までを合わせて、70%を超えていて、回答者における利用頻度が高いことが示された。

利用している情報の内容については、「病気に関する一般的情報」（73.7%）や「病気の治療法に関する情報」（59.2%）「薬に関する情報」（54.9%）などが、「医療機関に関する情報」（32.0%）や「医師に関する情報」6.9%よりも高くなっているが、これはすでに実際に疾患を有していてすでに通院治療を受けている割合が高く、新規に病気になったりした時に必要とされる医療機関や医師に関する情報のニーズが相対的に低く出たと考えられる。

利用情報の信頼性については、「かなり信頼できる」と「まあまあ信頼できる」を合わせて9割を超えていた。いっぽう、「あまり信頼できない」と「ほとんど信頼できない」を合わせた数字は7.5%であった。これらの数字から、全般的に「信頼できる」とする割合が高かったように見えるが、「まあまあ信頼できる」という回答には、信頼性を強く否定する理由がないかわり、積極的に信頼できているわけでもないあいまいな立場も含まれていることが考慮される。「かなり信頼できる」とする回答者が9.5%に過ぎないことに留意しておきたい。

情報内容の信頼性のひとつの基準として、情報提供者の立場による信頼性については、「実在する医療機関が提供する情報である」、「公的な機関が提供する情報である」、「医師または医師団体が提供する情報である」の順で、信頼性が高いことが示されたが、さらに「患者（団体）が提供する情報である」がこの後に続いた。

また、情報の信頼性を損ねる要因については、「誰が情報提供者がよくわからない」、「情報が一方的で偏っている」、「情報提供に営利的な要素がからんでいる」、「情報の作成日が古い」、「裏付けとなる文献・資料など、情報の出所が不明である」、「営利企業が提供している」、「情報に科学性、客観性がない」、「専門家の監修を経ていない」、「情報の作成日が不明である」などがあげられた。

これらはいずれも、一般的に情報の確実性、信頼性を裏付ける重要な指標であると考えられることから、こうした情報の信頼性を損ねる要因を個別に取り除いていくことにより、インターネット上で医療（健康）情報を提供していく際の信頼性の向上につながられるものと期待される。

次に、オンラインで患者や家族が情報や意見交換をして交流する掲示板や電子会議室の利用頻度についてであるが、「ほとんど毎日」と「1週間に1度以上」を合わせて25%を超え、4人に1人が週に一度以上、また2人に1人が月に一度はこれらのサービスを利用していることが示さ

れた。一般にオンラインの掲示板や会議室は、お互いに知らないものどおしが時間や場所の制約を超えて交流をはかれる場所であるとされているが、回答者があげた目的は「同じ患者の書き込みから参考情報が得られる」、「病気や治療法に関する情報が交換できる」、「医師など専門家の意見をきくことができる」などが上位にあげられていることから、コミュニケーションの実現よりも、情報取得に強い意欲があることがうかがわれた。

一方、この種の掲示板や電子会議室の利用には、オンライン独特の問題があることも指摘され、「内容に思い込みや偏見がある」、「営利、広告目的の投稿がある」、「投稿者の身分、立場がわからない場合がある」、「感情的なやりとりがある」ことなどが上位にあげられた。

オンラインで患者や家族が外の世界と交流できることは、自宅で治療を行いながら社会に参加したり、閉じこもりがちな生活の質（QOL）を高めるためにも有用性が評価されているが、オンライン上のコミュニティに安心して参加するためには、これらの問題への当事者レベルでの対応が求められることも示唆された。

インターネットを介して、患者や家族が医療や健康に関するアドバイスを求めるオンラインでの医療相談については、回答者の3割近くの人がインターネットを使った医療相談の経験があるとして、医療相談の利用が進んでいることが示された。また、この時の実際の相談相手として、医師が一位にあげられたが、この場合の相手は自分がかかっている医療機関や医師でなく、3分の2近くが「医療機関のサイトや相談ページで直接は知らない医師」であった。普段、顔を合わせている医師には訊けないことを質問したり、病院に行く前にネットで相談しているケースがあると推測された。また、相談の相手は、必ずしも医療機関や医師だけでなく、「患者（団体）」や「民間の医療情報提供会社」「薬剤師または薬局」などもあげられていた。一方「かかりつけの医師」は8.4%と低い数字で、医療機関の医師側においては、まだ自分の患者相手と1対1のコミュニケーションをとれる体制になっていないことが推測された。しかしながら、オンラインで医療や健康に関する相談する際、信頼できる相手は誰かと尋ねたところ、「医師」をあげるのが93.1%と、他を圧倒していたことから、今後、かかりつけ医を含め、医師と患者（家族）の間のコミュニケーションに発展の可能性があることも示唆された。

今までの医療相談において、または今後、医療相談などのオンラインでのケアサービスを利用するに際して、利用者側からみてどのような場合に「不安を感じる」かを尋ねたところ、「自分の健康データなど個人情報が守られているかわからない場合」、「得られたアドバイスが正しいものかどうかかわからない場合」、「相手が本当に実在する医師かどうか確認できない場合」などが高位にあげられていた。

個人情報の取り扱いについては、わが国でも個人情報保護法の整備に伴い国民全般の関心が高まっているところである。今回の調査でも、インターネットの普及でプライバシー性の高い個人の医療情報が、流通・利用されるようになっていくことに関し、個人の医療（健康）情報がどう扱われていくかについて関心の程度を尋ねたところ、「非常に関心がある」35.1%、「まあまあ関心がある」54.5%と、合わせて89.6%と非常に高い数字となっていた。具体的には、「どのような目的に利用されているかについて」、「第三者に利用されていないかについて」、「誰が情報やデータを扱っているかについて」、「何の情報が収集されているかについて」に高い関心が示された。

また、医療機関や企業が、個人の医療（健康）情報を取り扱う場合、その取り扱い方針を策定するいわゆるプライバシーポリシーについて、その必要性を尋ねたところ、「プライバシー

ポリシーは不可欠である」または「できればあったほうがいい」の両方を合わせて96.8%に達した。うち、「プライバシーポリシーは不可欠である」としたのが8割を超え、利用者のプライバシー保護に対する関心が非常に高いことが示された。

さらに、このプライバシーポリシーの運用法については、「プライバシーポリシーを法的に義務づけるべきである」が40.8%、「法的な規制もしくは強制力のあるガイドラインが必要である」が26.7%、「プライバシーポリシーの策定だけでなく、これを監査・評価する第三者機関の設置が必要である」が26.2%、これらを合わせて93.7%に達していた。「プライバシーポリシーの自主的な運用で充分である」は6.3%だけであった。

今日、インターネットのような新規の技術媒体がプライバシーやセキュリティの面で予測外のトラブルを招来するかも知れないという不安がベースにあり、これに個人の医療情報が漏れた場合のリスクの懸念が重なり、このような高い関心が生まれてきていると思われる。

今回の調査対象者はすでにインターネットを比較的活発に使いこなしていること、またクロス集計などから利用頻度が高い人ほどプライバシーへの関心が高いことからこの傾向が強く反映されたとみることもできよう。付属資料に記載した自由回答のコメントからその不安の様子が読み取れる。

インターネット上で提供される情報やサービスの質を確保するため、個人情報の扱いを含めて、Webサイトの運営主体者が、自律的な行動基準として定めていく倫理規範やガイドラインの必要性を問う質問に対し、「ぜひ必要だと思う」が6割を超え、「やや必要だと思う」を合わせると、97%に達していた。プライバシーポリシーと同様、きわめて高い割合で、質の確保を目的とした倫理規範を導入することを望んでいることがうかがえた。倫理規範やガイドラインは必要としないとする少数の人たちも、その理由は「自主基準の運用のチェックが難しい」、「自主基準では実効性がない」、「法的な規制があれば充分である」などで、「事業者の自主性に任せればよい」とするのは3分の1に満たず、自主基準では不十分だと考えていた。

E. 結論

医療・保健分野におけるインターネット利用を有効に進めていく上での課題を検討するため、患者や家族など一般の人が、インターネットで医療や健康に関する情報やサービスをどのように利用しているかの状況や意識を分析するアンケート調査を行った。

現在、医療機関や企業、患者（団体）などが提供する情報やサービスについては、概して「信頼できる」としながらも、積極的に信頼できるとする人は少なく、一部には「信頼できない」と考える人もいることがわかった。その理由は、「情報の中身の確かさがわからない」、「情報量が少ない」、「情報の質が低い」などであった。そして、情報の信頼性を損ねる要因としては、「誰が情報提供者かよくわからない」、「情報が一方的で偏っている」、「情報提供に営利的な要素がからんでいる」、「情報の作成日が古い」、「裏付けとなる文献・資料など、情報の出所が不明である」などがあげられた。

また、インターネットを利用して医療相談サービスを体験した人は3割近くのぼり、手軽に利用できる医療相談が普及していることがわかった。ただ、体験者の多くは「自分の健康データなど個人情報が守られているかわからない」、「得られたアドバイスが正しいものかどうかかわからない」、「相手が本当に実在する医師かどうか確認できない」などの不安を抱いていた。

さらに、インターネット上でのプライバシー性の高い個人情報の取り扱いに関し、9割近くの人に関心を抱いていることがわかった。また、8割の人がWebサイトの運営者が個人の医療（健康）情報を取り扱う場合には、その取り扱い方法を定めるプライバシーポリシーが不可欠であるとし、インターネット上で提供される情報やサービスの質を確保するための倫理規範やガイドラインについても、6割以上の人「ぜひ必要である」と考えていた。

これらの結果から、今後、医療・保健分野において、医療機関、企業などの事業者や個人が、インターネットなどの技術媒体を利用して、患者や家族、一般向けに、医療や健康に関する情報やサービスを提供していく際には、個人情報の保護に留意しつつ、情報やサービスの質を確保していくために、自主的に運用可能なプライバシーポリシーや倫理規範、ガイドラインなどが検討されていく必要があることが示された。

アンケートの内容と単純集計結果

資料1.1 アンケートの内容と単純集計結果

回答者プロフィール

回答者人数 1,081名

回答者の平均年齢 37.1歳

1 男性の平均年齢	41.3歳
2 女性の平均年齢	34.7歳
3 患者の平均年齢	39.2歳
4 家族の平均年齢	35.0歳
5 高血圧の平均年齢	41.4歳
6 糖尿病の平均年齢	38.8歳
7 アトピー性皮膚炎の平均年齢	33.6歳
8 喘息の平均年齢	33.9歳
9 胃がん・乳がん・大腸がんの平均年齢	38.1歳

回答者の性別

1 男	401名	37.1%
2 女	680名	62.9%

患者本人・家族の区別

1 患者本人	551名	51.0%
2 患者の家族	530名	49.0%

疾患の種類

1 高血圧	329名	30.4%
2 糖尿病	220名	20.4%
3 アトピー性皮膚炎	361名	33.4%
4 喘息	263名	24.3%
5 胃がん、乳がん、大腸がん	108名	10.0%
6 その他	132名	12.2%

注1：一人が複数の疾患を有する場合があるので、上記数字を合計すれば1,081名を超える。また、%を合計すれば、100%を超える。%は回答者総数1,081名に対する割合である。

注2：その他、自由回答の文章は回答文をそのまま記載した。

問1．インターネットへの接続方法は以下のどれですか？主なものをひとつあげてください。

・モデムまたはISDN利用によるダイヤルアップ接続	53.0%
・ADSLまたはxDSL	22.8%
・CATV	19.9%

・携帯電話またはPHS	0.8%
・光ファイバー	0.9%
・その他	2.5%

問2．医療（健康）情報を検索する時、最もよく利用する検索エンジンをあげてください。

・Yahoo!	61.8%
・Goo	8.3%
・LYCOS	1.4%
・Google	13.1%
・Infoseek	4.9%
・MSN	7.4%
・Netscape	0.5%
・その他	2.6%

問3．インターネットを利用して病気や薬などに関する情報をどのくらいの頻度で利用されていますか？（掲示板やオンライン会議室は除きます）

・ほとんど毎日	7.1%
・1週間に1度以上	15.8%
・1カ月に1～3回	48.4%
・1年に1～数回	28.7%

問4．利用されている情報はどのようなものですか？（いくつでも選んでください）

・病気に関する一般的情報	73.7%
・病気の治療法に関する情報	59.2%
・薬に関する情報	54.9%
・QOL（生活の質）に関する情報	7.5%
・医療機関に関する情報	32.0%
・医師に関する情報	6.9%
・同じ患者の体験情報	31.5%
・その他	2.2%

問5．利用されている情報は全体的にみて、「信頼できる」と思われますか？

・かなり信頼できる	9.5%
・まあまあ信頼できる	83.0%
・あまり信頼できない	7.1%
・ほとんど信頼できない	0.4%

上記で「あまり信頼できない」「ほとんど信頼できない」とされた理由は？（いくつでも選んでください）

・情報量が少ない	33.3%
・情報量が多すぎる	17.3%
・情報の質が低い	28.4%

・ 情報の中身の確かさがわからない	61.7%
・ その他	8.6%
・ 不明	1.2%

患者それぞれや病院によって、症状も治療法もまちまちだから。
 掲載者にとって都合の良い情報しか書いていない。反対意見（副作用とか）の情報が少ない。
 個人差があるのである程度専門医にみてもらった上でじゃないと自己知識だけではこわいから。
 自分と同じ症状や体質かどうか判断できない。
 自分の知りたいことがあまり書いてない。
 人それぞれなので参考程度に考えている。
 専門医師のコメントは数少ないし、民間療法情報は疑わしいものが多く、信じて良いかどうか分らない。
 単なる営利目的の、危険性をはらむような情報が流通している。

上記で「かなり信頼できる」「まあまあ信頼できる」とされた方へ
 主にその情報は、どのようなウェブサイト（運営の主体者）で提供されている情報ですか？「信頼できる」と思われる上位5つを選んでください。

・ 厚生省などの国の機関	31.8%
・ 大学病院、国立病院	45.2%
・ 地域の中核病院	24.0%
・ 診療所・クリニック	35.2%
・ 公的な研究機関	42.4%
・ 保健所	18.4%
・ 医師会	23.8%
・ 薬剤師	12.5%
・ 製薬メーカー	30.2%
・ 民間の医療情報提供会社	35.7%
・ 患者（個人または団体）	36.6%
・ その他	2.1%
・ 不明	1.0%

「21世紀の医療・医学を考える会」
 「教えて！Goo」というサイトがあって、そこには一般の人や、専門家が数多く情報の項間をしています。そこでは治療の経験談などが詳しく書かれており、とても参考になります。
 NGO登録患者団体
 OKweb,バーチャルドクター
 あまり気にしていないので
 かかりつけの鍼灸の先生
 その病気にかかったことのある人の情報

ドラッグストア
 わたしの病院
 医師、薬剤師個人
 医師の個人的なホームページ
 医者自身が個人で立ち上げているサイトで、具体性があり応対に誠意が感じられるもの
 各種情報提供サイト
 患者さんやその家族による掲示板
 健康食品メーカー及び機能性食品メーカー
 個人サイト
 個人でも信頼できそうだと感じる人がいる。
 治験についてのサイト
 治験情報ネット
 自然食品のサイト。
 数名の医師と患者による共同運営（@ニフティの喘息フォーラム）
 専門医本人によるホームページ
 大学などの学術機関、人格的に信頼できそうな医師個人
 民間掲示板

問6．情報を利用される時、内容の信頼性の基準としてどのような点に留意されますか？「信頼できる」と思われる要素の中で重要なものをあげてください。（いくつでも選んでください）

- | | |
|------------------------------|-------|
| ・ 公的な機関が提供する情報である | 48.1% |
| ・ 実在する医療機関が提供する情報である | 55.0% |
| ・ 薬をつくっている製薬メーカー自身が提供する情報である | 28.5% |
| ・ 医師または医師団体が提供する情報である | 47.5% |
| ・ 薬剤師が提供する情報である | 18.3% |
| ・ 患者（団体）が提供する情報である | 44.7% |
| ・ その他 | 2.3% |

あちこちからの情報を合わせて総合的に見ています一件だけでは信用できません。
 あるある大辞典（TV）のサイト
 サイト運営会社自体が信頼できること
 医師及び患者、公的機関が一緒になった情報が是非欲しい
 一箇所だけで判断しないようにしている
 一部新聞などで報道された情報である
 何箇所か検索して同じ回答については信頼できると思う
 怪しげな健康食品等を商品を販売していない。掲示板の書き込みを見たりして。
 試薬サンプルを提供してくれる
 自分が実際学習してきたこととさらに詳しく掲載されている情報であること
 実際に経験されたことのある方の話
 症状などに具体性があるもの。深刻な悩みの吐露など。
 情報の根拠出典を細かく記してある

情報開示度合い（発信側で意図的制限を感じると不信に思う）
 専門家ではなく、経験者
 単一の情報でなく情報の交差をすることで精度をあげている
 中立性
 統計やその患者の体質や年齢を知った上での情報
 特に基準は無い
 内容が丁寧に説明してある情報。
 日本よりサプリメントの情報が外国の情報
 文章からにじみ出てくる雰囲気、および自分の知識と照らし合わせて
 聞き慣れている、昔からある、馴染みのある
 薬なら薬、病状なら病状と絞り込んで情報を提供しているサイト。

**問7．情報を利用される時、利用者側からみて「信頼性を損ねる」と考えられることは何ですか？
 （いくつでも選んでください）**

・ 誰が情報提供者がよくわからない	67.3%
・ 専門家の監修を経ていない	26.3%
・ 情報が一方的で偏っている	60.5%
・ 情報に科学性、客観性がない	37.2%
・ 裏付けとなる文献・資料など、情報の出所が不明である	43.8%
・ 情報の作成日が不明である	26.2%
・ 情報の作成日が古い	44.3%
・ 情報提供に営利的な要素がからんでいる	58.6%
・ 営利企業が提供している	42.3%
・ その他	1.4%

あまりにも主観的過ぎる場合
 健康食品で～が治ったという種類のもの（例300あった血糖値が下がり糖尿病が治ったなど：糖尿病は治らない病態が改善されるだけである）
 公的機関や大学病院のなかで保身的が見え隠れするような感がある。
 厚生省は信用できない。
 質問に対して尊大な言い回しで答える方
 宗教団体がからんでいる。
 商品や薬の購入、販売が目的のようなサイト
 新しいクスリは、怖い。実験だいみたいだから。
 政府機関が意図的に流している
 製薬会社が絡むと信用できない。ものによっては医師会も信用できない。
 専門用語多用、掲示板の不設置、運営サイトの名前や連絡先などの不備。
 他社（他の病院等）とやけに比較し、自分の所を良くいう所
 都合の悪い情報の隠匿または回避
 同じ病名でも個々によって症状が違っているので、必ずしもあてはまるとは限らないから。
 難しい言葉を説明していない。
 本を売るための情報がある

問い合わせ先のアドレスや団体の所在地などが明記されていない
曖昧な表現が多い。薬の副作用などマイナス面が書かれていない。質問に的を得た
答えが帰ってこない。

問 8 . インターネット上の掲示板やオンライン会議室をどの程度利用されていますか？

・ほとんど毎日	10.8%
・1週間に1度以上	14.9%
・1カ月に1～3回	27.5%
・1年に1～数回	46.8%

問 9 . 掲示板やオンライン会議室を利用されるメリット（利点）は何ですか？（いくつでも選んでください）

・病気や治療法に関する情報を交換するため	50.9%
・医療機関や医師に関する情報を交換するため	24.1%
・同じ患者の書き込みから参考情報を得るため	61.7%
・コミュニケーションを深めるため	19.9%
・医師など専門家の意見をきくため	33.6%
・自分の持っている情報を提供するため	12.7%
・自分の意見を書き込むため	20.3%
・その他	2.4%

家だけではないんだと、安心感が持てる
疑問に思っている事などの情報を教えてもらえる
最新の治験情報や新薬申請状況、（インスリン注射）を試した結果など情報が速く主治医の知らない事も知る事が出来る
参照するだけで、利用したことはない
私の見るBBS開設者は糖尿専門医（正確にはそれはないが）だし、親切だし、営利目的ではないので。
自分と同じ病気の人がいて話すと、精神面で支えられる。
自分の個別的な疑問に対してより詳細かつ具体的情報が得ることができる
自分の知りたい事柄について、一度に多くの人に質問することができる。
同じ痛みを持つ方々と話す事により、一人ではないと安心できる。前向きになれる。
精神的な安定。これは私にとってとても大きいです。
特にメリットは感じない
不安に思ったときに相談できる。色々な意見がきける。
本音で意見交換ができる。

問10 . 掲示板やオンライン会議室を利用される時の問題点はありますか？（いくつでも選んでください）

・匿名の投稿がある	20.6%
・投稿者の身分、立場がわからない場合がある	40.6%
・営利、広告目的の投稿がある	46.0%

・内容に思い込みや偏見がある	51.9%
・感情的なやりとりがある	36.2%
・低俗な表現や乱暴な言葉遣いがある	24.2%
・誹謗、中傷の内容がある	25.3%
・他人のプライバシーを侵害する投稿がある	25.7%
・投稿者自身のプライバシーが危ないことがある	26.8%
・その他	2.6%

「感情的なやりとりがある」のが問題というより、感情的なやりとりがあった場合、これを焚付け攪乱する無責任な第三者の介入がある

モラルの低下が著しいサイトが増加中。

意見が間違っているかどうか判断できない

一方通行ではいけないと思う時がある。

営利目的で弱い気持ちにつけ込んで、土足で踏み込んでこられるととても悲しく、情けなく思います。

感想になるが、珍しく上記の内容が少ない。やはり糖尿患者という特定のBBSだからか？

掲示板の管理者が独裁的になってしまうケース（ただし悪意はなく不適切なものを消してしまう）

掲示板上のルールが守られない投稿があっても、管理する側が何の対応もとってくれないことが多い。

荒らしがあるときがある。

内容に関して発言者が責任を持たない。持てない。故に憶測であったりデマである事がある。

本当に知識を持つ立場の人間なのか、それともそれらしいことを並べている偽者なのかわからない。中には自分は専門の医者だという人間もいるが、あきらかに素人だと感じることもあった。

無責任な内容がおおい。

問11．今までにインターネットで医療相談をされたことはありますか？（同じ内容で複数回のやりとりは一度とみなします）

・一度利用したことがある	16.7%
・二回以上利用したことがある	12.0%
・利用したことはない	71.3%

上記で「利用したことがある」方へ

その時の相談の相手はどのような立場の方でしたか？（いくつでも選んでください）

・かかりつけの医師	8.4%
・利用している医療機関の他の医師	7.1%
・医療機関のサイトや相談ページで直接は知らない医師	64.5%
・医療機関のサイトや相談ページで看護婦や検査技師などの コメディカル	5.8%

・ 医療機関のサイトや相談ページで医療従事者ではない人	6.8%
・ 薬剤師または薬局	9.7%
・ 保健所職員	1.6%
・ 製薬メーカー	9.7%
・ 民間の医療情報提供会社	16.8%
・ 患者（団体）	17.1%
・ その他	2.3%
・ 不明	0.3%

かかりつけの鍼灸の先生

医療機関で治療を受けた同じ病気を持つ人。

看護婦

教えてGOOの相談コーナー

正しい治療を呼びかけるホームページの主催者（専門医師）

総合的な掲示板で、相手は恐らくお医者様だと思われました。

問12. 今までの医療相談において、または今後、医療相談などのオンラインでのケアサービスを利用されるにおいて、利用者側からみて「不安に感じる」場合があるとすればそれはどのような時ですか？（いくつでも選んでください）

・ 相手が医師など医療従事者でない場合	39.7%
・ 相手が本当に実在する医師かどうか確認できない場合	57.2%
・ 自分の健康データなど個人情報が守られているかわからない場合	62.1%
・ 得られたアドバイスが正しいものかわからない場合	58.4%
・ その他	1.8%

いくら優れたアドバイスなどもらっても、医療の地域間格差はどうしようもないこと。

データが、他所に流れて、ダイレクトメールなどがくること

プライバシーの問題

医者意見が皆違っていた

一度利用したが、返事が無かった。その後総て医師に相談している。

偽物や嘘つきを見極めるのが困難。

具体的な症状などは、文字などで伝え切れない場合がある

決め付けた回答

見てみないとわからないと断られました

宗教っぽいもの

症状などが正しく伝わっていなかった場合

相談だけなのに結構なお金をとられそうになったとき。

相談内容等を送信する際、メールアドレスが先方に公開される点。

納得のいく意見が求められなかった。

不安解消の一助であって、決定的な判断と仰ぐわけでないのですさほどの「不安」なし

複数の情報・説があってわからない場合

問13．あなたがオンラインで医療や健康に関する相談をされるとしたら、信頼できる相手としては誰を選ばれますか？上位3つまであげてください。

・医師	93.1%
・薬剤師	37.8%
・看護婦・検査技師などのコメディカル	32.2%
・保健所職員	16.8%
・製薬メーカー	11.1%
・民間の医療情報提供会社	26.8%
・患者（団体）	33.5%
・その他	1.3%

かかりつけの鍼灸の先生

サイトを利用してこの人達やサイトは信頼できると思ったとき。

その病気を研究している所

医師の団体というか全国規模の情報提供するような医師団。

患者。経験者

患者の家族

肩書きだけでは信頼できませんが、その人柄やプロフィールが紹介されていると、つい信用してしまいます。

個人的に知っている友人の医師

自分に近い病状の経験患者

自分の症例に詳しい医師

実際治療した患者。

信頼できない

心理カウンセラー

同じ医師でも信頼できる（どこの病院のどんな経歴の名どの裏づけがないと）人物

牧師さん

友人の医師

問14．個人の医療（健康）情報は、プライバシー性の高い情報ですが、インターネットの普及で今後、個人の医療情報が、さまざまなかたちで流通・利用されるようになると予想されています。このような状況にあって、あなたは個人の医療（健康）情報がどう扱われていくかについて関心がありますか？

・非常に関心がある	35.1%
・まあまあ関心がある	54.5%
・あまり関心はない	10.2%
・まったく関心はない	0.3%

上記で「非常に関心がある」「まあまあ関心がある」とされた方へ
どのようなことに関心がありますか？（いくつでも選んでください）

・何の情報が収集されているかについて	55.7%
・どのような目的に利用されているかについて	76.3%

・ 誰が情報やデータを扱っているかについて	59.8%
・ どのように内部で管理されているかについて	53.3%
・ 保管された情報が間違っていないかどうかについて	29.5%
・ 第三者に利用されていないかについて	64.7%
・ コンピュータのハッキングや不正アクセスに対して防衛対策があるかについて	44.1%
・ その他	0.5%
・ 不明	0.5%

どのような利用であっても本人の承諾なしでは許されないと思う

よりよい治療法の発見について

営利目的で利用される（健康食品等の販売）

自分の知らないところでそのような情報が流通したり利用されたりしないか、ということについて

情報を管理している職場の従業員の信頼性（横流しや売買など懸念）。

必要じゃない情報も記入させてないか。

法的な整備。

問15．インターネットを利用して個人情報を取り扱う事業者は、個人情報の取得方法や管理方法に関して、プライバシーポリシーと呼ばれる個人情報の取り扱い方針を作成し、これをウェブサイト上で予め利用者に告知することがあります。医療機関や企業が、インターネットで個人の医療（健康）情報を扱う場合は、このプライバシーポリシーが必要だと思われますか？

（注：ここでの個人情報とは、氏名、住所、電話番号、E-mail、家族構成、病状等の個人を特定できる情報全般をさします）

・ プライバシーポリシーは不可欠である	80.9%
・ プライバシーポリシーはできればあったほうがいい	15.9%
・ プライバシーポリシーはなくてもいい	1.2%
・ よくわからない	2.0%

問16．プライバシーポリシーは、個人情報を取り扱うものが、自主的に守っていこうという基準で、仮に違反があっても、法的な罰則はありません。日本でも「個人情報保護法」などの法律が検討されていますが、プライバシーポリシーの自主的な運用に加えて、これをチェックする第三者機関や法的な規制などの対策が必要だと思われますか？

・ プライバシーポリシーの自主的な運用で充分である	6.3%
・ プライバシーポリシーを法的に義務づけるべきである	40.8%
・ プライバシーポリシーの策定だけでなく、これを監査・評価する 第三者機関の設置が必要である	26.2%
・ 法的な規制もしくは強制力のあるガイドラインが必要である	26.7%

問17．医療機関のウェブサイトで提供される情報は、現在、医療法の広告規制の対象になっていません。その他にも、企業や個人など医療機関以外の運営者から提供される情報もあり、インターネット上には医療や健康に関するさまざまな情報が発信・提供されている現状です。このよう

な中で、情報やサービスの質を確保するための社会的な取り組みとして、情報やサービスの提供者が守るべき自律的な倫理規範もしくはガイドラインのようなものが、国内外で検討されたり、実際に運用されたりしています。

このような倫理規範もしくはガイドラインについてどう思われますか？

- | | |
|---------------|-------|
| ・ ぜひ必要だと思う | 62.8% |
| ・ やや必要だと思う | 34.4% |
| ・ あまり必要だと思わない | 2.6% |
| ・ 必要ない | 0.2% |

上記で「あまり必要だと思わない」「必要ない」とされた理由は何ですか？（いくつでも選んでください）

- | | |
|---------------------|-------|
| ・ すべて事業者の自主性に任せればよい | 30.0% |
| ・ 自主基準では実効性がない | 26.7% |
| ・ 自主基準の運用のチェックが難しい | 33.3% |
| ・ 法的な規制があれば充分である | 23.3% |
| ・ その他 | 3.3% |
| ・ 不明 | 6.7% |

個人が冷静に判断すればいいことだと思う。

情報は送り手側でコントロール（意図的に虚偽を行なわないのは当たり前として）するべきではない。受け手がチェック能力を高めるべき。

問18. 医療・保健分野においてインターネット上で提供される情報やサービスの質、もしくは個人情報保護の問題などに関して、何かご意見があれば、自由にお書き下さい。

いつもヤフーで検索して探すのですが、なかなか知りたい情報をすぐ見つけることができません。もっと専門的な検索サイトがあるとうれしいのですが・・・。

プライバシーの保護をまず第1に考えて欲しい。患者の精神的負担を考えると、法的な拘束力をもつべきだと思う。

情報の性質上、個人のプライバシー保護が重要である。

プライバシ - の配慮が必要

お会いすることなくお医者さんに相談できるのは、うれしいことですし、これからもしていきたいです。ただどこから個人情報がもれているようで、きたことも無い会社から営業の電話がかかってきたりしています。1つのサイトがしっかりしていないために、すべてのサイトに不信感を抱いてしまうのは、悲しいことです。

今のネット上は言い方は悪いがザル、真偽を見極める目（文章途中切れ）情報がこれだけ飛び交う中で騙されない方法を個人々々で考えて見極めなければいけないと思

います。また個人情報に関してはホント嫌になるくらいザルですね、ホントつくづく嫌になります。

プライバシーの問題が最大の課題だと思う。

とりあえずアクセスしてみたいなと思います。

安心できる場ならもっと活気のあるものになると思います。期待しています

インターネットを束縛しすぎると良くないが、自由が多い点も問題。難しいところだと思う。

事業者がプライバシーポリシーにしたがってデータを扱っていても、それに関わる個人がデータを漏洩しないよう、法的な整備を早急にしてほしいと願っています。

真剣に悩んでいる人を中傷する方がみられとても悲しく思います

絶対に情報が漏れないようにして欲しい。

病気で悩んだときに気軽に相談でき、プライバシーも確実に守られるというサービスが徹底できる国になれば良いと思う。

個人情報に関してですが、患者自身のプライバシーの為にも漏洩や利用のされ方にはとても懸念いたします。

何においても営利目的な要素が絡まないことを願う

多くの情報が提供されることは良いことだと思いますが、情報過多にならないようにしてほしいとも思います

個人情報の漏洩が一番不安です。得られる情報の取捨選択はネットじゃなくても個人の判断に委ねられていると思うのでより多くの情報が得られるに越した事はないと思います。

医療相談をしたいので的確に答えてくれるところを作してほしい

質問事項に答えると情報が健康薬品の業者などにながれるのが嫌です

サービスの質により、有料な部分もあっても良いと思う。個人情報は完全な形で保護して欲しい。

信頼できる情報かどうかが見分けにくい。

もう少し、情報の整理されたサイトが欲しい。

夜間休日診療情報病院の設備情報

予防医学の情報サービスが欲しい

セキュリティの強化

モラルに尽きる

非営利の信用できる情報がなかなかないのが難点。

いろいろな情報がえられて感謝しているが、個人の情報がどこまで守れるか確たるものがほしい

サービスの質は請いに越したことはないです。情報が間違っていては大変なので、確かな情報を提供しているかどうかですね。

知りえた情報を絶対に漏らさないという前提に基づいてだったら情報を利用してもいいと思います。

全然知らないところから来るメールにも情報管理に関する恐ろしさがあるが、私的医療関連の情報まで流用されることになれば本当に丸裸にされたことになり非常に不安です。情報の整理機関やモラルの向上のための教育が求められると思います。

信頼が置ける、という過程の元で情報交換を行っていると思うので何らかの登録などあったほうが良いと思う

モラルの向上が必要

個人情報がどのように管理されるのかとても不安があります。わかる方法があればいいのですが。

体験談はなんとなく信じてしまいがち

自分にあった情報が果たして本当に合うのか不安になるときもある。信頼性のある情報を選ぶというのも大変です。

やはり、普段も個人情報はどう流れているか不安はある。今は未成年者なので、そんなに被害は無いけれど。特に医療機関は守秘義務も関わる問題だと思うので慎重に考えて欲しい。

患者の弱みに付け込んだものなどは、排除して欲しい

より地域性の高い医療情報を望みます。

製薬会社、病院の宣伝に利用されないようにする。

信憑性のある情報かどうかが分らないです

情報の提供の日付をきちんと出してほしい。

専門家が答えてくださる場合、専門用語が多すぎて理解不能のときがあります。長い時間かかわってくればそれなりに理解できることもありますが、もう少し、素人にも解りやすく堪えてもらいたいです。(専門家ばかりではないですね)

プライバシーの問題は確かに重要な問題点であるとは思いますが、それは通院でも同じ事ともいえますので、あまり気になりません。それよりも情報の内容が、より具体的に解説していただきたいと思います。あまりにも抽象的に書かれても、実際にどうしたら良いのかわからないという事が多々あるような気がします。

個人情報に関しての安全を第一に考えて欲しい

確かな情報が欲しくてアクセスするので正しい情報が当たり前に配信されることを願います。

今後、より多くの人達がインターネットを利用して様々な情報やサービスなどを利用していくと思うので、サービスの質は信頼性の高いものであることは必須ではないかと思われる。個人情報も高い水準で保護するようなシステムをとっていかないと、悪用されかねないのできちんとそのあたりは考えてもらいたい。

情報は常に正確かつ正直に公開して欲しい。

個人情報保護は扱う人間次第だと思います。身元が明らかでないことややはり載せられている情報全てに不安になります。

僻地や過疎地対策上と医療費がいよいよ高くなればインターネット利用は避けられないが親身な対応を受けられるかどうかである

何よりも大切なのは、プライバシーの保護、信用できる情報だと思います

プライバシー・ポリシーの項目でもあるように、何かを決めるときは第三者のチェックと違反の罰則がないと結局、相手任せで、無いも同じだと思います。私はとりあえず掲示板でもこんな参考意見があるんだな、と意見を聞く・見るだけで参加は

しません。また、住所・電話番号ならいざ知らず（これは極端な話し、何かに一度応募してしまったら後は何回でも同じだと思う！）、病気や健康の情報が自分の知らないところで他人に漏れるのはとても気持ち悪い。特に、とても深刻な病気だったら知られたくないだろうな。

ネットの情報はとても参考になる不可欠な存在である

いろいろな情報を得られるが、最後は「専門の医師に相談してください」ということになる。これなら普通の健康健診と変わりはない。

医療情報の提供がまだ不十分です、体が不自由だからこそ、ネットで調べたいのです。もっと情報を求めます。

あまりにも情報過多になると、何が本当なのか・信じていいものかどうかなど素人ではわからなくなるので、その辺りのことを考えて提供して欲しい。

相談しやすいのが良い。

複雑な問題なのでプライバシーに関してはきちんとして欲しいと思う。

なんといっても、正確な情報が欲しいです。病院のランクづけが出来ると良いのと思います。

いい情報を載せてほしい。

インターネット上での医療情報は、プライバシーの事もありますし、まだまだ試行錯誤段階という気はします。また、第3者のチェック機関の必要性は強く感じます。

これからは倫理規範もしくはガイドラインが絶対必要になってくると思うので、早期実現を願います。

他人に知られない工夫は非常に大事だと思う

積極的に使いたいと思う。

医療について調べている時は、なるべく個人のHPより、企業や病院のサイトにいくようにしています。そうしないと、間違いが生じた場合困るので。。。あと、個人情報情報が絶対もれているようでネットは怖い存在です。

色々な病気で悩んでいる人たちのためにも情報提供はとても大切だし必要だと思いますが、情報が多すぎて迷うことも有ります。1つの公的な機関を作って欲しいです。

公正な情報が欲しい

情報の流失の事を考えるとなかなか参加できない。

翻訳ソフトのでは訳に不安が残るので、海外の医療情報などを翻訳して提供して欲しい。

営利目的の情報が多すぎるので、情報の取捨選択ができるよう個々が訓練しないといけないと思う。

病気のこととかもっと細かく説明してくれるといい。割とどこも同じ事書いていてもっと突っ込んだところが知りたいのになと思うことがよくある。

保険のきく範囲内でテレビカメラで患者を写し、医師が指示を与えて家族が簡単且つ的確な介助ができれば良いと思う

現在、きちんとした基準がないため、情報の判断に困ることがあるので、基準を早急に確立して欲しい。

個人情報の保護はきちんとやって欲しい。

どうしても、悩みの確信に入りきれず、知りたいことの答えになっていないのでは、と思う

治療の方法についてさまざまな意見が当然存在すると思うが、どうしても一面的になりがちそれが最大の欠点

顔が見えない分、相談しにくい事でもしやすくなるというのはいいと思うが、相手の情報が信頼性のあるものなのかとか個人情報は守られるかなど不安な面もある。

詳しく知らなければならぬ病気にに関する情報が個人に隠されがちな今、医師以外にハッキリと聞ける場所が欲しいです。

個人情報の流失が怖い

本当に必要な情報が集まるようなシステムがほしい。

CMの要素が多くある

障害者などこのようなサービスがあればとても助かる！実現するには諸問題があるだろうが、焦らず確実な方法で実現して欲しい物だ！ITこそ障害者の新開拓地であるから！

さまざまな症例に対応するように、窓口を広げて欲しい

やはり、情報は間違いのない正確なものでないと困ります。個人情報保護も絶対に必要だと思います。

情報の信頼性、正確性はしっかりして欲しい。

掲示板の書き込みを時々するのですが、匿名でも管理者の方にはこちらの情報など分かってしまうのでしょうか？そういった事が不安です。

人によって病気の対処法が違う場合どれがいいのか分らない。なので実際の症例の写真や詳しい情報など、患者の判断基準になるよう情報量とともに情報の質が高まるといいと思う。病気は特に人に知られたくないから個人情報保護は最低限当たり前！と思う。

相談しにくい病気ほど、インターネットによる情報がほしいのですが、個人情報漏れるのではという不安と抱き合わせになっています。

言葉が難しい。

プライバシーの保護がどこまで守れるかが重要になると思う。

医療機関がもっと積極的に病状の具体例や治療法などを公開してくれれば、利用も増えると思う。

ネット情報に頼らなければいけない状況ではないので直接医療機関に行くほうが安心できる。

患者数の少ない病気についても、取り上げられるようになればいいなと、思います。少ないゆえに情報があまりない。

自分の健康状態がどうであるか、どの様な病院に行ったら良いか検索できると良い。

個人情報の保護などについて、第三者機関のチェック機関が必要と考える。

サイトが増えるに従い、情報やサービスの質は良くなっていると思う。個人情報の漏洩は心配である。

地方などの医療機関情報量は、とても少ない。HPを持たない個人病院が多く、内容が偏っている。

情報はほんとに確かなものかインターネット上ではわからない。

一つ一つもう少し充実した情報が欲しいと思う事がある。尻切れトンボで終わって、また他を探して・・・時々疲れる。特に公的機関は解かりづらく、利用したいと思わない。

信頼できるものであれば必要と思うが、そうでなければ意味をなさないと思う。

医療のことの本当の相談は難しい。

納得のいくまで、最後まで相談にのってくれるとありがたいなと思っています。

営利目的のためのものもあるため、なくして欲しい。

医師の数が少ない地域では、インターネットを利用した健康相談等が必要ではないでしょうか

個人情報の守秘義務は必須の条件であると思うので厳重な保護が必要で有ると思います。管理側のモラルも大変重要であると思います。

厳しすぎるくらいの法律、保護があるほうが健全な運営につながると思う。

自分の病気などに関しては、非常にプライバシーを含むものであるので、必要最低限の個人情報保護は必要であると思います。

すぐに返事が返ってくれば良いが、返ってこない場合返ってくるまで待たなければならない。

私だけでなく、家族も病気で悩んでいるので、これからも、もっとこの種のサイトを利用したいので、更なる内容の充実を期待します。

製薬会社のホームページで薬の検索をする場合、医療従事者のパスワードが必要な場合があり、病院で出された薬についての情報が得られない場合がある。

医療情報は1歩間違えば生命の危険を伴う事なので情報の供給においてはその信憑性を確実にする事が必要であると思うので、その根拠を明示する必要があると思いますし、又個人情報については、目的以外の用途に使用されるよう管理を強化して欲しいと思います。

情報の漏洩に注意してほしい！

難病の新しい治療薬の開発状況等に関する情報が提供されるようになって欲しい。

娯楽や営利を目的とする性格のものではなく、本当に公共性の高いものが求められる

誰もが安心して、利用できるようになって欲しいと思います。

情報の質については、信頼の置ける公的機関の情報が少ない。

インターネット上で提供される情報やサービスの質は一人一人が充分注意して扱わねばなりませんね！

対面でなく、質問でき情報が得られるという利点があるので、どんどん伸びて行って欲しいです。全般的な情報と地域の声による（良い病院等の）情報が得られると有難いです。

プライバシーが重要

もう少し病気の症状など詳しく書いて欲しい。

個人の思い込みなど偏りも予想されるので、公正な第3機関が必要。

病院の格付けをおこなしてほしい。

将来、インターネットでの受診とかが可能になれば、便利とは思いますが、それには、プライバシーポリシーを法的に義務付け、監視して罰則も設けないと安心できないと思う。

確実な内容だけを、患者は求めている。

最新情報を多く欲しい

医療に関する情報はたとえそれが、ボランティア的なものであっても、薬などと同じ様にある種の規制があってしかるべきだとおもいます。患者は時にはワラにもすがらうような気持ちで情報を求めるのですから。

近医に専門医がいない場合、症状にどう対処していくべきか、ネットで検索する程度。基本は病院へ行き正しい診断および投薬を受けるべきと考えている。

個人情報が漏れるようなことがあってはならないと思います。管理する側は十分な注意を払うべきだと思う。

医師の個人的エッセイのホームページなどを見ると、客観的な情報がある場合が多いです。

今後も検索の利便性を追及して欲しい。

病気のことを自宅でも簡単に調べられたり相談できたりすることができ、とても便利だと思いますが、その個人情報外部に漏れてしまうか心配です。特に健康に関することなので、病気をもつ人間にとっては「治る」という情報があると少しでも多くの情報やクスリなどが欲しくなるもの。そこに目をつけて、その情報を元に、悪徳商法などされると大変迷惑です。

プライバシーの保護

人の生命に関する問題であるだけに慎重にして欲しい。

現在私が知っている限りでは、大手の信頼感の有る業者が皆無で、病気ごとに探すのに苦労しています。相談のメールを送ったら、変な広告メールがさかんに入るし。

痛風に関しての情報が最知りたい

インターネットは疾患によって医療システムを変える可能性が多分にあります。きっちりと法改正や対応を行い医療として確立していくべきだと思う。

本当に実在するものであるかが一番不安に思われるところです。

何処までがプライバシーなのかよくわからない。情報の真偽を誰が判断して誰が責任を持つのかわからない。

ハッキング行為によって外部へ情報が流出すると言う最悪の事態に成った場合、情報提供者である私達に取って一番我慢できず、不快な思いになるのが医療や掛かっている病気に関した全ての個人情報です。従って行政が一刻も早く、今後ネット上で遣り取りされて行く可能性が極めて高いこれらの個人情報の管理と取り扱いに対して厳しい罰則を備えた法的な牽制を作って欲しいと切に望みます。又、こうした個人情報を扱う団体や医療機関、そして携わる全ての人の心に絶対に悪用しない心構えと良心的な姿勢を期待するものです。

個人情報の流出は、法的規制を設け、またこれを強力に監視して絶対に防がなければならない。

現在は守られている保証がありません。その点に於いて真実の意見を集めにくくなっているように思います。

ほんとに、信じていいのか、不安になることがある。

見る側の自分たちも真偽を見分ける目を持ちたいと思います。

病気に関してはとても神経質になる場合が多いのでいい加減な情報が流れないように

にしてほしいです。

患者にとって有益な情報は公開して欲しいがプライバシーや営利目的のみの情報の公開は肯定できないです。

医師や医療機関の間でいかにもうけ主義が横行しているかがよくわかる。

やはり一番安心するのは同じ状態に陥っている人との情報交換などであると思う。

まもなく、国民総背番号制が始まるが、医療の個人情報と背番号がリンクされることには、反対である。

知りたい情報へたどりつくのが難しいときがある。

営利目的かなと感じさせるようなものは嫌だなと思う。

インターネットは便利ですが、その分自分のプライバシーなどに注意しないとけないと思います。個人するには限界があるのできちんとした対策が必要だと思いました。

どの分野でもそうだが、本当に正しい情報かどうか、個人が判断できない状況は好ましくない

薬のランク付けをして欲しい。どの薬が弱い強い。どれ位の期間だったら使用して良いか

正しく親切な対応を希望します。

専門的な用語も必要ではあるが、もう少し誰にでも分かりやすい説明文も必要だと思う

非常に参考になり、今後も掲載願いたい。

難病についてもっと詳しい情報を知りたいです

人によって意見が違うので惑わされる。こればかりは仕方ないかも知れないけど、却って不安を煽るような気がする。

個人情報などの漏洩がないようなセキュアなインフラ作りを早急をお願いしたいところです。現在、セキュアネットワークエンジニアとして就労していますが、今後将来このインターネットのインフラにおいてセキュアな環境は必要不可欠だと思いますし、この環境を利用すれば多方面への応用が利く他、素早い情報交換、収集ができる事は間違いないと思っています。

医療についてもっと気軽に相談できるところがあればナと思います。

もっと、インターネットを有効に利用して、医療の相談や情報収集ができればいいと思うが、個人情報の保護が心配であまりできないのが正直な所です。

掲示板などで患者を装い健康食品を売りつけたい事がみえみえの書き込みが多すぎます。

本当に知りたいことはあまりわからない

提供されている情報がまちまちで、違って戸惑うことがある。

きちんと管理して欲しい

個人情報等不正に利用されたときの法の規制強化を

最近、知人に教えてもらってネット上での医療の情報を見るようになりました。提供者が不明な情報は信用性にかけるとはっきりして欲しいと思います。

以外に知りたい情報が少ない。薬で言えばフルツロンに関して実際の効力とか知りたい。厚生省も信用出来ない。

薬品メーカーは営利目的がつきまとうので、あまり信用できない

個人データの外部への漏洩と目的外の利用制限をさせないための措置を講じることが必要だと思います。

正しい情報、サービスを期待します

今後も参考にしていきたい

プライバシーが、どれだけ保護・守られているのか。不安です。でも、聞ける場所が無いので、情報を得たいがために、インターネットを、活用してます。やはり不安です、情報の、漏れや、他の人に知れたりするのは。

現在は様々な情報が入り乱れ、信憑性もはっきりしないことがあり信じてても良いのか不安なこともあるが、多くの情報が得られることはありがたいことだと思う。

インターネットの普及によって、個人のプライバシーが守られるかどうか心配。

病院関係者だと思っていたら全く関係ない方でした。そんな方がいかにも何でも知ってますみたいに対応されるとその方の本質を疑いますし、顔が見えないのでからかっていらっしゃるのではないかと思ったりすることがあります。

一般的な内容が多いので個人のサイトの方が私は好きです。

個人情報の法整備

病気の相談内容など、個人情報の管理は完璧にしてほしいと思います。もし違反などがあったら、相談者に対して賠償金などの保証をするべき。

なかなか病院では医師に聞きにくいこともネットを通じてなら考えながらきくこともできるので、ぜひ普及して欲しい。

もしも漏洩した個人情報が営利目的に使われれば、医療関係の個人情報の漏洩は一般的な個人情報の漏洩よりも危険だと思う。わらをもつかむような患者心理というものにつけこまれれば、大変なことになる。

医療ミスも患者の勉強不足からおこりうる事もあるので、何でもかんでも医療ミスと言うのは・・・だと思います

宮崎市の身体障害者は医療機関にかかったら1ヶ月1,000円を超えた場合、その1,000円を除いた金額が戻ってきますので現在の医療にあまり不満はありません。

個人情報の保護は必ず強化するべきだと思います。

実際病気などプライベートなことなので、管理者や利用者の身元が明らかになる方法が必要であると思う

医者からの詳しい症状などの解説がわかりやすくのっているホームページがたくさんあればいいと思う。また日本全国の詳しい病院検索ができるサイトがあればいいと思う。

24時間いつでも相談でき、かつ迅速に対応してもらえれば嬉しいと思います

インターネットのメールでは、伝わりきれ無い所があるので判断しにくい所があるように思います。

何が正しいのかよく分からないことがある。これは困る。

客観的な情報を。

緊急で情報が欲しい場合がとても多いのではやく確実な情報が整備されると嬉しい。

今のところ特に感じていることはありません。

安心して利用できるようになって欲しいです。情報にしても、実際に耳で聞いているわけではないので、どこまで信頼できるか、今のままでは不安が残ります。

あまり偏りがないように医者や患者、経験者、様々な人の意見が同時に閲覧できるHPがほしい

今後に期待しています。

本当に信頼できるサイトの確立を早急に望みたい

以前医師のサイトで質問をしたが返答が来たのが2日後だった。できればもっと早い対応をしてほしい

今の段階では、自分や家族の病気に対して、まだ十分にすべてを打ち明けるような環境下にあるとは思えませんね。ネットでは顔が見えない分、信頼感系が薄いような気がしますね。

とても参考になっている

親切に相談に乗ってくれていると感じられるHPもたくさんあるが、そうでない役所てきなHPもある。

読む側は信じるしかないので誠意をもって作成してほしい。

個人のサイトは思い込みが激しい部分があるので、問題が多い。

公平な判断が患者、医療機関それぞれに必用不可欠である。

情報サービスの質が低下し、営利目的が氾濫しつつあります。個人情報保護を守ってほしいです。

かかりつけの病院のような存在がほしい

忙しくて書店などにも足を運べない人も多いので、ネットでの情報の入手の需要がこれからは増えると思います。提供者がはっきり分かる情報の方が信頼できると思います。

信頼性の基準となるものが必要。

やはり他人に知られたくない事もあると思うので個人情報の保護をしっかりとしてほしい。

相談した相手が医者だと信じているが、違う場合も考えられるし、やはりなんだか怖い。個人のプライバシーに対しても守られているのかどうか不安。

どこで個人情報等が漏れる・盗まれるかが非常に心配であります。

安心して利用できるように、まだまだ色々な問題を解決して行って欲しい。

商売が目的の情報は排除すべし

医療に関しては命の存続に関わることもあるので、他サイトよりもセキュリティーやプライバシーを守る必要があると思う

プライバシーの保護を強化して欲しい

情報は溢れているが、必要なものはわずか。

症例として紹介される人はちゃんと許可など取っているんでしょうか？勝手に載せられたら顔が写っていなくとも不快だと思うんですが。

相談に答える医療従事者は実名が原則だと思う

出所がもっと明確になれば・・・

医療情報に関しては正確な情報で無い場合必ず明記して欲しい

知りたい情報が正しいものかどうかは、医療情報ならとくに気になります。そろそろ法的な規制があっていいころと感じています。

ネット上の情報は、どんな内容であってもつい信用してしまいます。出来るだけ、同じ分野で情報交換等、連絡を取り合い、情報が統一されるといいなと思います。

医療機関では直接聞きづらい事が多いので、こうした情報はとても有意義だと思う。医療機関のスムーズな運営のためにも多くの病院でサービスの場を提供して欲しい。

情報の出所を表示義務化

個人情報保護の問題は絶対に他に漏らさないよう厳重に管理してほしいです。

本当かどうか分からないので、話半分で聞く。実際には病院に行く。

訳の分からないところからの、ダイレクトメール（e-mailや郵便や勧誘の電話）がくる事があるので、インターネットから情報が漏れているのではないかと心配である。

私自身、公的機関の情報は信用していませんし、製薬会社等の営利目的があると思われるところからの情報も信用しませんので、情報の質、サービスに関するガイドラインは必ず必要だとは考えますが、結局、情報を受け取る側のその情報を見る目を肥やす事も肝要かと考えています。またプライバシー保護に関しては、サーバー等のセキュリティーの強化及び倫理の規範等のガイドラインの作成も必要ではあるが、結局はプライバシーは、自分で守るものだとも考えます。

うんちくが多いのは困る

とにかく信頼できる事が一番大切だと感じるので、その観点で選択していくつもりだし、法的な規制も期待したい。

個人情報に付いては、当然保護されるべきであるが、手術などで病院を替わる場合に、又ーから調べなおすような事が行われているが、電子カルテ的な物を医師同士がやり取りしてそういう無駄な時間を省略するようにした方がいいと思う。

患者自身による体験談は、非常に参考になります。

自分自身のことも家族のこともネット上で相談したり、必要とする情報が得られたりできたら嬉しいが情報が漏れるかもしれないと思うと相談しづらいかもしれない

自分の弱い部分の相談なのでプライバシーの問題が心配ですが、深く知りたい情報もあるので難しいと思う事もあります。

まだまだ情報不足だと思う

アンケートといっても本当に答えて良いのか心配なのが本心です。営利目的で使われるのではないかという考えがあります。

インターネット上での無料診断。

プライバシーは完全かつ安全に守られるべきですが現状では難しいのかなとも思います。

サイトによって差があるのが不思議で仕方ないのだが情報に統一性を持たせるべきだと思う。

個人情報は守られるべきだと思います。

企業が提供する商品のように、各医療機関の商品を（医者や看護婦その他総ての項目）比較表示か絶対表示をして患者側が誰が良いか何処が良いか選べるようになれば嬉しい

情報の裏付けがない場合や不確かな情報が氾濫しすぎていて惑わされます。可能であれば法的規制を、また最低でもガイドラインを作り信頼度の高い情報を提供してほしいと思います。

いろいろな科から総合的に見て、アドバイスをしてもらいたい。

こういったアンケートでも個人情報が守られているか心配です。

やはり個人情報が漏れる心配を感じます。

個人情報の保護は全てにおいて重要である

相談の内容によっては人に見られては困る物があると思うので、情報の保護には十二分に気をつけて欲しい。

信頼性が図れる基準が客観的にあるとよいと思います。

やはり個人情報はお金になるので、それを守って欲しい。

個人の病気はプライベートな問題なので、情報の保護には細心の注意を払って欲しい。

利用する側ではなんら情報をとる手段がないため、情報保護が正しく行われているかどうか、普段から非常に不安を感じている

ネット上はプライバシーはないものだと思っているが、病院の予約などはネット上で行えれば良いと思う。

個人のプライバシーは守ってほしいのと、信頼のおける情報を簡単に検索できるようにして欲しいと思います。

プライバシーが侵害されないか心配

提供される情報は、常に更新をしてほしい。いつでも、新しい情報がほしいからです。

信頼性の確保について重要なのできちんとしてほしいです。

病院へ行くほどではないが知りたいことがある時とても便利であるのですばやい対応が出来ることを望みます。

医療（健康）情報のプライバシーは悪用されると個人に大きなダメージを与える結

果になり得るので慎重に検討するべきだと思います。

薬のことなどでも詳しく調べられ便利ではあるが掲示板などの利用の際の個人情報の掲載は不安である。

個人情報保護の徹底は不可欠だと思います。サービスの質はもっと高くなることを期待しています。

これからも皆がわかる薬、病気について御願います、有難うございます。

プライバシーポリシーの確立が不可欠だと思う

インターネットである利点を多いに生かしつつ、けれどもこちらにも心があるという事を、情報を発信する方も分かっていて欲しい

インターネットで手軽に得られる情報の貴重さは大切なのであまり規制で縛りたくないのが本音です。

よく、どこか1つに自分の情報を提供したら、いろんなところからメールが来たりする事があるので、そういう情報のかんりは十分に責任をもって管理して欲しいと思う。

個人の情報が管理者側のミスにより外部流出する危険性がある。

成人病の中には、(病は気から)ではないが、生活改善につながれば癒される病気もあります。その様な情報は許されるべきです。

わらをもつかむ思いで情報を探す患者の気持ちをよく考えて情報提供してほしい。

多くの情報があるが、自分の状況にマッチしているか、判断するだけの自己知識は必要。

質の高い情報が安心して安価で利用できるようになることを望んでいます

情報の信頼性が必要

昔に比べ今は欲しい情報をすぐに調べることができるのでとても便利になったなと思っています。ただ、自分がアンケートなどの答えた情報がしっかりと守られているかということに関しては少々不安がありますが・・・でも今まで情報が漏れているかも、と思ったことはなかったので、といえず安心してます。

両親の場合、ネットはあくまでも情報収集の場と捉えている部分が大きいようです。

「情報と一緒に、最寄の安くて腕の良いお医者さんとか、紹介してくれるといいんだけどねえ。」(母・談)

今のところは、特に思いつきません。

個人的なそうだんは、有料でも良いと、おもいます。信頼できる基準が今は、あいまいなので、かいぜんしてほしいと、おもいます。

自分の症状がどうなのか、病院に行く勇気もなく、誰に聞けばよいのかわからない場合など、インターネットは非常に便利なものだと思う。そこで、信頼の置ける医師などに会うことができれば非常にありがたいが、そのためにはやはりある程度の個人情報、つまり、どこの誰なのか、どのような実績があるのか、がわからないと信頼するのは難しいと思う。また自分の情報も相手に知ってもらわないといけないうし、個人情報が公にならないようにする為の対策がしっかりしていればありがたい。また、ほかの方の様々な例を聞き分かち合える場所が欲しいと思う。現在でもあるのだろうが、いまひとつ、わたしがインターネットを使い込ませていないだけかもしれないが、より手軽に相談できる場所が欲しいと思う

アンケートなどをよくやるのでいつどこで自分の個人情報が漏れているか分からないので心配です

ちょっとしたわからない質問に無料で答えてくれるお医者様がいれば安心だが結局は受診して下さいという事になりその後受診してもお金になりそうになれば冷たくあしらわれる事が多い。

核心の部分についての相談は医師への診断を薦めるものが多いので、できたら的確なアドバイスがほしい

すぐに(数日で)返事が来るコ - ナ - が欲しい。

うわべだけの、いいかげんな判断・対応でなく、患者の身になって正確なデータ、情報を提供して欲しい

明確な情報を、分かりやすく公開し、相談者に対して、プライバシーの配慮を望みます。

きちんとした罰則がないのがおかしい。早く整備してほしい。安心してインターネットでのサービス利用ができない。

情報は必ず両面から述べた上で、受け取り手が自分でそのどちらかを選択するようなものであってほしい。偏りのある情報だけでは自分で比較検討できないと思う。

どこまで個人情報保護されているか見えないだけに、とても不安になります。(別のケースですが、海外通販で利用したカードが悪用されていたことがありました。)アンケートなどでもどこまで正直に回答していいものかいつも迷います。得策があればと思うのですが・・・。

個人情報保護を間違いなくしてくれる、安全なサイトをわかりやすく紹介して欲しい。

安心して情報を得たり提供できたりできるようにお願いします。

情報提供には本人の許可が必要である

プライバシーの保護のため、個人情報の管理に不安を感じることがあるので、セキュリティを万全にしてもらいたいと思います。

ネットは、不特定多数で共有してるので、色々な情報が仕入れられる反面、プライバシー問題が、課題になるわけですけど、ネット上に、やはり、ブラックリストを作れば良いとおもいます。IPアドレスや、メールアドレスなどを、キーとして、そのリストは自由に閲覧し、載ってる人への情報を制限させる。

インターネットを利用した専門医師などの医療相談が充実していくと良いと思う。

情報漏洩のないことが一番

個人情報の保護は罰則規定も含めて厳しく規制されるべき

個人情報は、サイト主がモラルがあるかないかで漏れたりすると思う。アクセスを求めておきながら図々しいというか常識がないというか。本当に悩んでいる人もいるわけだから詐欺まがいのことをしないでほしい。

特に損なわれない限り、共有の情報として提供することはやぶさかでない。

これまで医療・保健分野のサイトをたくさん見てきましたが、今回初めてその安全性について考えさせられました。

個人情報は、人が扱う以上、絶対安全は、ありえないと思います。

やはり個人情報の管理が一番である。

やはり健康に関する問題は慎重にすべきである。

いつ誰が見ているかわからないのが保護をしても無駄のような気がします

情報に対するソースは常に明確にする必要がある。

個人情報に関してはかなりデリケートな部分が含まれているので当然保護されているもと認識したい

やはり、個人のプライバシーが守られないと、情報の提供ができないので、きちんとしてほしいです。

プライバシーの保護が重要

個人の医療に関する情報が生命に関わる事でもあるので、情報管理は2重3重にガードするシステムが必要だと思います。

情報が有りすぎて良く分からないところがある。

これからもネットを使い医療に関しての確かな情報を得ていきたいと思います。

新聞社や通信社などの信頼できるところが、参加しているサイトやページが利用しやすいと思います。

怪しい商品を扱っている業者を取り締まって欲しいです！！

患者同士の情報はとても信頼でき、いろいろ参考になる。しかし営利目的の為のたましの情報があっても、それを指摘する声が出ると思うし、匿名のやりとりでも信頼できる。うそはすぐわかる。

十分実証されている情報をもっと多く提供すべきである

個人情報をきちんと管理して欲しいです

やっぱり、インターネットに提供している情報がどれだけ信用のできるものかが、一番大切だと思います。もし、間違った情報が載ってたりして、患者さんたちや家族が見て、その情報を信用して、食生活などを参考にしたら大変な事になると思うので。

どういうものがどういう症状に効くといった情報はさまざまにあって、それはそれで大変参考になり有り難いと思うが、科学的根拠や安全性については少し疑問を感じざるをえません。医療や健康に関する色々な有益な情報、最先端の医療技術や治療法についての情報などは、厚生省が責任をもってまとめたりアップデートしたりしてもっと積極的に広報して欲しいと思います。

法的に守られてインターネットがしたい。

無責任・関係のな投稿がおおいので参加者の登録もしんちょうに

ネットでの犯罪もたくさんあるので、情報がきちんと管理される必要があります。
それに、質も伴って欲しいと思います。

単に病気の回答だけではなく、不安を感じている心をケアするような回答があれば、
良い。(実際にこのような回答があって嬉しく感じた)

上記の続き・・・受け手のチェック能力を高める教育、啓蒙は公的に在ったほうが
良いと思う。

プライバシーの保護だけは徹底してほしいと思います。

相談した場合、ぜひ返事が欲しい。返事がこないことが多い。

病気をかかえる弱みにつけこまれることがないように、チェック機能が必要と思
います。

私の場合は特に問題ないが、死に直結するガンなどの病気の場合は公正なチェック
が重要かと思います

心配です

どうしてもセキュリティが気になる

個人情報が漏れない、利用されないことを望みます。

プライバシーの保護は充分されるべきである。

ネットと医療は必ず、今後ドッキングしていき、健康な人へも情報を提供するとい
う点で利用価値がある。

インターネットの情報は、便利な反面プライバシー流出の点で利用をためらいがち
です。それが医療・保健分野ならなおさらで、これを解決しなければ利用者は増え
ていかないと思います。ぜひチェックする機関の検討をお願いします。

開業医のHPは営利目的のものがまみ見られる

薬の内容などしりたい。

医療情報はあくまで参考程度にしているが、より良い医療機関を選び適切な治療
を受けるために、幅広い情報を集めたいと思っている。厚生省に対してはあまり信頼

がおけないので、ウェブ上で自由に発信されている情報を色々集めたいと思う。

プライバシーはぜったいに大切だとおもいます

インターネットでのプライバシーについてどのような保管がされているのか分からない事が多い。これからは、法的な面でも義務づけも必要になってくると思う。

本当に誰が必要としている情報が欲しいのできちんと市場調査に心がけて欲しい

どの情報が正しく利用できるのか不安な面があります。安心して利用できるような環境を作ってほしいです。

情報の正確さが気になります。間違ったことをうのみにしていると生命に危険が及ぶこともあるのではないかと不安はあります。

問題ではないのですが、少しの事を聞きたいときにネット上では便利です。带状疱疹も診断され当たってたし。ただ、知れたくない病気はネット上では公開しません。

やっぱり、漏洩はさけてほしいです。...多分ムリだと思いますが。

正確で、詳しい情報が欲しい。

出来るだけ最新の情報を掲載して欲しい

個人の秘密は守って欲しい。

早く安全に情報交換できるように、法の整備をやって欲しい

相手が見えないだけにプライバシー保護には十二分の配慮を望みます。

個人情報をもらすことなく利用できるサイトがあれば、それを利用したいと思う。

いろいろな方の情報を家にいて得られることは、大変便利で良いことだと思いますが、情報の正確さや個人情報の保護など、まもらなければならないこともたくさんありますが、病気を持つものとしては、とても貴重な情報確保の手段ですので、これからますます、伸びて行ってほしいです。

更新がされてない古い情報のものが多い。

信頼できる大手の企業サイトでしか相談しないし、その人のプロフィールや写真がないと不安。

質の高いサイトならぜひ利用したい。

まずは情報の充実が先決。規制はその後で良い。

この分野に携わる人に対して聖職者としての倫理感を望む。

金銭的なトラブルが起きないようにねがっています。

医療に関して新しい情報は欲しい一方、こちらの情報を提供する場合、とても大きな不安があるのは事実です。完全に洩れることのないセキュリティのもとで、プライバシーが守られるなら、大いにインターネットで相談も情報提供もしていきたいです。

古い情報はあまり意味がないので常に最新の情報が欲しいです。

検索で探したりする時に、検索してもなかなか目的のページにたどりつきにくいのももう少し分かり易く検索できるような医療機関のホームページをこれからはどんどん作って行って欲しいです。

情報提供先を明確にして欲しい。

利用者が、安心して利用できるサイト、サービスであって欲しい。一度でも、イヤな目に会っていると、そこには二度と行かない。

病気の治療においては、個人にあったものがあると思うが、情報の収集が出来、知識的にも理解出来るなら大変便利であると思う。

匿名禁止と弁護士等による管理につきと思います

それぞれの病気に対しての専門のサイトがあればどうだろうか？

始まってから決めるのではなく、実施される前からプライバシーに関する管理法について民間第三者と話し合いの上、ルールを決めて運用してほしいです。

情報の信憑性を確認できるような、第三者機関があったほうが良いとおもう。現在無法地帯だから。

本当に安心して利用したいですね

個人情報が確実に保護されることが第一条件と考えます。

医療・保健分野においてインターネット上で提供される情報はこれからますます必要とされ、また増えてくると思います。それだけに私たちが安心してその情報を利

用できるためには、情報やサービスの提供者が守るべき自律的な倫理規範もしくはガイドラインのようなものがとても重要になってくると思いますし、そうなるように期待しています。

いろいろと情報があるのはいいのですが、信頼できる医療関係のサイトはあまりないのが現状だと思っています

これからだ

相手が見えない分慎重に扱われているかどうかははっきり分からないのが怖いと思う。

患者、もしくは患者の家族が自分達の経験を誰かに役立ててもらいたいと考えるならば、匿名ではなくても良いと思うが、何がなんでも知られたくない場合は保護が必要。それを故意にでも、間違えたにしても漏洩してしまったならば、その漏洩した個人法人は罰せられなければならないと思う。

いつでもどこでも、しりたい情報がとりだせて便利だが各自きをつけて活用しなければいけないのではないかとおもいました。

どのぶんやでも、個人情報を守るようにしていただきたい。

有効に利用されれば問題ありません。

医療分野に関する個人の情報は特に慎重に扱って欲しいです

特に自分や家族の心配で相談しているものだからこそプライバシーの保護は大切だと思うし、相談する側も便利だからといって安易に利用し、頼りすぎるのも考えものだと思う。

なにしろ、個人情報の流出がなければいいと思います。

個人情報の保護及び取り扱いについては今後の課題となるでしょう。

見えないので分かりやすくそして法的に身分を証明して欲しい

第三者機関による監修、チェックが必要不可欠であるとする。

情報は玉石混交です。判断基準となる発信者のデータを詳細に掲載いただきたい。

わかりやすい情報

やぶ医者リストを提供してほしいな。

個人情報等等、カルテ同様の扱いとしてほしいと思う

情報の信頼性を計る指標（五つ星など）があれば良いとおもう。

医療にかぎらず、訪れる人が多いサイトの掲示板などは荒れることもありますよね。情報交換しようと思っても、ウソや中傷・喧嘩などが起こると、そのサイトには行くのをためらうようになります。

個人情報の流出が問題化しているので、対処法を早急に決める必要があると思います。

患者の立場にたって対応してもらいたい

余り色々な情報にまどわされたくないのが必要以上には見ないようにしている

情報は、１００パーセントだとは、思わないようにしている。

いま日本で一番遅れてるのはメンタル・ケアであるが、これに関して心療内科や神経内科にかかる事を卑下したり、タブーとする事がこの分野の医療の発展のさまたげになっている。せめてインターネット上では気楽にメンタルケアを受ける事ができる環境（以下、文章切れ）

プライバシーの保護の徹底が第一

患者には情報の正確性が確認できないので、専門家がチェックをして認証などを得ていると安心できると思います。

一番は患者のプライバシーを守ること。これができないようなところの情報は信用できません。

犯罪にもなりかねないので個人情報はしっかり管理して欲しい

サプリメント利用者です。その成分、効果が気になる。

情報量が多く、実際何を信じてよいのか解からなくなることがある。ただ言える事は自分自身情報に振り回されずに勉強していく事も大事だと思います。

絶対に信用できるサイトの見分けが出来ると嬉しいです

私自身としては、インターネットを利用し始めてまだ日も浅いせいもあり、詳しいことはよくわかりませんが、情報量の豊富さにはただ驚くばかりです。しかしその質がすべて正しく信用できるかと言えば、また別問題です。ですから今のところは

あくまでも参考程度にしている、といった程度ですが、それでも十分に疑問を解決してくれる場合もあります。

本当に正確なものだけを知りたい。

営利目的のサイトや、医薬品メーカーのサイトは、信用性が薄い感じがします。

医者に行くほどでなくても気になる事もあります。インターネットだから気軽に話せる、相手にしてくれる、そういう環境であって欲しい。(一般の書き込みでなく主に医者)

やはり誠実な対応を望んでいます。

医学書では探しきれない事でも簡単に調べ大変便利なのでやはり今の時代無くてはならない物だと思うので後は信憑性が重視されると思います。

きちんとした機関を設けてプライバシーに配慮してもらいたいです。

インターネット上で提供される情報は、あれば何かの参考になることは多いと思います。

個人情報の管理については法的規制も第三者機関の監視も絶対必要だと思う。

患者はもちろん家族も、得られる情報ならどんな情報も得ようと思っています。だからこそ安易な情報ではなく信頼できる情報を提供してほしいです。

健康情報は、かなり個人のプライバシーにとって、重要な分野であると思います。医師や看護婦に守秘義務があるように何らかの規制が必要だと考えます。

個人情報はとても大事なのでしっかりしてほしいですね。

情報提供者の資格認定システムが必要ではないでしょうか

情報が溢れすぎていて欲しい情報に行き着くまでが結構大変。もっと分かり易くできないものでしょうか？個人情報の保護は、こと病気に関しては特に厳重にして頂きたいものです。

偏った考えを持った人には信頼がおけませんので、サービス元の情報もきちんと載せてほしいと思っています。

個人情報についてはどの分野に置いても重要な問題だと思う。正しく扱ってほしい

情報がたくさんありすぎて迷ってしまう事があります また個人情報 は 絶対守られるべきだと思います法的な手段で守って欲しい。

個人のプライバシーは完全に守られるように配慮すべきだ。

当然営利目的のあまり信頼性のない情報が氾濫することが考えられるので、利用者側（患者側）のプライバシーや安全などが充分に守られるようなガイドラインの策定は絶対不可欠だと思う。

個人情報の扱いに関しては十分留意しなければならないと思う

もっと情報を入手するときの楽しさや効果の確かさを示して欲しい。

情報は、必ず営利目的に利用されるので絶対に管理者の責任義務についての法律は必要不可欠だと思う

最近はいいい情報も多くなってきたが多くの病院のhpでは相談するとまず当院へと病院の宣伝メールが返ってきて結局内容がわからなかったりする。相談すると書かれているのであればきちんと相談にのってほしい

正しいことを知りたい。

不安はあるが、やはりネット上で相談できる事は患者の立場からするとありがたい。

人体に直接関わることだけに、信頼性・保護など、公的にもきちんと整備されるべきだと思う

自分の健康や治療を他人に知られることほど嫌なことは無い。

病院ごとに治療方法の見解や処置方法を具体的に表示して欲しい。

患者個人の身になって運営して欲しい

病気の回復は勿論ですが、「個人情報の流出」ほど気分の悪いものではありません！

読みにくい。見やすいページにしてほしい。

パソコンに精通していないので情報を得るのに時間がかかります。でも、専門医を探したりするには役立ちました。

インターネットでは短時間に色々な情報を集められるのでとても意味のあることだと思うが、情報提供者についての情報もある程度あると安心する。

これだけインターネットが普及した現在、個人情報の保護には法的な規制を設けてほしいと思います。

今から、インターネットが発達することにより、若年層も使用することになります。が、一方向的な考えにならないようにサイトも気をつけてほしいです。

もっと使いやすくなれば良い。

開かれたものである事。医療に関わる関係団体と患者とが、互いに対等に参加できる事。

同名の病気でも、体質によって対処対応が異なってくると思います。それをきちんと把握できるような情報提供を希望します。

同じ悩みを持つ者にとって、情報は貴重である。

繰り返すが、やはり個人情報がどのくらい保護されるかが重要だと思う。

分からないことがあったら、電話できるような環境が欲しいですね。

私自身インターネットのおかげで自分や家族の病気のことでずいぶん助かっています。私にとっては聖域です。

とにかくプライバシー尊重されなければならないと思います。

医療・保健分野においてインターネット上で提供される情報やサービスは、絶対に曖昧な情報があっては、ならないと思います。個人情報保護もこれからますます個人情報の流失が多くなり、トラブルにまきこまれたりするケースも増えるので、しっかりした保護対策が重要だと思います。

どこまで秘密になっているか不安である 保険会社にとって欲しい情報だから

氏名・住所・電話番号・郵便番号などはあまり重要ではないと思われます。メールアドレス・性別・年齢・都道府県・ユニークなキーだけで管理は十分なのでは？

基本的には人間信頼でいきたいが、たとえば今回の雪印のような問題が易々とはいびこっているところを見ると、勝手に信頼していることがいかに「時代遅れ」であるのかを思い知らされ、残念ながら「強い規制を」といわざるを得ない。

病院で質問できなかったことや心配だが聞けないことなどを相談できる場が欲しい

やはり個人情報の流出が怖い。

公的機関の情報公開をネット上で請求できるようにしてほしい

同じ治療を行っている関連病院（自分の通えるところ）のＨＰが乏しい場合、もしくは存在しない場合があるのが不便。

個人個人にあった、カウンセリングや情報の提供をもっと盛んにしてほしいと思っています。これは自分の症状だけどこれは違う。総合的な情報しか載せていないものが多いので、結局病院に直接行った方が早いと思うことがしばしば。

特定の病気に関する治療・手術などに関しての病院・医師の情報がほしい。

ルールを作っても、守るかはモラルの問題であり、厳しくしても守られるのは難しい現状で、難しい。

個人情報保護の法律の成立が急がれると思う。

海外とのリンクもほしい

やはり欲しい情報が、すぐに見れると言うのは魅力です。こちらは藁をもすがるおもんなんでも確実且つ安心な情報が確立されると嬉しいです

必ずプライバシーは守ってほしいですね（^o^）

プライバシーの保護は厳密に行って欲しいし、漏洩があった場合は罰則が必要。

個人が置き去りにされがちな時代に保護となりうるのはネットと思う。思いやりのあるケアを実現させて欲しい。

個人情報は管理されるべき

やはりプライバシーの問題が心配ですね。

もっとプライバシーを重視してほしい。

アンケートの結果を 送信者にも詳しく知らせて欲しい。

プライバシーへの配慮

医療機関にかかる前に かかったほうがいいかどうかの判断の参考にする場合が多いので 簡単に相談しやすい状況を作っていて欲しい

やはり、正確さや信頼性には問題があって、でもたくさんのＨＰで同様の内容が載

っていれば信用性も出てくるが、これがインターネットのいいとこであり悪い部分でもあるかと思う。たくさん同様の内容が載っているからといってそれが正しいとは限らない。でもそんなことを言い出したらキリがない・・・？

真実を書いて欲しい

医療機関などが提供している情報で営利目的のみで提供されている場合が多いので、薬などは副作用とかの情報は必ず付記したり、サンプルを提供し各人にあっているものか確認させて欲しい。

情報量がまだまだ少なく感じる

個人情報保護の問題がクリヤされない限り、なかなかネットで相談等は出来ないと思います。

医療など個人の情報が重要なものの場合必ず個人の情報を守ってくれるようなところを利用したい。

情報も必ず一つに統一されているとは限らないとおもう

インターネットの情報がすごく多いので、難しい。

かなりの信頼度を持って拝見しているので正しい情報を多数の方に迅速に配信してほしい！！

サイトによってはメールアドレスの記入が必須となっており、そう言うところを書き込みをすると、その類の広告が来る。個人情報どこまで漏れているのか、不安で、住所などの記載を必要とするサイトには怖くて行けない

ただ一方的な情報でなく、そういう情報を正しくチェックする機関が必要だと思います。命にかかわる事もあるのだから。

医療の問題の利用は高齢者が多いと思うがインタ - ネットを使える高齢者が少ない

ネットで情報収集しようとして検索しても、治療の押し売りのような紹介しかしてないところが結構あった。純粋に情報だけほしいときには、あれは少し不愉快・・・。

情報に偏りや思い込みがあるのと医師等の紹介に関しても中央ほど情報が多く、地方の紹介して頂ける病院や医師が少ないのが残念です。

インターネットでの情報提供は、すびーどのめんからも、ゆうこうである

パソコンを持ってない人のために、公共機関や病院にワンタッチで簡単に誰でも使えるパソコンを設置して欲しい・・・長い待ち時間の間の有効利用にもなるし、患者さん同士の情報も増えるので

まだまだ個々の病気の専門的なサイトが不足していると思うので、どんどん増えていって欲しい。病院にいかなくても、ある程度診察が出来るぐらいの環境になればうれしいと思う。

自分自身インターネットをまだそんなに多く利用してないので、問題点が整理できていない。

古い家庭の医学書を開くよりインターネットで調べた情報のほうが新しい治療法等手に入り便利であるが検索で色々な偏りが出てしまう。

本当に適切な指導をしてもらえるのなら、情報を提供して、相談したい

秘密は守らなくてはいけないと思う。

間違った情報が入ってきていると医療関係なので取り返しの効かないことにもなりかねないと思うので、きちっとしたガイドラインが欲しいと思います。

細かいアドバイスを期待します。

医師が実在している人なのか不安になる事があるので写真や経歴が掲載されると安心して利用が出来ると思います。

今のところ特にありませんが、個人情報に関しては外部への漏れに気を付けて欲しいです。

情報協力する人・する側の人が最善の注意をはらって利用すればいいのではないのでしょうか

自分の症状を入力するだけで、自分のすむ地域の医療機関が近い順に示されるようなサイトがあったら嬉しい

判りやすい操作が一番ですね。

全ての質問に回答があるわけではないのでそのあたりの解決策が欲しい

ひとりひとり同じ病気でも症状は違うので、インターネット上での情報がすべてとは言いがたいと思う。

体験談の患者以外の名称を実名とした確かな情報がほしい。

公開の可能性のあるときは必ず本人の同意を得るようにできたらいいと思う

個人情報医療のことでは、他のことに比べて、特に気をつけてほしい。

休日診療医の検索サービスがあったら良い

専門的な言葉や用語などをわかりやすくして欲しい。個人情報の漏洩などあっては絶対にいけないと思います。

もっと規制があって、こんなに野放し状態だとは思いませんでした。情報が多過ぎて何を選べば良いのかわからない時がある。

目に見えるような症状の疾患には、その部分の写真によつての説明が、もっと詳しく知りたい。治療経過の過程も詳しく、治療内容の説明内容も含めて。

どこの医療機関においてもクレームは隠したいのが現状でしょう。しかしそこにヒントがあるのです。今後医療はサービス業のノウハウも必要とされるでしょう。患者側からの審判を受ける時代がきたのです。

地域別・専門科別に検索できる病院情報が欲しい。

難しい言葉がとても多いので、もっとやわらかく分かりやすくしてほしいです。

個人情報の保護は、非常に大切な問題だと思います。

最新の情報や患者の実体験などが欲しい。

医療関係のサイトを利用する人間には、本当せつばつまってに情報を必要としている人も多いと思うので、各サイトに虚偽の情報などがないかどうかをチェックする機関が存在すればいいと思う。営利が絡んでくると信頼度が低下する気がするのでボランティア団体が評価するとすごく信頼できるような気になりそう。そして、評価した結果をそれぞれのサイト別にわかるようにしてほしい。(例えば3つ星レストランとか、のように星が多いほど情報が確かなものとか)

情報量が多すぎたり、各サイトによって、質がかなり異なるため、自分自身の判断力が必要だと思う。

情報提供者が明らかに営利目的で間違つた情報を提供している場合に、それを取り締まる機関および法律の整備を望みます

今のままでいいと思います。

とにかく患者のことを第一に。良いことでも悪いことでも、患者本人が一番関わるのだから。

最近はおかしな考えの人が結構いるので、どういう風に自分の意見とかを見られているかわからないので、あまりBBSには近寄らなくなった。せっかく意見の交換ができる場なのにつまらないと思う。BBSへのパスワードとか発行してくれるようなところが増えたらいいと思う。もちろん無料がいい。

プライバシーが守られるのであれば、インターネットで医療分野等の相談・情報提供等を売り出すべきではないか？

プライバシーの保護こそ重要。

自分にとって有用性のある情報、そうでないものを見極める力が必要になってくると思う。

広く情報を公開して欲しい

いろいろな情報を入手できることはとてもうれしいが、それに振り回されてしまうことがある。相談を受ける側の方が、本当に親身になってくれているのか不安。

医療などの相談ができるサイトがあるといいと思う。医療費負担が上がったり、給料も少なくなっているので、多少なりとも、相談できる窓口があるといい

セキュリティが不安

一番の不安材料は第三者に情報が漏れないかどうか？また漏れたときに対処方法の確立。

プライバシーの問題に関ることなのでしっかりとしたセキュリティーシステムの導入を考慮願いたい。

どこまでがプライバシーの尊重されている部分なのかが不透明で危うい橋を渡っているような気がする。総括的に整備されて欲しいがどこまで実現可能かがわからない。そのため現段階では自分の身は自分で守ることが大切かなと思う

まだ信用できないので、個人情報とはできるだけ控えたい

もっと予防医学を広く普及させるためにも政府主導のもとこのようなサービスに力を入れて欲しい

最終的には個人の判断になると思う。

権力を持った医師、営利追求の製薬会社や医療機器会社は欲しくない。「医は仁術」と呼ばれたのは過去の話でも、「医は算術」と言うのは、いいかげんに辞めて欲しい。町医者、高度機器を備えた「総合病院」である必要はなく、「住民の主治医」として、病院への窓口になれば良いのに。

個人情報の保護は、必要だと思います。たいした内容でなくとも、それが第三者に渡り、なにに使われるか分からないと考えると、気持ち悪いです。患者は、当然守られていると考えて相談等するので、きちんとした規制を求めたいです。

最終的には個人の責任かなと思います

ある疾患に対する複数の治療法を比較検討するのは、意外と大変です。もっと簡単に調べられるようになりたいです。

正確な情報をいち早くキャッチできるとよい。

医療だけにかかわらず、個人情報の漏洩が一番心配している問題です。どう付き合っていかなければならないか、個人でしっかり考えなければどのような問題へと発展するか考えもつきません。

個人の情報が守られた上で、その情報が他の人に役立つのであれば、そうあってほしいと思う。

プライバシーの保護があって初めて安心して情報交換したり、相談することができると思われる。

インターネットの性格上、情報の品質はまちまちであるのは仕方が無い。その中で光るものが一つでもあればよい。個人情報保護については言うまでも無く最大限の配慮をすべき。

とにかくセキュリティをしっかりと。もれてしまってから謝っても遅い

やはり個人情報については、プライバシーをしっかり守るようなシステムが不可欠だと思う。

プライバシーの面では、インターネットも、実際の面談でも情報の取り扱いに不安があるのには変わらない。

クロス集計結果

資料 1.2. 性別によるクロス集計結果

資料 1.3. 疾患別によるクロス集計結果

資料 1.4. 患者・家族別によるクロス集計結果

資料 1.5. 年代別によるクロス集計結果

資料 1.6. 利用頻度によるクロス集計結果

資料1.2. 性別によるクロス集計結果

1.2. 性別によるクロス集計結果

回答者のうち、男女の2群に分け、他の質問項目に対するクロス集計を行った。この項の末尾にグラフを掲示した。

1.2.1 回答者のプロフィール

男性は回答者全体の37.1%であった。その平均年齢は41.3歳であった。年代別の構成比は、20歳以下1.0%、20代12.5%、30代34.2%、40代30.7%、50代13.5%、60代7.0%、70歳以上1.2%であった。患者本人か患者の家族かの区別では患者本人64.8%、家族35.2%であった。疾患の種類は、高血圧38.9%、糖尿病26.7%、アトピー性皮膚炎24.9%、喘息16.0%、胃がん・乳がん・大腸がん8.0%、その他13.2%であった。一人の人が、複数の疾患を有する場合もあった。

女性は回答者全体の62.9%であった。その平均年齢は34.7歳であった。年代別の構成比は、20歳以下2.9%、20代27.5%、30代44.9%、40代17.8%、50代5.1%、60代1.0%、70歳以上0.7%であった。患者本人か患者の家族かの区別では患者本人42.8%、家族57.2%であった。疾患の種類は、高血圧25.4%、糖尿病16.6%、アトピー性皮膚炎38.4%、喘息29.3%、胃がん・乳がん・大腸がん11.2%、その他11.6%であった。

1.2.2 インターネットへの接続方法

主なインターネットへの接続方法としては、男性では、「モデムまたはISDN利用によるダイヤルアップ接続」47.6%、「ADSLまたはxDSL」28.7%、「CATV」20.0%、「光ファイバー」0.7%、「携帯電話またはPHS」0.7%、その他2.2%であった。また、女性では、「モデムまたはISDN利用によるダイヤルアップ接続」56.2%、「CATV」19.9%、「ADSLまたはxDSL」19.4%、「光ファイバー」1.0%、「携帯電話またはPHS」0.9%、その他2.6%であった。「ADSLまたはxDSL」と「CATV」の順位差が、男女の違いで若干認められた。

1.2.3 よく利用する検索エンジン

男性が、医療（健康）情報を検索する時、最もよく利用する検索エンジンとしてあげたものは「Yahoo!」59.9%、「Google」17.2%、「Goo」6.5%、「MSN」6.5%、「Infoseek」6.0%、「LYCOS」1.7%、「Netscape」0.5%、その他1.7%であった。女性が、最もよく利用する検索エンジンとしてあげたものは「Yahoo!」62.9%、「Google」10.7%、「Goo」9.4%、「MSN」7.9%、「Infoseek」4.3%、「LYCOS」1.2%、「Netscape」0.4%、その他3.1%であった。その順番において男女の間で違いはなかった。

1.2.4 情報の利用頻度

掲示板やオンライン会議室は除き、「インターネットを利用して病気や薬などに関する情報をどのくらいの頻度で利用されていますか」の問いに対して、男性は「ほとんど毎日」7.0%、「1週間に1度以上」20.2%、「1カ月に1～3回」43.9%、「1年に1～数回」28.9%であった。また、女性では「ほとんど毎日」7.2%、「1週間に1度以上」13.2%、「1カ月に1～3回」51.0%、「1年に1～数回」28.5%であった。

男女の比較では、1カ月以内の利用頻度はあまり変わらないが、「1週間に1度以上」の割合でみる

と、男性が女性よりも高かった。

1.2.5 利用情報について

「利用している情報」(複数回答)については、男性では「病気に関する一般的情報」76.3%、「病気の治療法に関する情報」57.1%、「薬に関する情報」52.6%、「医療機関に関する情報」32.2%、「同じ患者の体験情報」22.9%、「QOL(生活の質)に関する情報」9.5%、「医師に関する情報」6.0%、その他3.0%であった。また、女性では「病気に関する一般的情報」72.2%、「病気の治療法に関する情報」60.4%、「薬に関する情報」56.3%、「同じ患者の体験情報」36.5%、「医療機関に関する情報」31.9%、「医師に関する情報」7.5%、「QOL(生活の質)に関する情報」6.3%、その他1.8%であった。

男女の比較では、「同じ患者の体験情報」が女性において高かった。

1.2.6 利用情報の信頼性

「利用されている情報は全体的にみて、信頼できると思いますか」の問いに対しては、男性では「かなり信頼できる」11.7%、「まあまあ信頼できる」80.3%、「あまり信頼できない」7.5%、「ほとんど信頼できない」0.5%であった。また、女性では、「かなり信頼できる」8.2%、「まあまあ信頼できる」84.6%、「あまり信頼できない」6.9%、「ほとんど信頼できない」0.3%であった。

男女の比較では、「かなり信頼できる」とする割合が女性において低かった。

1.2.7 信頼できない理由

利用している情報が、「あまり信頼できない」「ほとんど信頼できない」と回答した人81名のうち、32名が男性、48名が女性、不明が1名であった。男性に対し、その理由を尋ねたところ(複数回答)「情報の中身の確かさがわからない」59.4%、「情報量が少ない」43.8%、「情報の質が低い」31.3%、「情報量が多すぎる」12.5%、その他6.3%であった。また、女性では、「情報の中身の確かさがわからない」64.6%、「情報量が少ない」27.1%、「情報の質が低い」27.1%、「情報量が多すぎる」20.8%、その他10.4%となっていた。

男女の比較では、男性のほうが、「情報量が少ない」とする割合が高かった。反対に、「情報量が多すぎる」とする割合は女性のほうが高かった。

1.2.8 信頼できるウェブサイト

利用している情報が、「かなり信頼できる」「まあまあ信頼できる」と回答した人1,000名のうち、363名が男性、627名が女性、不明が10名だった。男性に対し、どのようなウェブサイトが提供する情報が信頼できるかと上位5つをあげてもらったところ、「大学病院、国立病院」54.0%、「公的な研究機関」46.0%、「診療所・クリニック」38.8%、「民間の医療情報提供会社」37.7%、「厚生省などの国の機関」36.6%、「製薬メーカー」34.7%、「地域の中核病院」30.6%、「患者(個人または団体)」28.1%、「医師会」22.3%、「保健所」17.4%、「薬剤師」9.6%、その他1.9%であった。また、女性では、「患者(個人または団体)」42.1%、「公的な研究機関」41.0%、「大学病院、国立病院」40.8%、「民間の医療情報提供会社」35.1%、「診療所・クリニック」33.7%、「厚生省などの国の機関」29.5%、「製薬メーカー」28.1%、「医師会」25.0%、「地域の中核病院」20.6%、「保健所」19.3%、「薬剤師」14.4%、その他2.2%であった。

男女の比較では、女性においては、「患者(個人または団体)」を一番目にあげたのに対し、男性では8番目と顕著な差があった。

1.2.9 情報内容の信頼性の基準

情報を利用する時、内容の信頼性の基準としてどのような点に留意しているかに関し、「信頼できる」と思われる要素の中で重要なものは何かと尋ねたところ（複数回答）男性では「実在する医療機関が提供する情報である」59.4%、「公的な機関が提供する情報である」50.4%、「医師または医師団体が提供する情報である」46.9%、「患者（団体）が提供する情報である」36.2%、「薬をつくっている製薬メーカー自身が提供する情報である」30.4%、「薬剤師が提供する情報である」18.7%、その他2.7%であった。また、女性では「実在する医療機関が提供する情報である」52.5%、「患者（団体）が提供する情報である」49.7%、「公的な機関が提供する情報である」46.8%、「医師または医師団体が提供する情報である」47.9%、「薬をつくっている製薬メーカー自身が提供する情報である」27.4%、「薬剤師が提供する情報である」18.1%、その他2.1%であった。

男女の比較では、情報内容の信頼性の基準として、男女とも「実在する医療機関が提供する情報である」を一番にあげたが、女性においては、「患者（団体）が提供する情報である」ことが2番目にあげられていた。

1.2.10 情報の信頼性を損ねる要因

情報を利用する時、利用者側からみて「信頼性を損ねる」要因は何かと尋ねたところ（複数回答）男性では「誰が情報提供者がよくわからない」70.6%、「情報が一方的で偏っている」56.9%、「情報提供に営利的な要素がからんでいる」55.4%、「裏付けとなる文献・資料など、情報の出所が不明である」43.4%、「情報に科学性、客観性がない」40.1%、「営利企業が提供している」36.4%、「情報の作成日が古い」34.4%、「専門家の監修を経ていない」25.9%、「情報の作成日が不明である」26.4%、その他1.7%であった。また、女性では「誰が情報提供者がよくわからない」65.3%、「情報が一方的で偏っている」62.6%、「情報提供に営利的な要素がからんでいる」60.6%、「情報の作成日が古い」50.1%、「営利企業が提供している」45.7%、「裏付けとなる文献・資料など、情報の出所が不明である」44.1%、「情報に科学性、客観性がない」35.4%、「専門家の監修を経ていない」26.5%、「情報の作成日が不明である」26.0%、その他1.7%であった。

男女の比較では、女性において「情報の作成日が古い」または「営利企業が提供している」ことを要因としてあげる割合が高かった。

1.2.11 掲示板やオンライン会議室の利用頻度

インターネット上の掲示板やオンライン会議室の利用頻度については、男性では「ほとんど毎日」10.0%、「1週間に1度以上」16.2%、「1カ月に1～3回」26.9%、「1年に1～数回」46.9%であった。また、女性では「ほとんど毎日」11.3%、「1週間に1度以上」14.1%、「1カ月に1～3回」27.8%、「1年に1～数回」46.8%であった。

男女間では、あまり差が認められなかった。

1.2.12 掲示板やオンライン会議室利用のメリット

掲示板やオンライン会議室を利用するメリット（利点）は何かと尋ねたところ（複数回答）男性では「同じ患者の書き込みから参考情報が得られる」57.6%、「病気や治療法に関する情報が交換できる」53.4%、「医師など専門家の意見をきくことができる」29.9%、「医療機関や医師に関する情報が交換できる」27.4%、「コミュニケーションを深めることができる」23.7%、「自分の意見を書き込むことができる」19.0%、「自分の持っている情報が提供できる」15.0%、その他2.0%であった。女性では、「同じ患者の書き込みから参考情報が得られる」64.1%、「病気や治療法に関する情報が交

換できる」49.4%、「医師など専門家の意見をきくことができる」35.7%、「医療機関や医師に関する情報が交換できる」22.1%、「自分の意見を書き込むことができる」21.0%、「コミュニケーションを深めることができる」17.6%、「自分の持っている情報が提供できる」11.3%、その他2.0%であった。

男女間の比較では、女性において、「同じ患者の書き込みから参考情報が得られる」とする割合が高かった。

1.2.13 掲示板やオンライン会議室の利用時の問題点

掲示板やオンライン会議室を利用する時の問題点としてあげたものは（複数回答）男性では「内容に思い込みや偏見がある」53.1%、「営利、広告目的の投稿がある」49.1%、「投稿者の身分、立場がわからない場合がある」41.9%、「感情的なやりとりがある」36.7%、「匿名の投稿がある」27.7%、「他人のプライバシーを侵害する投稿がある」27.2%、「誹謗、中傷の内容がある」26.2%、「投稿者自身のプライバシーが危ないことがある」25.7%、「低俗な表現や乱暴な言葉遣いがある」25.7%、その他2.7%であった。また、女性では「内容に思い込みや偏見がある」51.2%、「営利、広告目的の投稿がある」44.1%、「投稿者の身分、立場がわからない場合がある」39.9%、「感情的なやりとりがある」35.9%、「投稿者自身のプライバシーが危ないことがある」27.5%、「他人のプライバシーを侵害する投稿がある」24.9%、「誹謗、中傷の内容がある」24.9%、「低俗な表現や乱暴な言葉遣いがある」23.4%、「匿名の投稿がある」16.5%、その他2.5%であった。

男女の比較では、男女とも「内容に思い込みや偏見がある」を一番にあげていたが、「匿名の投稿がある」と「営利、広告目的の投稿がある」においては、男性のほうが高かった。

1.2.14 医療相談の体験

回答者自身が今までにインターネットで医療相談をしたことがあるかどうか尋ねたところ（同じ内容で複数回のやりとりは1回とみなした）男性では「1回利用したことがある」12.7%、「2回以上利用したことがある」12.0%で、両方の合計で、24.7%であった。また、女性では「1回利用したことがある」19.0%、「2回以上利用したことがある」12.1%で、両方の合計で、31.1%であった。

男女の比較では、女性のほうが高かった。

1.2.15 医療相談の相手

医療相談を「利用したことがある」と回答した人310名に対し、相談の相手がどのような立場の人だったかを尋ねたところ（複数回答）回答があった309名のうち、男性では「医療機関のサイトや相談ページで直接は知らない医師」58.6%、「民間の医療情報提供会社」22.2%、「患者（団体）」17.2%、「製薬メーカー」14.1%、「かかりつけの医師」11.1%、「医療機関のサイトや相談ページで医療従事者ではない人」11.1%、「薬剤師または薬局」10.1%、「利用している医療機関の他の医師」10.1%、「医療機関のサイトや相談ページで看護婦や検査技師などのコメディカル」5.1%、「保健所職員」3.0%、その他3.0%であった。また、女性では「医療機関のサイトや相談ページで直接は知らない医師」67.6%、「患者（団体）」17.1%、「民間の医療情報提供会社」14.3%、「薬剤師または薬局」9.5%、「製薬メーカー」7.6%、「かかりつけの医師」7.1%、「医療機関のサイトや相談ページで看護婦や検査技師などのコメディカル」6.2%、「利用している医療機関の他の医師」5.7%、「医療機関のサイトや相談ページで医療従事者ではない人」4.8%、「保健所職員」1.0%、その他1.9%であった。

男女の比較では、男女いずれとも、「医療機関のサイトや相談ページで直接は知らない医師」を一番にあげたが、その割合は女性のほうが高かった。いっぽう、「民間の医療情報提供会社」や「製薬

メーカー」をあげる割合は男性が高かった。

1.2.16 医療相談時の不安

今までの医療相談において、または今後、医療相談などのオンラインでのケアサービスを利用するに際して、利用者側からみて「不安に感じる」のは、どのような場合であるかを尋ねたところ（複数回答）男性では「自分の健康データなど個人情報が守られているかわからない場合」57.6%、「得られたアドバイスが正しいものかどうかかわからない場合」57.6%、「相手が本当に実在する医師かどうか確認できない場合」56.4%、「相手が医師など医療従事者でない場合」38.7%、その他1.5%であった。また、女性では「自分の健康データなど個人情報が守られているかわからない場合」64.7%、「得られたアドバイスが正しいものかどうかかわからない場合」58.8%、「相手が本当に実在する医師かどうか確認できない場合」57.6%、「相手が医師など医療従事者でない場合」40.3%、その他1.9%であった。

医療相談時の個人情報の保護に関して、男女いずれも高い不安を抱いていることが示されたが、その割合は女性のほうが高かった。

1.2.17 信頼できる医療相談の相手

オンラインで医療や健康に関する相談する際、信頼できる相手として誰を選ぶかについて、上位3つまであげてもらったところ、男性では「医師」92.5%、「薬剤師」36.7%、「看護婦・検査技師などのコメディカル」29.7%、「民間の医療情報提供会社」28.9%、「患者（団体）」28.7%、「保健所職員」17.0%、「製薬メーカー」12.0%、その他1.0%であった。また、女性では「医師」93.4%、「薬剤師」38.5%、「患者（団体）」36.3%、「看護婦・検査技師などのコメディカル」33.7%、「民間の医療情報提供会社」25.6%、「保健所職員」16.8%、「製薬メーカー」10.6%、その他1.5%であった。

男女いずれも、圧倒的に「医師」を一番にあげ、続いて2番目に「薬剤師」をあげたが、女性においては「患者（団体）」が3位となった。

1.2.18 個人の医療（健康）情報への取り扱いへの関心

インターネットの普及でプライバシー性の高い個人の医療（健康）情報が、さまざまに流通・利用されるようになっていくことに関し、個人の医療（健康）情報がどう扱われていくかについて関心の程度を尋ねたところ、男性では、「非常に関心がある」38.4%、「まあまあ関心がある」50.9%、「あまり関心はない」10.7%、「まったく関心はない」0%であった。また、女性では「非常に関心がある」33.1%、「まあまあ関心がある」56.6%、「あまり関心はない」9.9%、「まったく関心はない」0.4%であった。

「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた割合は、男性で89.3%、女性で89.7%といずれも高い数字を示していたが、「非常に関心がある」は男性が高かった。

1.2.19 関心の内容について

前問で、「非常に関心がある」「まあまあ関心がある」と回答した968名を対象に、どのようなことに関心があるかを尋ねた（複数回答）。回答があった963名のうち、男性では「どのような目的に利用されているかについて」76.6%、「誰が情報やデータを扱っているかについて」60.2%、「何の情報が収集されているかについて」58.2%、「第三者に利用されていないかについて」57.3%、「どのように内部で管理されているかについて」48.6%、「コンピュータのハッキングや不正アクセスに対して防衛対策があるかについて」41.5%、「保管された情報が間違っていないかどうかについて」

29.4%、その他1.1%であった。また、女性では「どのような目的に利用されているかについて」76.8%、「第三者に利用されていないかについて」69.5%、「誰が情報やデータを扱っているかについて」60.1%、「どのように内部で管理されているかについて」56.5%、「何の情報が収集されているかについて」54.7%、「コンピュータのハッキングや不正アクセスに対して防禦対策があるかについて」46.0%、「保管された情報が間違っていないかどうかについて」29.9%、その他0.2%であった。

男女いずれとも、「どのような目的に利用されているかについて」を一番にあげたが、続く「第三者に利用されていないかについて」は女性のほうが高い関心を持っていた。

1.2.20 プライバシーポリシーの必要性について

インターネットを利用して医療機関や企業が、個人の医療（健康）情報を取り扱う場合、個人情報の取得方法や管理方法に関して、個人情報の取り扱い方針を作成し、これをウェブサイト上で利用者に告知する、いわゆるプライバシーポリシーについて、その必要性を尋ねたところ、男性では「プライバシーポリシーは不可欠である」80.5%、「プライバシーポリシーはできればあったほうがいい」15.5%、「プライバシーポリシーはなくてもいい」2.0%、「よくわからない」2.0%であった。また、女性では「プライバシーポリシーは不可欠である」81.0%、「プライバシーポリシーはできればあったほうがいい」16.2%、「プライバシーポリシーはなくてもいい」0.7%、「よくわからない」2.1%であった。

「プライバシーポリシーは不可欠である」とする割合は男女とも8割を超え、「プライバシーポリシーはできればあったほうがいい」を合わせた割合も、男性で96.0%、女性で97.2%といずれも非常に高い数字を示していた。

1.2.21 プライバシーポリシーの運用法について

法的な拘束性のないプライバシーポリシーの運用に際して、第三者機関からのチェックや法的な規制の必要性を尋ねたところ、男性では「プライバシーポリシーを法的に義務づけるべきである」41.4%、「プライバシーポリシーの策定だけでなく、これを監査・評価する第三者機関の設置が必要である」25.9%、「法的な規制もしくは強制力のあるガイドラインが必要である」24.9%、「プライバシーポリシーの自主的な運用で充分である」7.7%であった。また、女性ではプライバシーポリシーを法的に義務づけるべきである」40.4%、「法的な規制もしくは強制力のあるガイドラインが必要である」27.8%、「プライバシーポリシーの策定だけでなく、これを監査・評価する第三者機関の設置が必要である」26.3%、「プライバシーポリシーの自主的な運用で充分である」5.4%であった。

男女とも大きな差がなく、プライバシーポリシーの運用について、強い規制もしくは第三者の監査・評価を伴う自主的運用を望む割合が高かった。

1.2.22 倫理規範やガイドラインについて

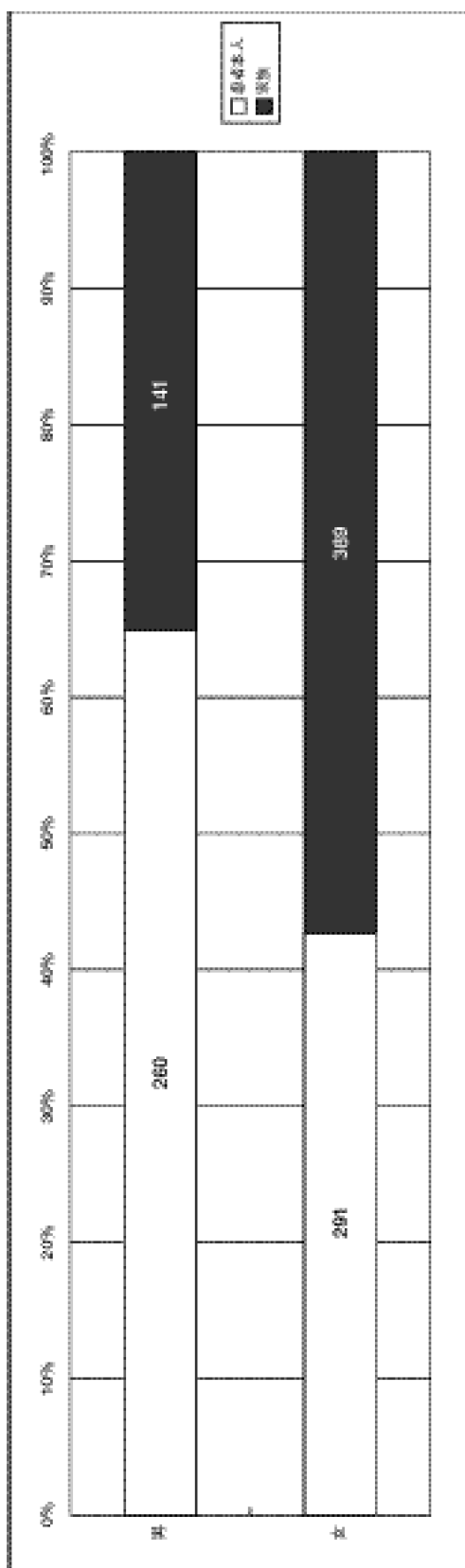
インターネット上で提供される情報やサービスの質を確保するため、情報やサービスの提供者が自主的に定めていく倫理規範やガイドラインについてどう思うかと尋ねたところ、男性では「ぜひ必要だと思う」64.3%、「やや必要だと思う」32.2%、「あまり必要だと思わない」3.0%、「必要ない」0.5%であった。また、女性では「ぜひ必要だと思う」61.9%、「やや必要だと思う」35.7%、「あまり必要だと思わない」2.4%、「必要ない」0%であった。

「ぜひ必要だと思う」割合は、男性がやや高かったが、「ぜひ必要だと思う」と「やや必要だと思う」を合わせた割合は、男性で96.5%、女性で97.6%といずれも高い数字を示していた。

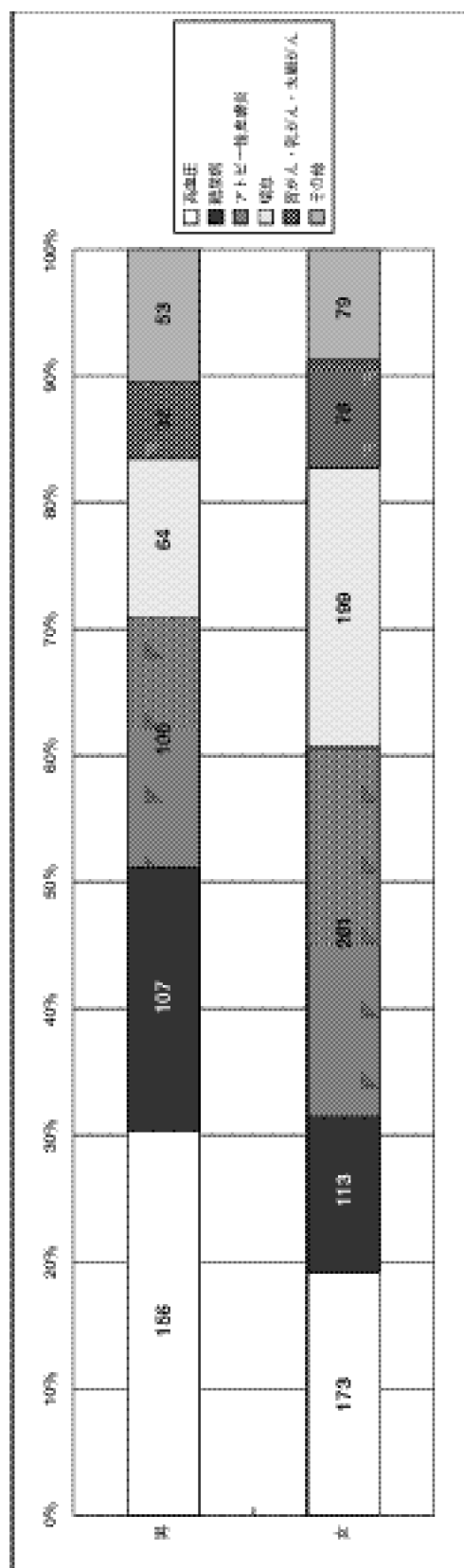
なお、この質問で「あまり必要だと思わない」「必要ない」と回答した人30名にそう思う理由を尋

ねたところ（複数回答） 回答のあった28名は男女半々で、男性では「法的な規制があれば充分である」35.7%、「自主基準の運用のチェックが難しい」28.6%、「すべて事業者の自主性に任せればよい」50.0%、「自主基準では実効性がない」7.1%、その他7.1%であった。また、女性では男性では「自主基準では実効性がない」50.0%、「自主基準の運用のチェックが難しい」42.9%、「法的な規制があれば充分である」14.3%、「すべて事業者の自主性に任せればよい」14.3%、その他0%であった。

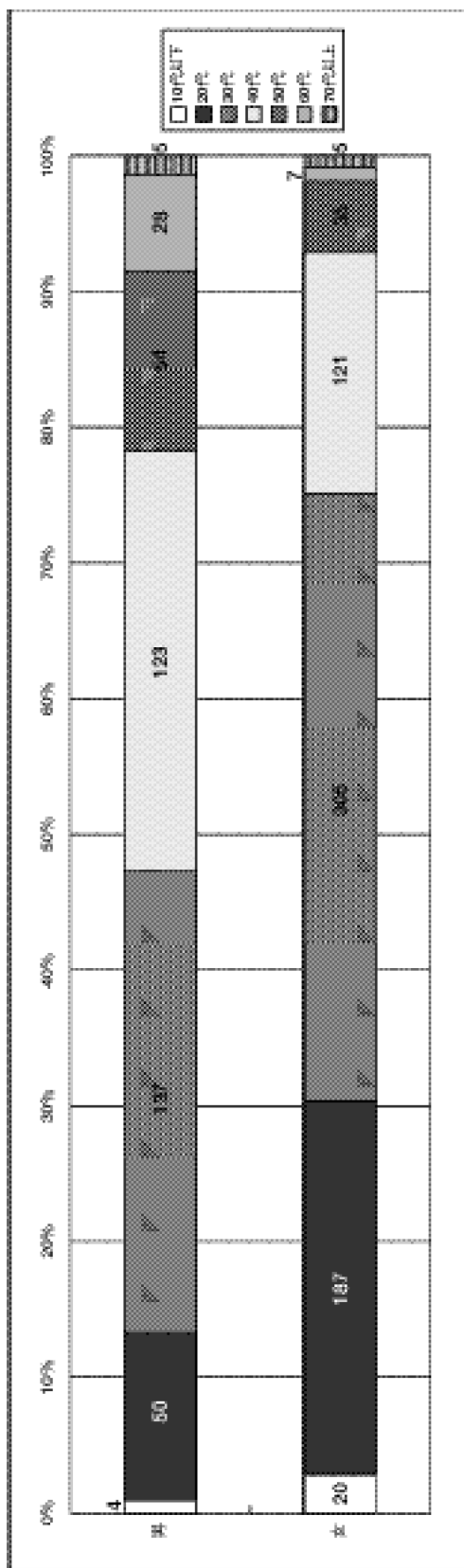
■患者・家族×性別



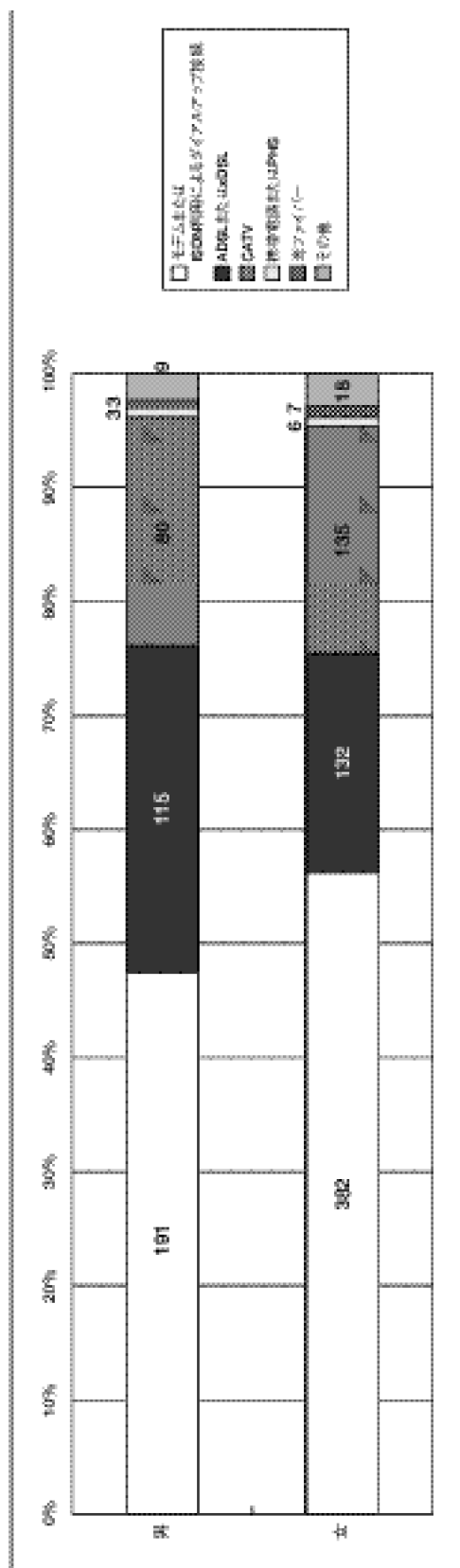
■病気の種類×性別



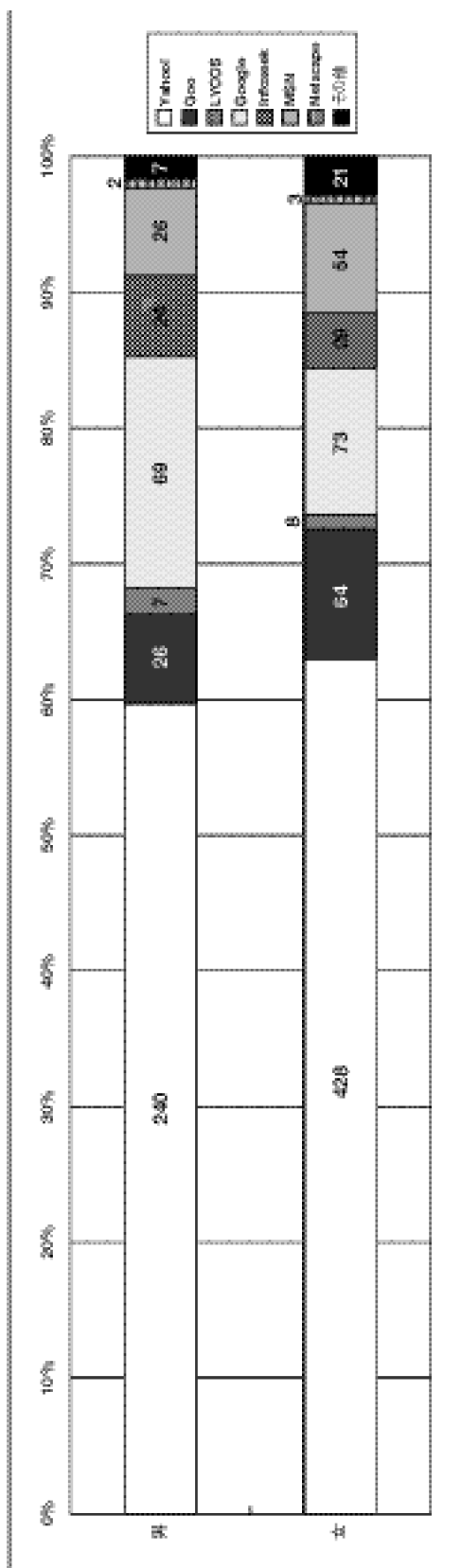
■年代×性別



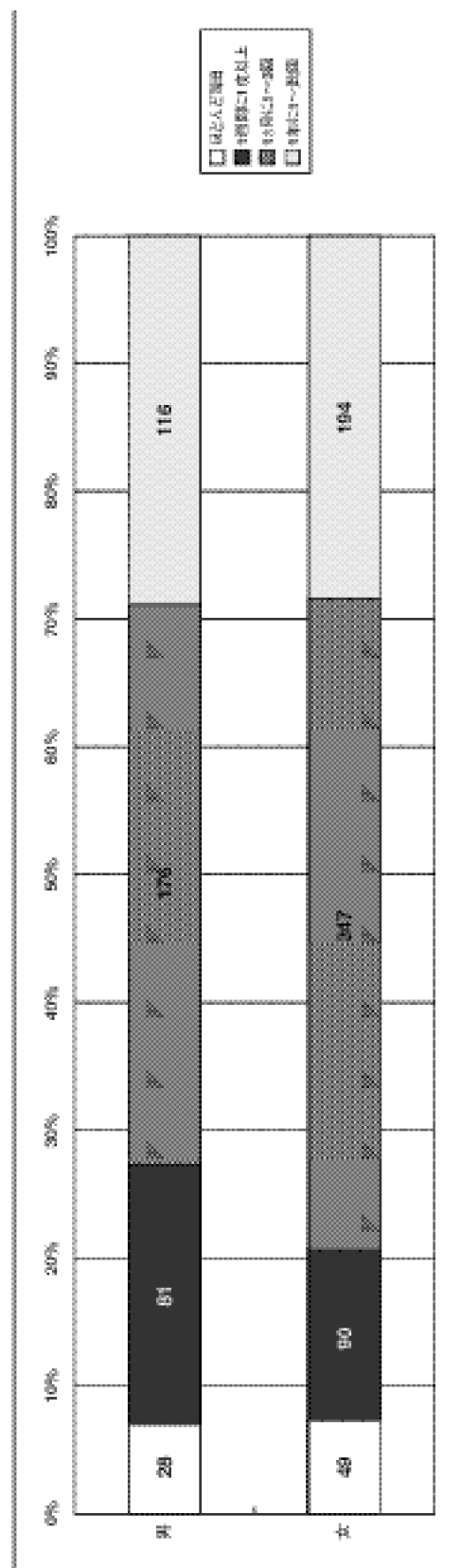
■問1 インターネットへの接続方法×性別



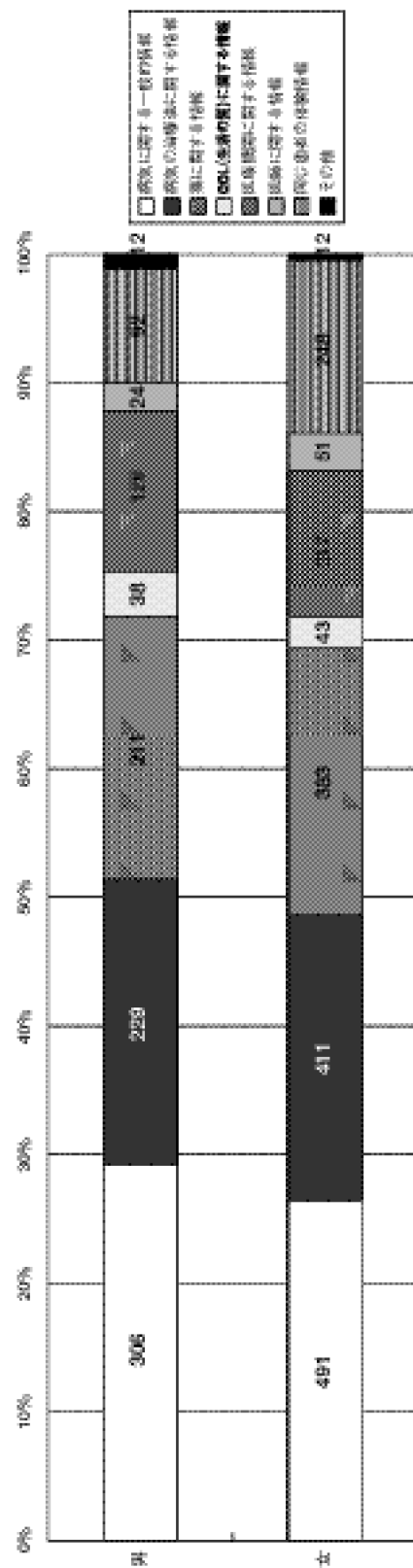
■問2 医療(健康)情報を検索する時、最もよく利用する検索エンジン×性別



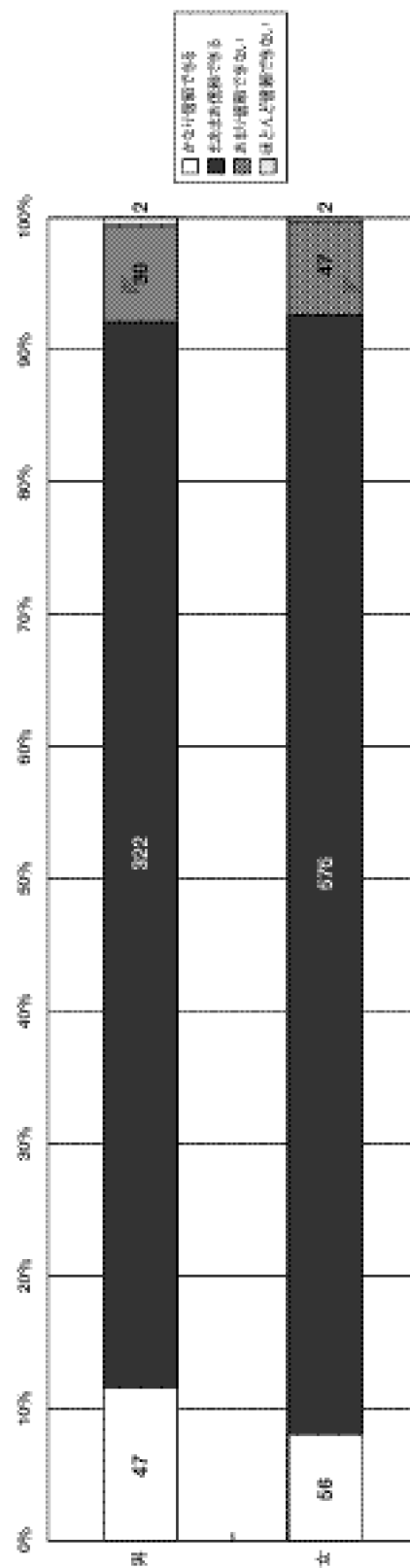
■問3 インターネットを利用して病気や薬などに関する情報をどのくらいの頻度で利用されていますか？
(掲示板やオンライン会議室は除きます)×性別



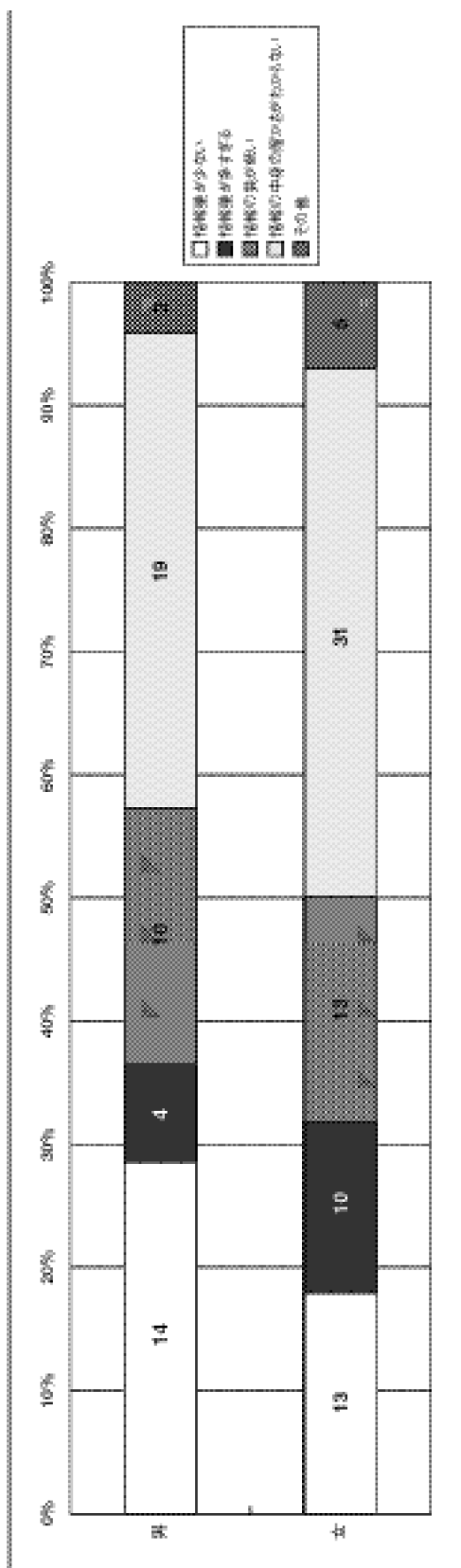
■問4 利用されている情報はどのようなものですか？(いくつでも) × 性別



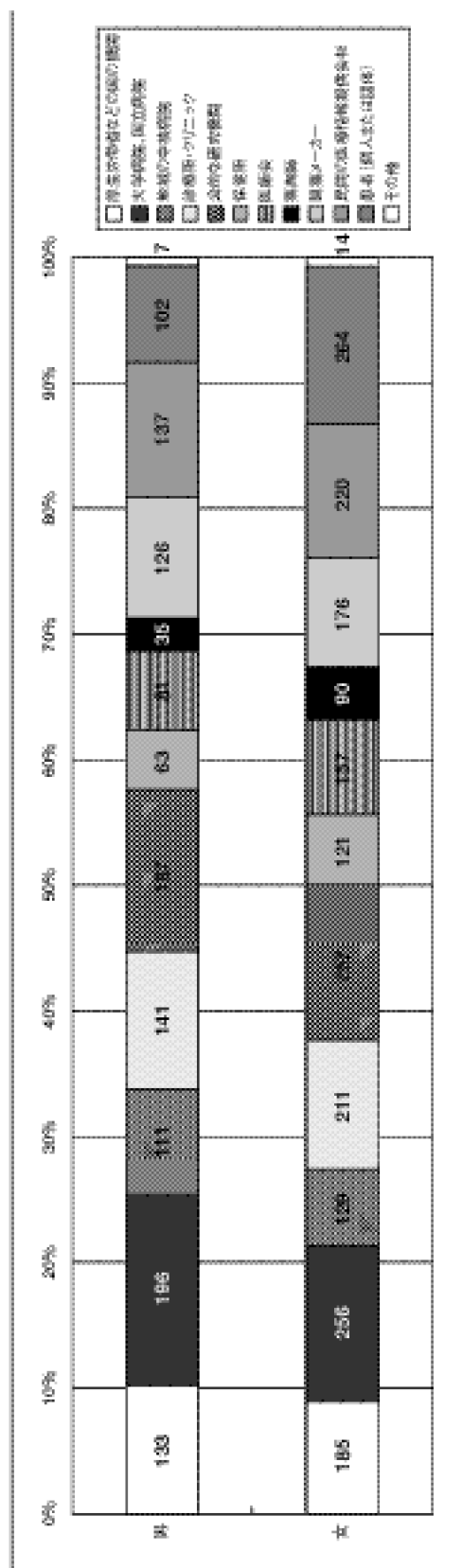
■問5 利用されている情報は全体的にみて、「信頼できる」と思われますか？ × 性別



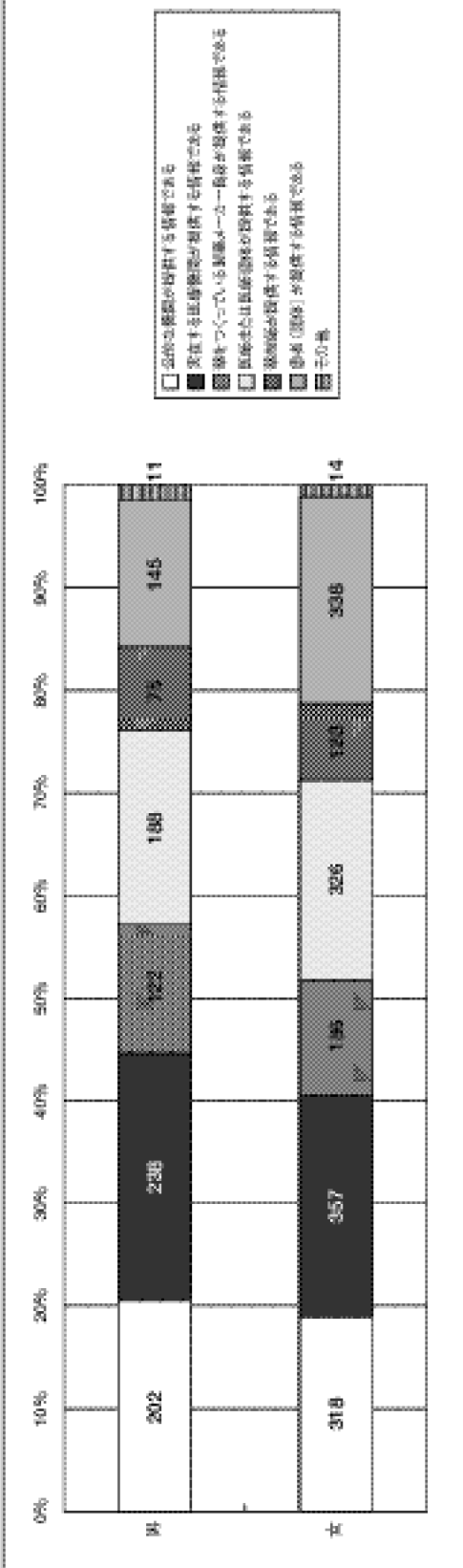
▶ 「あまり信頼できない」「ほとんど信頼できない」とされた理由は？ × 性別



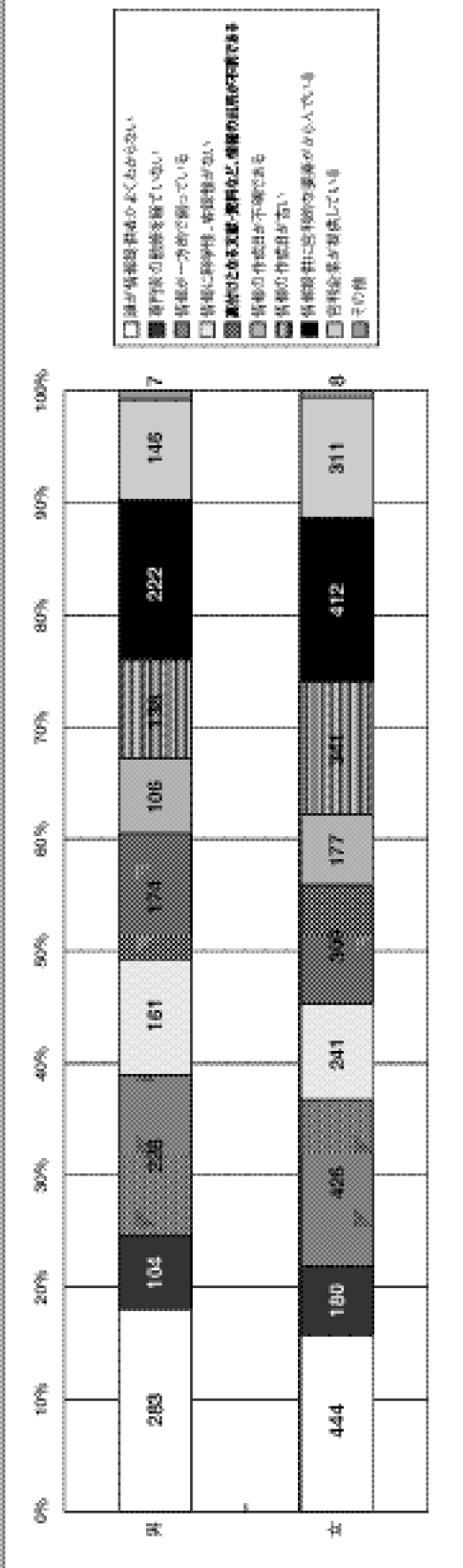
▶ 「かなり信頼できる」「まあまあ信頼できる」とされた方へ主にその情報は、
どのようなウェブサイト(運営の主体者)で提供されている情報ですか？ × 性別



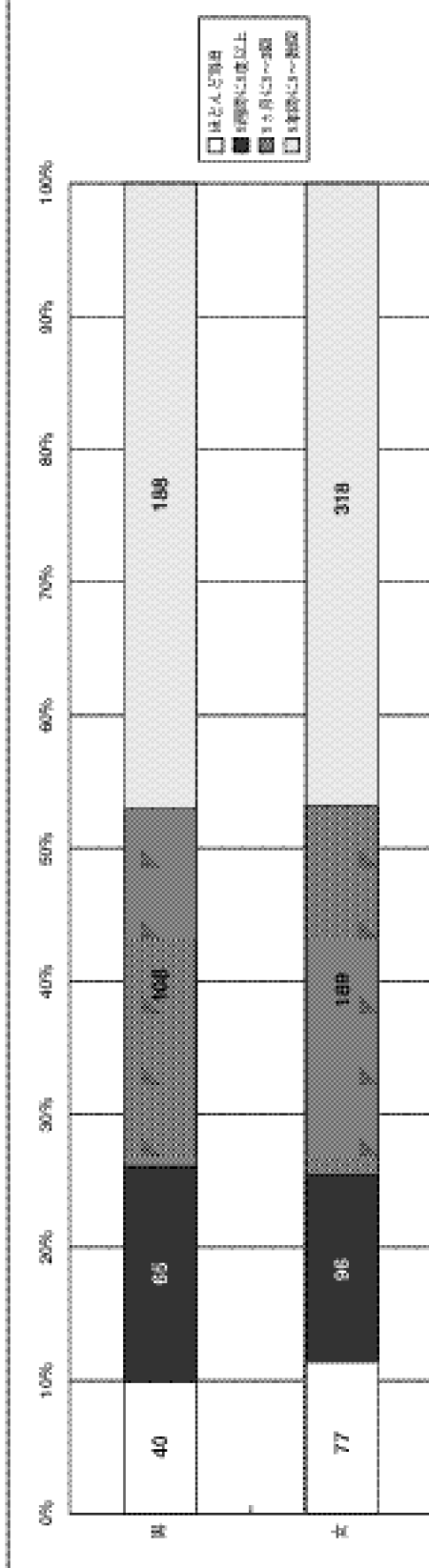
■問6 情報を利用される時、内容の信頼性の基準としてどのような点に留意されますか？
「信頼できる」と思われる要素の中で重要なものをあげてください。×性別



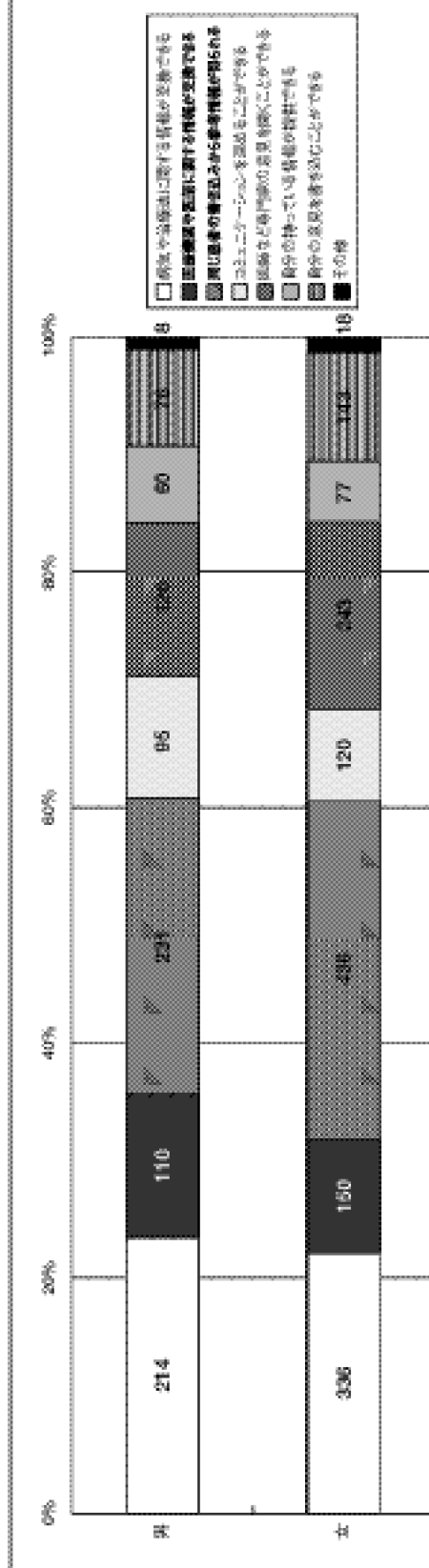
■問7 情報を利用される時、利用者側からみて「信頼性を損ねる」と考えられることは何ですか？×性別



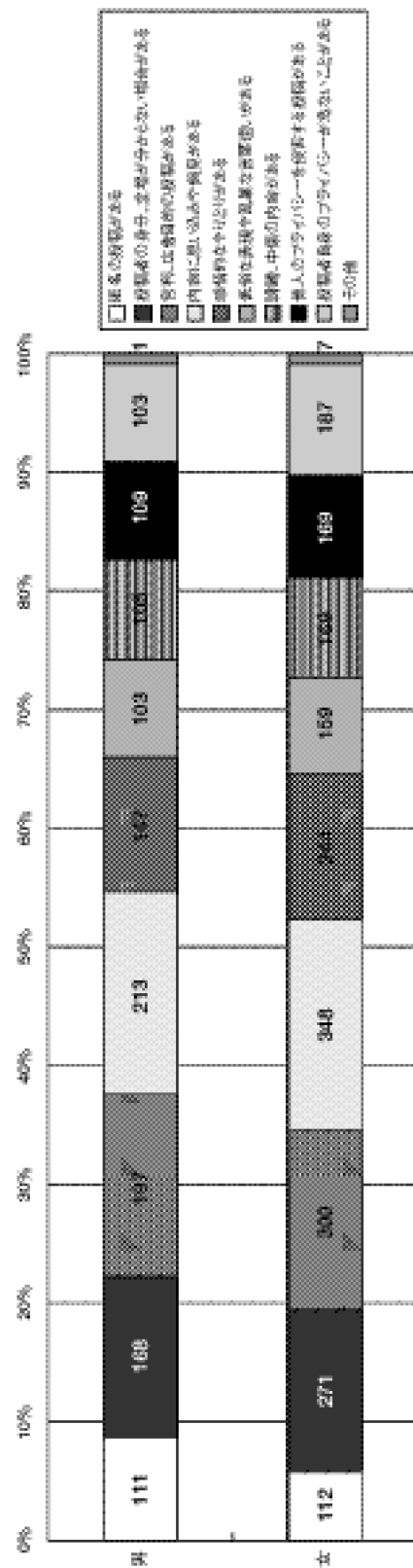
■問8 インターネット上の掲示板やオンライン会議室をどの程度利用されていますか？ × 性別



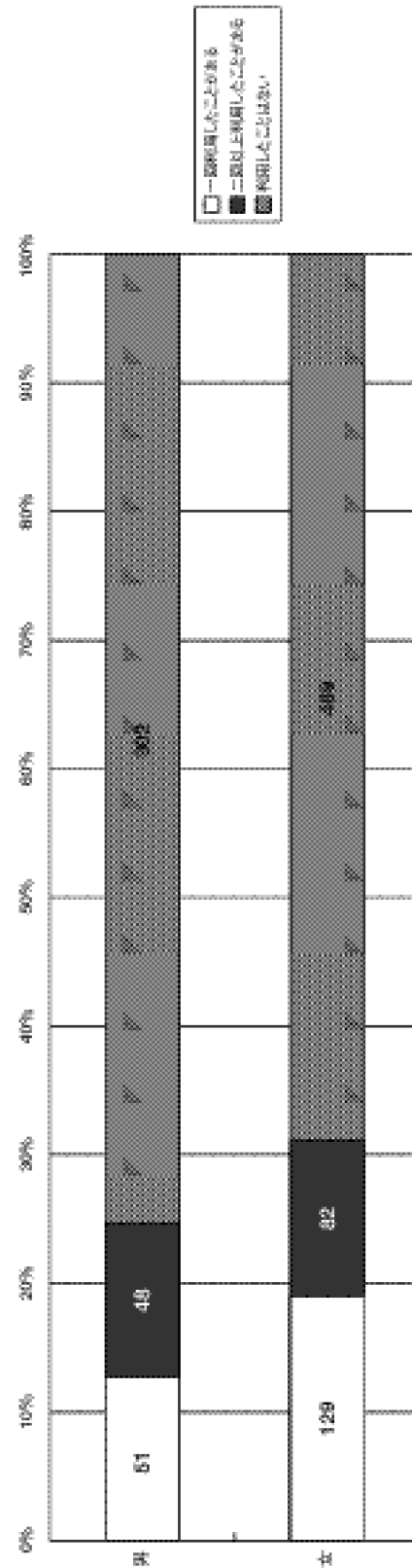
■問9 掲示板やオンライン会議室を利用されるメリット(利点)は何ですか？ × 性別



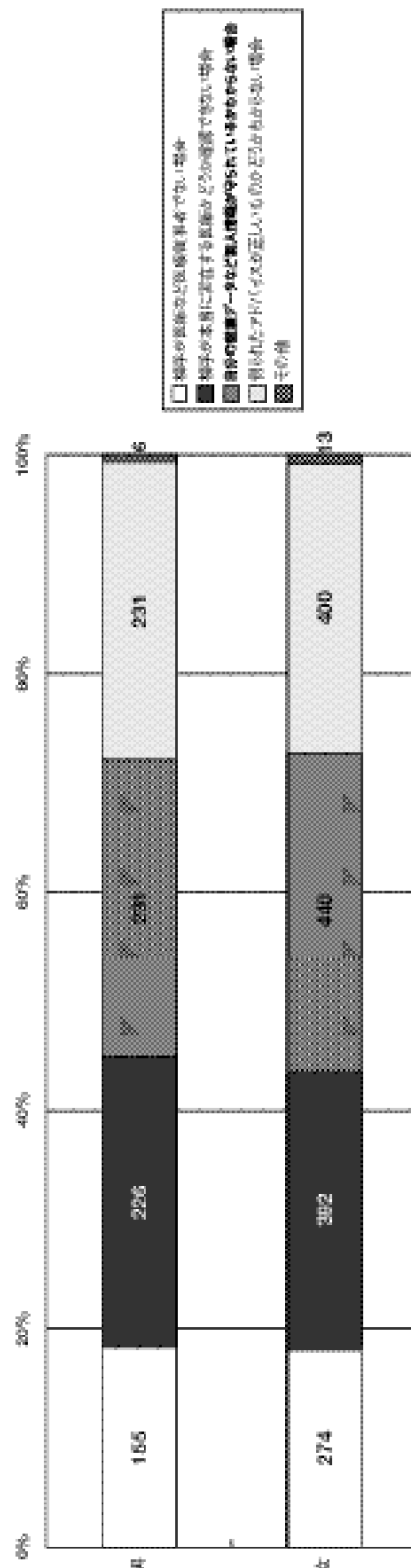
■問10 掲示板やオンライン会議室を利用される時の問題点はありませんか？×性別



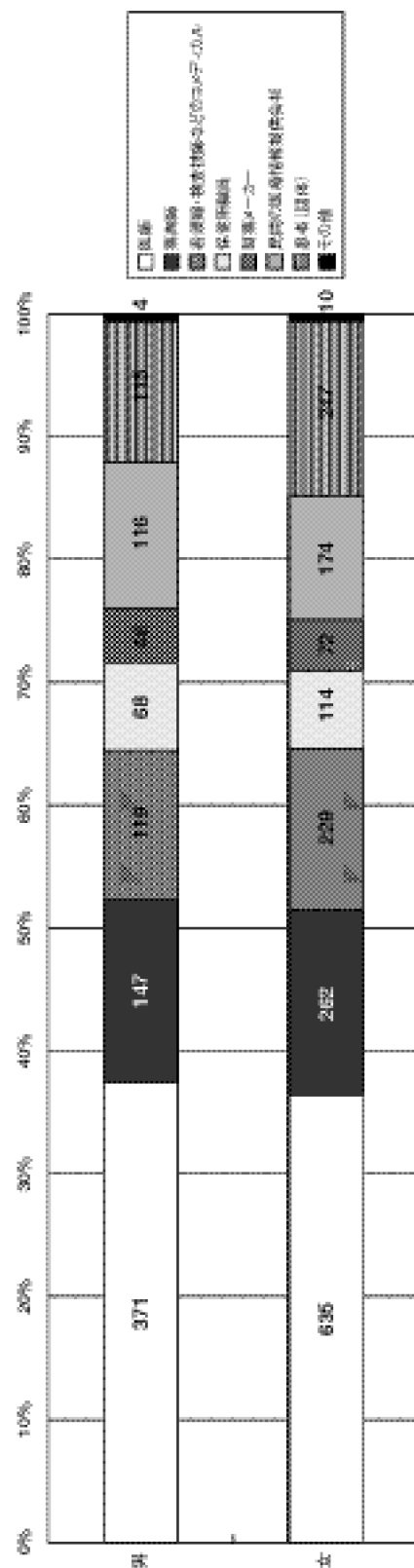
■問11 今までにインターネットで医療相談をされたことはありますか？×性別



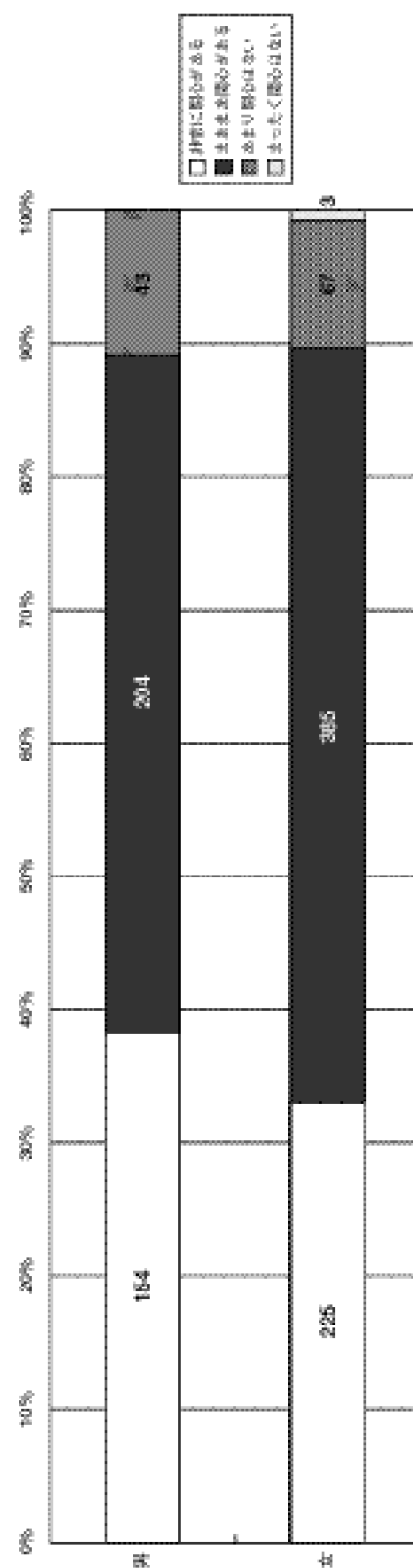
性別	10代以下のスマホ	利用していないスマホ	10代以下のスマホ	10代以下のスマホ	10代以下のスマホ	10代以下のスマホ	10代以下のスマホ	10代以下のスマホ	10代以下のスマホ	10代以下のスマホ
男子	11	10	39	5	10	14	22	17	3	
女子	15	12	142	13	20	16	30	36	4	



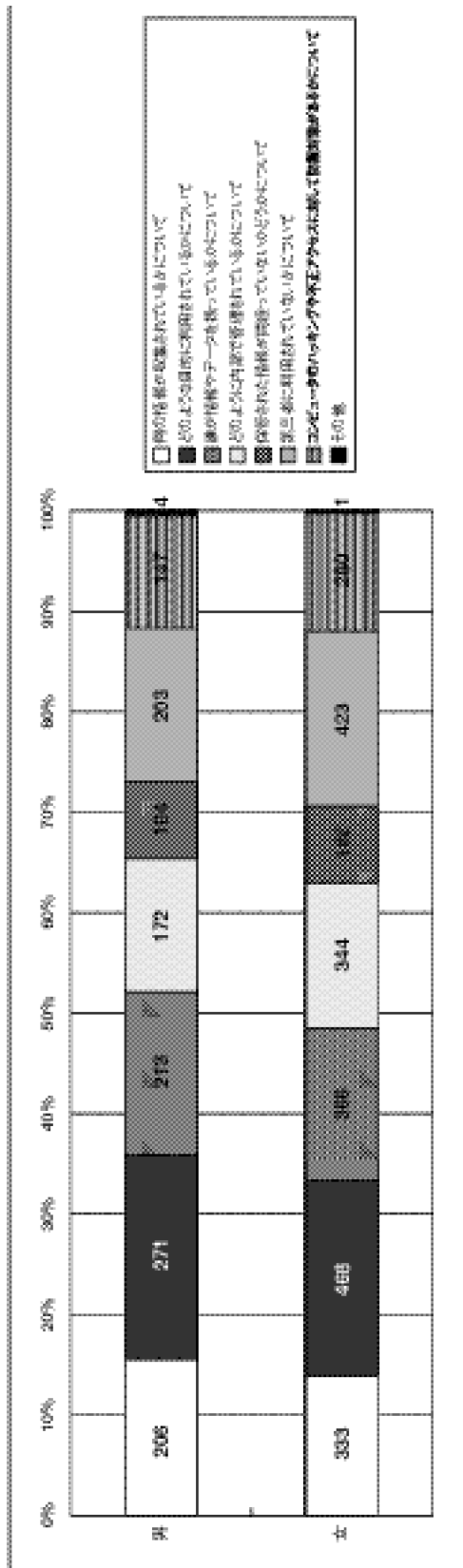
■問13 あなたがオンラインで医療や健康に関する相談をされたとしたら、信頼できる相手としては誰を選ばれますか？ × 性別



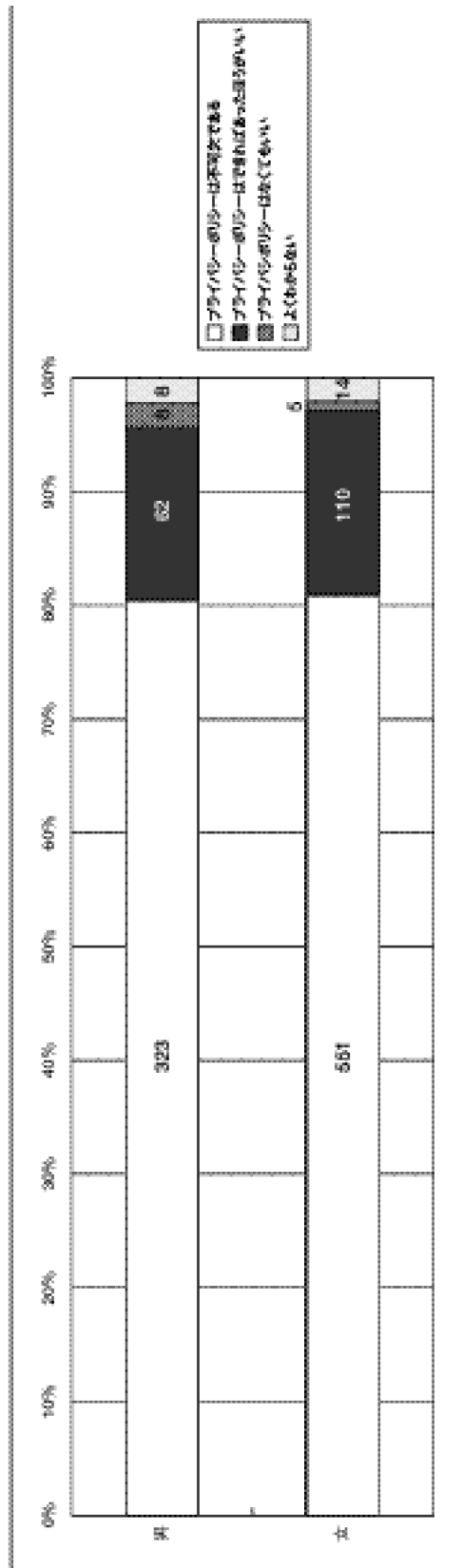
■問14 個人の医療(健康)情報がどう扱われていくかについて関心がありますか？ × 性別



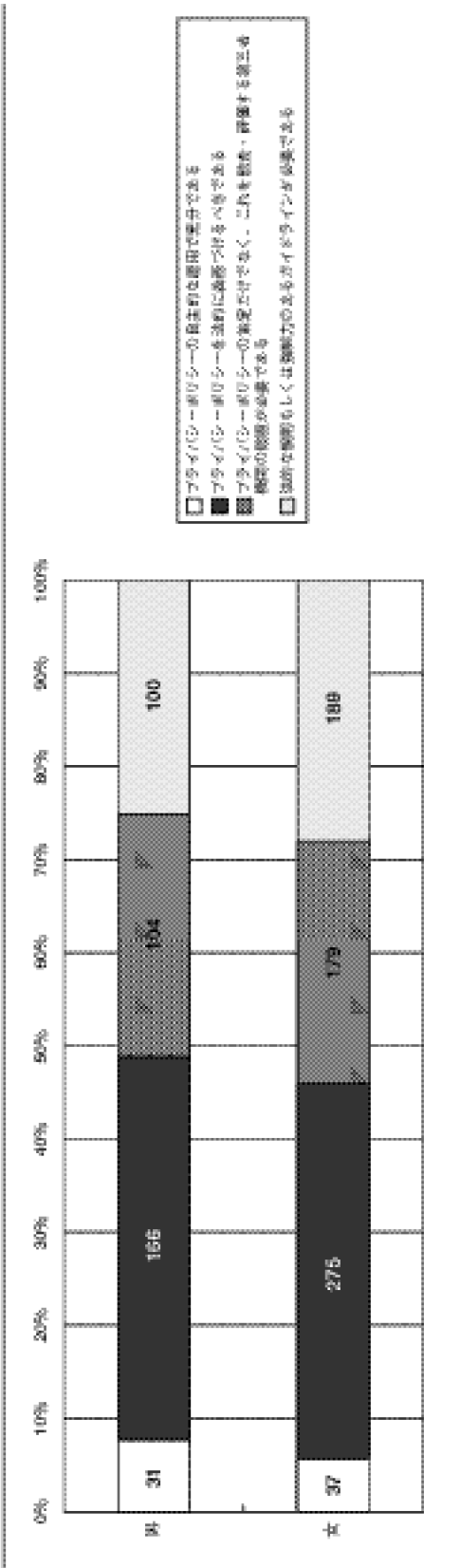
▶ 「非常に関心がある」「まあまあ関心がある」とされた方へどのようなことに関心がありますか？×性別



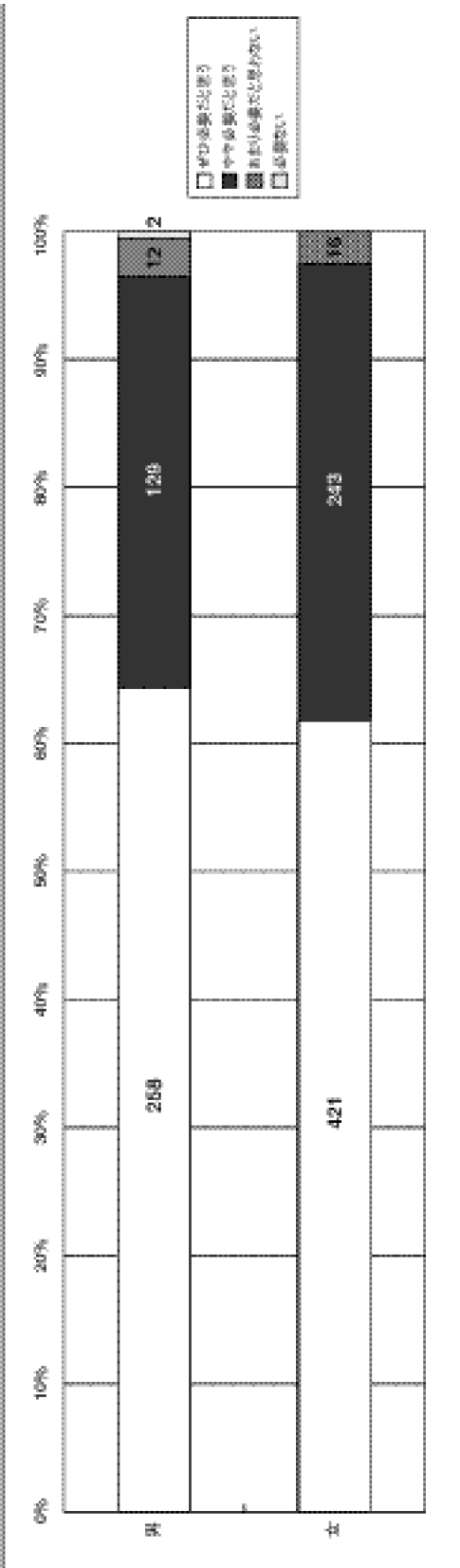
■問15 医療機関や企業が、インターネットで個人の医療(健康)情報を扱う場合は、このプライバシーポリシーが必要だと思われませんか？×性別



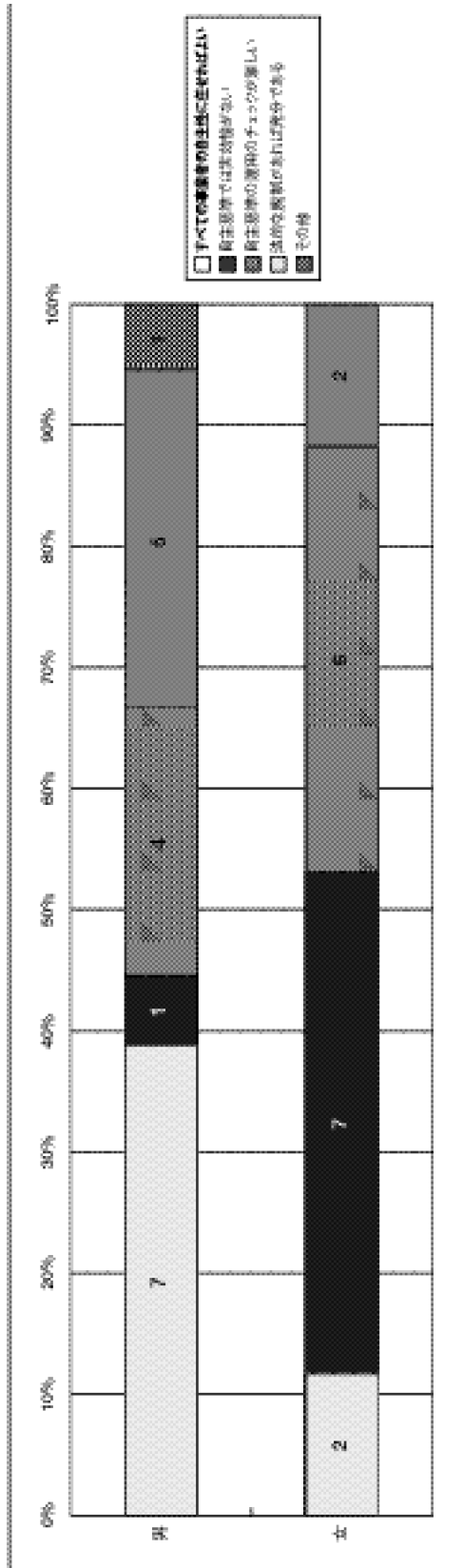
■問16 プライバシーポリシーの自主的な運用に加えて、これをチェックする第三者機関や法的な規則などの対策が必要だと思われますか？×性別



■問17 倫理規範もしくはガイドラインについてどう思われますか？×性別



▶ 「あまり必要だと思わない」「必要ない」とされた理由は何ですか？ × 性別



資料1.3. 疾患別によるクロス集計結果

1.3. 疾患別によるクロス集計結果

回答者のうち、高血圧、糖尿病、アトピー性皮膚炎、喘息、胃がん・乳がん・大腸がんの疾患別のグループに分け、質問項目に対するクロス集計を行った。この項の末尾にグラフを掲示した。

1.3.1 回答者のプロフィール

5疾患の人数の内訳は、全体数1081名に対し、高血圧30.4%、糖尿病20.4%、アトピー性皮膚炎33.4%、喘息24.3%、胃がん・乳がん・大腸がん合計で10.0%であった。一人で複数の疾患を有する場合もあった。

高血圧の疾患における回答者のプロフィールは、平均年齢が41.4歳、年代別の構成比は、20歳以下1.8%、20代14.9%、30代28.0%、40代30.7%、50代16.1%、60代5.8%、70歳以上2.7%であった。男女の構成比は男性47.4%、女性52.6%であった。また、患者本人か家族かの区別は、患者本人51.7%、家族48.3%であった。

糖尿病の疾患における回答者のプロフィールは、平均年齢が38.8歳、年代別の構成比は、20歳以下1.4%、20代21.8%、30代38.2%、40代18.6%、50代10.9%、60代8.6%、70歳以上0.5%であった。男女の構成比は男性48.6%、女性51.4%であった。また、患者本人か家族かの区別は、患者本人43.6%、家族56.4%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患における回答者のプロフィールは、平均年齢が33.6歳、年代別の構成比は、20歳以下3.6%、20代27.1%、30代49.6%、40代16.9%、50代2.2%、60代0%、70歳以上0.6%であった。男女の構成比は男性27.7%、女性72.3%であった。また、患者本人か家族かの区別は、患者本人49.9%、家族50.1%であった。

喘息の疾患における回答者のプロフィールは、平均年齢が33.9歳、年代別の構成比は、20歳以下1.9%、20代28.9%、30代49.4%、40代17.1%、50代2.3%、60代0%、70歳以上0.4%であった。男女の構成比は男性24.3%、女性75.7%であった。また、患者本人か家族かの区別は、患者本人51.7%、家族48.3%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患における回答者のプロフィールは、平均年齢が38.1歳、年代別の構成比は、20歳以下0.9%、20代19.4%、30代40.7%、40代26.9%、50代8.3%、60代2.8%、70歳以上0.9%であった。男女の構成比は男性29.6%、女性70.4%であった。また、患者本人か家族かの区別は、患者本人22.2%、家族77.8%であった。

1.3.2 インターネットへの接続方法

主なインターネットへの接続方法を疾患別に集計した結果を以下に記す。

高血圧の疾患では「モデムまたはISDN利用によるダイヤルアップ接続」54.7%、「ADSLまたはxDSL」20.1%、「CATV」21.3%、「携帯電話またはPHS」0.9%、「光ファイバー」0.6%、その他2.4%であった。

糖尿病の疾患では「モデムまたはISDN利用によるダイヤルアップ接続」51.4%、「ADSLまたはxDSL」24.1%、「CATV」17.3%、「携帯電話またはPHS」2.3%、「光ファイバー」1.4%、その他3.6%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「モデムまたはISDN利用によるダイヤルアップ接続」52.6%、

「ADSLまたはxDSL」23.3%、「CATV」20.2%、「光ファイバー」1.1%、「携帯電話またはPHS」0.6%、その他2.4%であった。

喘息の疾患では「モデムまたはISDN利用によるダイヤルアップ接続」57.4%、「ADSL または xDSL」20.9%、「CATV」20.9%、「光ファイバー」0.4%、「携帯電話または PHS」0%、その他2.4%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「モデムまたはISDN利用によるダイヤルアップ接続」50.0%、「ADSLまたはxDSL」25.0%、「CATV」17.6%、「光ファイバー」1.9 %、「携帯電話または PHS」0.9%、その他4.6%であった。

疾患別の差異は特に認められなかった。

1.3.3 よく利用する検索エンジン

医療（健康）情報を検索する時、最もよく利用する検索エンジンとしてあげられたものについて疾患別に集計した結果を以下に記す。

高血圧の疾患では「Yahoo!」63.8%、「Google」11.9%、「MSN」7.0%、「Goo」6.7%、「Infoseek」4.3%、「LYCOS」2.4%、「Netscape」0.6%、その他3.3%であった。

糖尿病の疾患では「Yahoo!」56.8%、「Google」15.5%、「MSN」9.1%、「Goo」7.7%、「Infoseek」5.9%、「LYCOS」2.3%、「Netscape」0%、その他2.7%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「Yahoo!」60.9%、「Google」13.3%、「Goo」8.6%、「MSN」7.5%、「Infoseek」6.1%、「LYCOS」0.8%、「Netscape」0.6%、その他2.3%であった。

喘息の疾患では「Yahoo!」61.6%、「Google」11.8%、「Goo」8.7%、「MSN」8.4%、「Infoseek」6.5%、「LYCOS」0.8%、「Netscape」0%、その他2.3%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「Yahoo!」72.2%、「Google」10.2%、「Goo」9.3%、「MSN」2.8%、「Infoseek」1.9%、「Netscape」0.9%、「LYCOS」0%、その他2.8 %であった。

いずれの疾患においても「Yahoo!」が1位であったが、その割合において糖尿病と胃がん・乳がん・大腸がんの疾患において、15.4%の差があった。

1.3.4 情報の利用頻度

掲示板やオンライン会議室は除き、「インターネットを利用して病気や薬などに関する情報をどのくらいの頻度で利用されていますか」の問いに対して、疾患別に集計した回答結果を以下に記す。

高血圧の疾患では「ほとんど毎日」7.3%、「1週間に1度以上」16.1%、「1カ月に1～3回」48.3%、「1年に1～数回」28.3%であった。

糖尿病の疾患では「ほとんど毎日」8.6%、「1週間に1度以上」14.5%、「1カ月に1～3回」53.6%、「1年に1～数回」23.2%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「ほとんど毎日」7.8%、「1週間に1度以上」17.7%、「1カ月に1～3回」44.9%、「1年に1～数回」29.6%であった。

喘息の疾患では「ほとんど毎日」9.5%、「1週間に1度以上」13.7%、「1カ月に1～3回」49.8%、「1年に1～数回」27.0%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「ほとんど毎日」6.5 %、「1週間に1度以上」20.4%、「1カ月に1～3回」52.8%、「1年に1～数回」20.4%であった。

疾患別の大きな差異はなかったが、「ほとんど毎日」「1週間に1度以上」「1カ月に1～3回」を合わ

せた利用頻度については、胃がん・乳がん・大腸がんの疾患における割合が高かった。

1.3.5 利用情報について

「利用している情報」について、疾患別に集計した結果を以下に記す（複数回答）。

高血圧の疾患では「病気に関する一般的情報」75.1%、「病気の治療法に関する情報」54.4%、「薬に関する情報」54.1%、「医療機関に関する情報」30.7%、「同じ患者の体験情報」28.3%、「QOL（生活の質）に関する情報」10.6%、「医師に関する情報」6.1%、その他1.5%であった。

糖尿病の疾患では「病気に関する一般的情報」73.6%、「病気の治療法に関する情報」58.2%、「薬に関する情報」51.8%、「医療機関に関する情報」32.3%、「同じ患者の体験情報」30.9%、「QOL（生活の質）に関する情報」9.1%、「医師に関する情報」9.1%、その他3.6%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「病気に関する一般的情報」75.6%、「病気の治療法に関する情報」64.0%、「薬に関する情報」59.0%、「医療機関に関する情報」34.3%、「同じ患者の体験情報」33.8%、「医師に関する情報」8.3%、「QOL（生活の質）に関する情報」5.8%、その他1.4%であった。

喘息の疾患では「病気に関する一般的情報」73.8%、「薬に関する情報」66.5%、「病気の治療法に関する情報」65.4%、「医療機関に関する情報」35.0%、「同じ患者の体験情報」33.8%、「医師に関する情報」6.5%、「QOL（生活の質）に関する情報」6.1%、その他3.0%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「病気に関する一般的情報」75.9%、「病気の治療法に関する情報」56.5%、「薬に関する情報」44.4%、「医療機関に関する情報」40.7%、「同じ患者の体験情報」37.0%、「医師に関する情報」12.0%、「QOL（生活の質）に関する情報」4.6%、その他0.9%であった。

いずれの疾患においても、「病気に関する一般的情報」や「病気の治療法に関する情報」が上位にあげられていたが、高血圧や糖尿病のような生活習慣病とされる慢性疾患においては、「QOL（生活の質）に関する情報」が相対的に高く、また、胃がん・乳がん・大腸がんのような手術療法を必要とする疾患においては、「医療機関に関する情報」や「医師に関する情報」が相対的に高いことが示された。

1.3.6 利用情報の信頼性

「利用されている情報は全体的にみて、信頼できると思いますか」の問いに対して、疾患別に集計した回答結果を以下に記す。

高血圧の疾患では「かなり信頼できる」11.6%、「まあまあ信頼できる」81.5%、「あまり信頼できない」7.0%、「ほとんど信頼できない」0%であった。

糖尿病の疾患では「かなり信頼できる」8.6%、「まあまあ信頼できる」84.5%、「あまり信頼できない」6.4%、「ほとんど信頼できない」0.5%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「かなり信頼できる」8.3%、「まあまあ信頼できる」81.2%、「あまり信頼できない」10.2%、「ほとんど信頼できない」0.3%であった。

喘息の疾患では「かなり信頼できる」8.4%、「まあまあ信頼できる」86.7%、「あまり信頼できない」4.6%、「ほとんど信頼できない」0.4%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「かなり信頼できる」7.4%、「まあまあ信頼できる」82.4%、「あまり信頼できない」10.2%、「ほとんど信頼できない」0%であった。

疾患別にみると、「かなり信頼できる」と「まあまあ信頼できる」の合計は全般的に高いものの、

アトピー性皮膚炎と胃がん・乳がん・大腸がんが、それぞれ89.5%、89.8%と低く、喘息では93.1%と高かった。

1.3.7 信頼できない理由

利用している情報が、「あまり信頼できない」「ほとんど信頼できない」と回答した人81名のうち、不明の1名を除いた80名にその理由を尋ねた。疾患別の集計した回答結果を以下に記す（複数回答）。

高血圧の疾患では「情報の中身の確かさがわからない」47.8%、「情報の質が低い」34.8%、「情報量が少ない」30.4%、「情報量が多すぎる」17.4%、その他8.7%であった。

糖尿病の疾患では「情報の中身の確かさがわからない」66.7%、「情報の質が低い」40.0%、「情報量が少ない」40.0%、「情報量が多すぎる」0%、その他6.7%であった。

アトピー性皮膚炎疾患では「情報の中身の確かさがわからない」60.5%、「情報の質が低い」28.9%、「情報量が少ない」28.9%、「情報量が多すぎる」21.1%、その他13.2%であった。

喘息の疾患では「情報の中身の確かさがわからない」50.0%、「情報量が少ない」41.7%、「情報の質が低い」33.3%、「情報量が多すぎる」25.0%、その他8.3%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では、「情報の中身の確かさがわからない」81.8%、「情報量が少ない」54.5%、「情報の質が低い」18.2%、「情報量が多すぎる」9.1%、その他0%であった。

疾患別の比較では、いずれの疾患においても、「情報の中身の確かさがわからない」が1位になったが、特に胃がん・乳がん・大腸がんでは高かった。また、「情報量が少ない」ことをあげたのは、胃がん・乳がん・大腸がんにおいて最も高く、反対に「情報量が多すぎる」ことをあげたのは、アトピー性皮膚炎においてであった。

1.3.8 信頼できるウェブサイト

利用している情報が、「かなり信頼できる」「まあまあ信頼できる」と回答した人1,000名のうち、不明の10名を除いた990名にどのようなウェブサイトが提供する情報が信頼できるかについて上位5つをあげてもらった。疾患別の集計した回答結果を以下に記す（複数回答）。

高血圧の疾患では「大学病院、国立病院」54.0%、「公的な研究機関」46.9%、「民間の医療情報提供会社」40.9%、「厚生省などの国の機関」35.0%、「診療所・クリニック」34.3%、「製薬メーカー」34.3%、「患者（個人または団体）」30.7%、「医師会」29.7%、「地域の中核病院」26.7%、「保健所」20.8%、「薬剤師」13.5%、その他1.9%であった。

糖尿病の疾患では「大学病院、国立病院」52.0%、「公的な研究機関」48.5%、「患者（個人または団体）」38.6%、「民間の医療情報提供会社」36.1%、「診療所・クリニック」34.7%、「厚生省などの国の機関」33.2%、「製薬メーカー」29.7%、「医師会」23.8%、「地域の中核病院」21.8%、「保健所」19.3%、「薬剤師」12.4%、その他1.0%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「公的な研究機関」41.1%、「診療所・クリニック」40.4%、「大学病院、国立病院」39.5%、「患者（個人または団体）」37.3%、「民間の医療情報提供会社」35.1%、「製薬メーカー」32.9%、「厚生省などの国の機関」30.4%、「地域の中核病院」21.9%、「医師会」21.3%、「保健所」18.2%、「薬剤師」15.4%、その他2.5%であった。

喘息の疾患では「大学病院、国立病院」42.6%、「患者（個人または団体）」40.2%、「診療所・クリニック」38.6%、「公的な研究機関」37.3%、「民間の医療情報提供会社」37.3%、「製薬メーカー」29.7%、「厚生省などの国の機関」26.1%、「地域の中核病院」26.1%、「医師会」22.9%、「保健所」14.9%、「薬剤師」11.6%、その他4.4%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「公的な研究機関」58.3%、「患者（個人または団体）」50.0%、「大学病院、国立病院」45.8%、「民間の医療情報提供会社」40.6%、「製薬メーカー」26.0%、「保健所」25.0%、「厚生省などの国の機関」24.0%、「医師会」24.0%、「診療所・クリニック」20.8%、「地域の中核病院」14.6%、「薬剤師」9.4%、その他0%であった。

疾患別の比較では、信頼できるとするウェブサイトについて差異が認められた。高血圧、糖尿病、喘息では「大学病院、国立病院」が、アトピー性皮膚炎と胃がん・乳がん・大腸がんでは「公的な研究機関」が1位にあげられた。また、「診療所・クリニック」をみると、アトピー性皮膚炎では2位にあげられているが、胃がん・乳がん・大腸がんでは、9位に落ちている。胃がん・乳がん・大腸がんにおいて、「患者（個人または団体）」が「公的な研究機関」に次いで2位にあげられていることが目立った。

1.3.9 情報内容の信頼性の基準

情報を利用する時、内容の信頼性の基準としてどのような点に留意しているかに関し、「信頼できる」と思われる要素の中で重要なものは何かと尋ねた問いに対し、疾患別に集計した回答結果を以下に記す（複数回答）。

高血圧の疾患では「実在する医療機関が提供する情報である」58.4%、「公的な機関が提供する情報である」51.1%、「医師または医師団体が提供する情報である」47.4%、「患者（団体）が提供する情報である」39.2%、「薬をつくっている製薬メーカー自身が提供する情報である」31.9%、「薬剤師が提供する情報である」22.2%、その他2.7%であった。

糖尿病の疾患では「実在する医療機関が提供する情報である」58.6%、「公的な機関が提供する情報である」55.5%、「医師または医師団体が提供する情報である」44.5%、「患者（団体）が提供する情報である」41.8%、「薬をつくっている製薬メーカー自身が提供する情報である」27.3%、「薬剤師が提供する情報である」17.7%、その他0.5%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「実在する医療機関が提供する情報である」51.5%、「患者（団体）が提供する情報である」50.7%、「医師または医師団体が提供する情報である」47.6%、「公的な機関が提供する情報である」47.1%、「薬をつくっている製薬メーカー自身が提供する情報である」29.4%、「薬剤師が提供する情報である」19.4%、その他3.0%であった。

喘息の疾患では「実在する医療機関が提供する情報である」51.3%、「医師または医師団体が提供する情報である」51.0%、「患者（団体）が提供する情報である」47.9%、「公的な機関が提供する情報である」43.3%、「薬をつくっている製薬メーカー自身が提供する情報である」28.9%、「薬剤師が提供する情報である」16.0%、その他4.6%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「実在する医療機関が提供する情報である」60.2%、「患者（団体）が提供する情報である」48.1%、「公的な機関が提供する情報である」48.1%、「医師または医師団体が提供する情報である」47.2%、「薬をつくっている製薬メーカー自身が提供する情報である」20.4%、「薬剤師が提供する情報である」14.8%、その他0.9%であった。

疾患別の比較では、「実在する医療機関が提供する情報である」がいずれも1位にあげられたが、アトピー性皮膚炎と胃がん・乳がん・大腸がんでは、「患者（団体）が提供する情報である」ことが2位にあげられていた。

1.3.10 情報の信頼性を損ねる要因

情報を利用する時、利用者側からみて「信頼性を損ねる」要因は何かと尋ねた問いに対し、疾患

別に集計した回答結果を以下に記す（複数回答）。

高血圧の疾患では「誰が情報提供者がよくわからない」69.6%、「情報が一方的で偏っている」60.2%、「情報提供に営利的な要素がからんでいる」56.2%、「情報の作成日が古い」44.1%、「裏付けとなる文献・資料など、情報の出所が不明である」43.8%、「営利企業が提供している」38.3%、「情報に科学性、客観性がない」35.3%、「専門家の監修を経ていない」28.0%、「情報の作成日が不明である」24.6%、その他1.7%であった。

糖尿病の疾患では「誰が情報提供者がよくわからない」67.3%、「情報提供に営利的な要素がからんでいる」59.5%、「情報が一方的で偏っている」54.5%、「裏付けとなる文献・資料など、情報の出所が不明である」44.1%、「情報に科学性、客観性がない」40.9%、「営利企業が提供している」40.5%、「情報の作成日が古い」40.5%、「専門家の監修を経ていない」27.3%、「情報の作成日が不明である」21.4%、その他1.7%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「誰が情報提供者がよくわからない」67.6%、「情報が一方的で偏っている」65.4%、「情報提供に営利的な要素がからんでいる」62.6%、「裏付けとなる文献・資料など、情報の出所が不明である」46.8%、「営利企業が提供している」45.4%、「情報の作成日が古い」45.2%、「情報に科学性、客観性がない」37.7%、「専門家の監修を経ていない」23.3%、「情報の作成日が不明である」28.3%、その他0.8%であった。

喘息の疾患では「情報が一方的で偏っている」66.5%、「誰が情報提供者がよくわからない」62.4%、「情報提供に営利的な要素がからんでいる」58.9%、「情報の作成日が古い」46.4%、「営利企業が提供している」46.0%、「裏付けとなる文献・資料など、情報の出所が不明である」44.5%、「情報に科学性、客観性がない」36.1%、「専門家の監修を経ていない」27.0%、「情報の作成日が不明である」25.9%、その他1.5%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「誰が情報提供者がよくわからない」69.4%、「情報提供に営利的な要素がからんでいる」64.8%、「情報が一方的で偏っている」63.9%、「裏付けとなる文献・資料など、情報の出所が不明である」52.8%、「営利企業が提供している」50.0%、「情報の作成日が古い」44.4%、「情報に科学性、客観性がない」38.0%、「専門家の監修を経ていない」33.3%、「情報の作成日が不明である」31.5%、その他0.9%であった。

疾患別の比較では、「誰が情報提供者がよくわからない」や「情報が一方的で偏っている」が首位にあげられたが、胃がん・乳がん・大腸がんでは、「裏付けとなる文献・資料など、情報の出所が不明である」「営利企業が提供している」「情報提供に営利的な要素がからんでいる」が他の疾患に比較して高かった。

1.3.11 掲示板やオンライン会議室の利用頻度

インターネット上の掲示板やオンライン会議室の利用頻度について疾患別に集計した結果を以下に記す。

高血圧の疾患では「ほとんど毎日」6.7%、「1週間に1度以上」12.5%、「1カ月に1～3回」32.2%、「1年に1～数回」48.6%であった。

糖尿病の8.6%、「1週間に1度以上」13.6%、「1カ月に1～3回」26.8%、「1年に1～数回」50.9%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「ほとんど毎日」13.3%、「1週間に1度以上」17.2%、「1カ月に1～3回」29.4%、「1年に1～数回」40.2%であった。

喘息の疾患では「ほとんど毎日」15.2%、「1週間に1度以上」14.4%、「1カ月に1～3回」24.3%、「1年に1～数回」46.0%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「ほとんど毎日」9.3%、「1週間に1度以上」19.4%、「1カ月に1～3回」28.7%、「1年に1～数回」42.6%であった。

疾患別の比較では、アトピー性皮膚炎と喘息において、「ほとんど毎日」をあげる割合が高かった一方、高血圧や糖尿病においては「ほとんど毎日」と「1週間に1度以上」をあげる割合は低かった。

1.3.12 掲示板やオンライン会議室利用のメリット

掲示板やオンライン会議室を利用するメリット（利点）は何かと尋ねた問いに対し、疾患別に集計した回答結果を以下に記す（複数回答）。

高血圧の疾患では「同じ患者の書き込みから参考情報が得られる」51.7%、「病気や治療法に関する情報が交換できる」50.5%、「医師など専門家の意見をきくことができる」31.6%、「医療機関や医師に関する情報が交換できる」24.3%、「自分の意見を書き込むことができる」17.9%、「コミュニケーションを深めることができる」16.7%、「自分の持っている情報が提供できる」10.9%、その他2.0%であった。

糖尿病の疾患では「同じ患者の書き込みから参考情報が得られる」58.2%、「病気や治療法に関する情報が交換できる」52.7%、「医師など専門家の意見をきくことができる」35.5%、「医療機関や医師に関する情報が交換できる」23.2%、「コミュニケーションを深めることができる」19.1%、「自分の意見を書き込むことができる」16.4%、「自分の持っている情報が提供できる」12.3%、その他2.7%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「同じ患者の書き込みから参考情報が得られる」68.7%、「病気や治療法に関する情報が交換できる」52.4%、「医師など専門家の意見をきくことができる」33.2%、「医療機関や医師に関する情報が交換できる」26.3%、「コミュニケーションを深めることができる」24.7%、「自分の意見を書き込むことができる」23.8%、「自分の持っている情報が提供できる」15.2%、その他1.7%であった。

喘息の疾患では「同じ患者の書き込みから参考情報が得られる」65.8%、「病気や治療法に関する情報が交換できる」54.4%、「医師など専門家の意見をきくことができる」35.4%、「医療機関や医師に関する情報が交換できる」26.6%、「自分の意見を書き込むことができる」22.1%、「コミュニケーションを深めることができる」20.2%、「自分の持っている情報が提供できる」18.3%、その他3.8%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「同じ患者の書き込みから参考情報が得られる」65.7%、「病気や治療法に関する情報が交換できる」51.9%、「医師など専門家の意見をきくことができる」33.3%、「医療機関や医師に関する情報が交換できる」30.6%、「自分の意見を書き込むことができる」22.2%、「コミュニケーションを深めることができる」13.9%、「自分の持っている情報が提供できる」9.3%、その他2.8%であった。

疾患別の比較では、アトピー性皮膚炎、喘息、胃がん・乳がん・大腸がんにおいて、「同じ患者の書き込みから参考情報が得られる」をあげる割合が特に高かった。

1.3.13 掲示板やオンライン会議室の利用時の問題点

掲示板やオンライン会議室を利用する時の問題点としてあげられたものについて、疾患別に集計した結果を以下に記す（複数回答）。

高血圧の疾患では「内容に思い込みや偏見がある」53.5%、「営利、広告目的の投稿がある」43.8%、「投稿者の身分、立場がわからない場合がある」40.7%、「感情的なやりとりがある」37.4%、「他人のプライバシーを侵害する投稿がある」26.4%、「投稿者自身のプライバシーが危ないことがある」25.8%、「低俗な表現や乱暴な言葉遣いがある」24.0%、「誹謗、中傷の内容がある」22.5%、「匿名の投稿がある」21.9%、その他3.3%であった。

糖尿病の疾患では「内容に思い込みや偏見がある」53.2%、「営利、広告目的の投稿がある」46.8%、「投稿者の身分、立場がわからない場合がある」38.6%、「感情的なやりとりがある」33.2%、「投稿者自身のプライバシーが危ないことがある」26.4%、「誹謗、中傷の内容がある」24.1%、「他人のプライバシーを侵害する投稿がある」21.4%、「低俗な表現や乱暴な言葉遣いがある」21.4%、「匿名の投稿がある」17.3%、その他1.8%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「内容に思い込みや偏見がある」55.4%、「営利、広告目的の投稿がある」51.0%、「投稿者の身分、立場がわからない場合がある」42.1%、「感情的なやりとりがある」41.3%、「投稿者自身のプライバシーが危ないことがある」28.8%、「他人のプライバシーを侵害する投稿がある」28.3%、「低俗な表現や乱暴な言葉遣いがある」27.7%、「誹謗、中傷の内容がある」27.1%、「匿名の投稿がある」20.5%、その他1.7%であった。

喘息の疾患では「内容に思い込みや偏見がある」56.7%、「営利、広告目的の投稿がある」46.0%、「感情的なやりとりがある」41.4%、「投稿者の身分、立場がわからない場合がある」40.7%、「誹謗、中傷の内容がある」28.9%、「投稿者自身のプライバシーが危ないことがある」25.1%、「低俗な表現や乱暴な言葉遣いがある」25.1%、「他人のプライバシーを侵害する投稿がある」24.3%、「匿名の投稿がある」20.9%、その他4.6%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「内容に思い込みや偏見がある」55.6%、「営利、広告目的の投稿がある」46.3%、「投稿者の身分、立場がわからない場合がある」44.4%、「投稿者自身のプライバシーが危ないことがある」34.3%、「感情的なやりとりがある」31.5%、「他人のプライバシーを侵害する投稿がある」25.9%、「誹謗、中傷の内容がある」24.1%、「低俗な表現や乱暴な言葉遣いがある」17.6%、「匿名の投稿がある」16.7%、その他1.9%であった。

疾患別の比較では、全疾患を通じて、「内容に思い込みや偏見がある」が問題点の一番としてあげられた。アトピー性皮膚炎、喘息においては、「感情的なやりとりがある」が他の疾患よりも高かった。また、胃がん・乳がん・大腸がんにおいては、「投稿者自身のプライバシーが危ないことがある」をあげる割合が他の疾患に比べて高かった。

1.3.14 医療相談の体験

今までにインターネットで医療相談をしたことがあるかどうかを尋ねた問いに対し、疾患別に集計した回答結果を以下に記す。なお、同じ内容で複数回のやりとりは1回とみなした。

高血圧の疾患では「1回利用したことがある」16.4%、「2回以上利用したことがある」11.6%で、両方の合計で、28.0%であった。

糖尿病の疾患では「1回利用したことがある」15.9%、「2回以上利用したことがある」17.3%で、両方の合計で、33.2%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「1回利用したことがある」19.4%、「2回以上利用したことがある」13.3%で、両方の合計で、32.7%であった。

喘息の疾患では「1回利用したことがある」17.9%、「2回以上利用したことがある」12.2%で、両方の合計で、30.1%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「1回利用したことがある」13.9%、「2回以上利用したことがある」15.7%で、両方の合計で、29.6%であった。

疾患別の比較では、医療相談の体験は糖尿病において一番高く、高血圧において一番低かった。

1.3.15 医療相談の相手

医療相談を「利用したことがある」と回答した人 310名を対象に、相談の相手がどのような立場の人だったかを尋ねた（複数回答）。回答があった309名のうち、疾患別に集計した回答結果を以下に記す。

高血圧の疾患では「医療機関のサイトや相談ページで直接は知らない医師」64.1%、「民間の医療情報提供会社」22.8%、「患者（団体）」18.5%、「製薬メーカー」13.0%、「薬剤師または薬局」12.0%、「かかりつけの医師」7.6%、「利用している医療機関の他の医師」7.6%、「医療機関のサイトや相談ページで医療従事者ではない人」6.5%、「医療機関のサイトや相談ページで看護婦や検査技師などのコメディカル」6.5%、「保健所職員」2.2%、その他1.1%であった。

糖尿病の疾患では「医療機関のサイトや相談ページで直接は知らない医師」62.5%、「製薬メーカー」23.6%、「患者（団体）」22.2%、「民間の医療情報提供会社」16.7%、「薬剤師または薬局」12.5%、「かかりつけの医師」6.9%、「利用している医療機関の他の医師」4.2%、「医療機関のサイトや相談ページで医療従事者ではない人」4.2%、「医療機関のサイトや相談ページで看護婦や検査技師などのコメディカル」4.2%、「保健所職員」0%、その他2.8%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「医療機関のサイトや相談ページで直接は知らない医師」67.8%、「民間の医療情報提供会社」16.1%、「患者（団体）」14.4%、「薬剤師または薬局」9.3%、「製薬メーカー」8.5%、「医療機関のサイトや相談ページで医療従事者ではない人」7.6%、「かかりつけの医師」6.8%、「利用している医療機関の他の医師」6.8%、「医療機関のサイトや相談ページで看護婦や検査技師などのコメディカル」6.8%、「保健所職員」0.8%、その他2.5%であった。

喘息の疾患では「医療機関のサイトや相談ページで直接は知らない医師」64.6%、「患者（団体）」25.3%、「民間の医療情報提供会社」19.0%、「利用している医療機関の他の医師」10.1%、「薬剤師または薬局」7.6%、「製薬メーカー」7.6%、「医療機関のサイトや相談ページで看護婦や検査技師などのコメディカル」6.3%、「かかりつけの医師」5.1%、「医療機関のサイトや相談ページで医療従事者ではない人」5.1%、「保健所職員」0%、その他1.3%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「医療機関のサイトや相談ページで直接は知らない医師」62.5%、「患者（団体）」25.0%、「かかりつけの医師」18.8%、「民間の医療情報提供会社」18.8%、「製薬メーカー」15.6%、「薬剤師または薬局」12.5%、「利用している医療機関の他の医師」9.4%、「医療機関のサイトや相談ページで医療従事者ではない人」6.3%、「医療機関のサイトや相談ページで看護婦や検査技師などのコメディカル」6.3%、「保健所職員」3.1%、その他3.1%であった。

疾患別の比較では、一番に「医療機関のサイトや相談ページで直接は知らない医師」をあげたものがいずれも6割を超えてい。概して「かかりつけの医師」が低い中でも、胃がん・乳がん・大腸がんでは「かかりつけの医師」をあげるものが高かった。また、「製薬メーカー」をあげるものは、全般的に低い中で、糖尿病において高い割合を示していた。

1.3.16 医療相談時の不安

今までの医療相談において、または今後、医療相談などのオンラインでのケアサービスを利用するに際して、利用者側からみて「不安に感じる」のは、どのような場合であるかと尋ねた問いに対

し、疾患別に集計した回答結果を以下に記す（複数回答）。

高血圧の疾患では「相手が本当に実在する医師かどうか確認できない場合」60.5%、「自分の健康データなど個人情報が守られているかわからない場合」60.2%、「得られたアドバイスが正しいものかどうかかわからない場合」57.8%、「相手が医師など医療従事者でない場合」41.3%、その他0.9%であった。

糖尿病の疾患では「自分の健康データなど個人情報が守られているかわからない場合」63.6%、「得られたアドバイスが正しいものかどうかかわからない場合」56.4%、「相手が本当に実在する医師かどうか確認できない場合」56.4%、「相手が医師など医療従事者でない場合」37.3%、その他0%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「自分の健康データなど個人情報が守られているかわからない場合」64.3%、「得られたアドバイスが正しいものかどうかかわからない場合」60.7%、「相手が本当に実在する医師かどうか確認できない場合」55.4%、「相手が医師など医療従事者でない場合」41.8%、その他2.8%であった。

喘息の疾患では「自分の健康データなど個人情報が守られているかわからない場合」62.4%、「得られたアドバイスが正しいものかどうかかわからない場合」58.6%、「相手が本当に実在する医師かどうか確認できない場合」55.9%、「相手が医師など医療従事者でない場合」40.7%、その他2.3%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「得られたアドバイスが正しいものかどうかかわからない場合」62.0%、「相手が本当に実在する医師かどうか確認できない場合」58.3%、「自分の健康データなど個人情報が守られているかわからない場合」53.7%、「相手が医師など医療従事者でない場合」36.1%、その他1.9%であった。

疾患別の比較では、「自分の健康データなど個人情報が守られているかわからない場合」を一番にあげたのが、高血圧、糖尿病、アトピー性皮膚炎、喘息の3疾患であったのに対し、胃がん・乳がん・大腸がんでは「得られたアドバイスが正しいものかどうかかわからない場合」が一番にあげられていた。

1.3.17 信頼できる医療相談の相手

オンラインで医療や健康に関する相談する際、信頼できる相手として誰を選ぶかについて、上位3つまであげてもらった。疾患別の集計した回答結果を以下に記す。

高血圧の疾患では「医師」93.6%、「薬剤師」38.0%、「患者（団体）」31.0%、「看護婦・検査技師などのコメディカル」30.7%、「民間の医療情報提供会社」29.8%、「保健所職員」18.5%、「製薬メーカー」12.2%、その他1.2%であった。

糖尿病の疾患では「医師」93.6%、「薬剤師」35.9%、「看護婦・検査技師などのコメディカル」35.5%、「民間の医療情報提供会社」28.6%、「患者（団体）」26.8%、「保健所職員」17.3%、「製薬メーカー」11.4%、その他0.9%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「医師」91.7%、「薬剤師」40.4%、「患者（団体）」33.2%、「看護婦・検査技師などのコメディカル」32.1%、「民間の医療情報提供会社」26.9%、「保健所職員」15.0%、「製薬メーカー」10.8%、その他1.1%であった。

喘息の疾患では「医師」93.5%、「患者（団体）」40.7%、「薬剤師」35.0%、「看護婦・検査技師などのコメディカル」30.8%、「民間の医療情報提供会社」24.3%、「保健所職員」14.8%、「製薬メー

カー」11.0%、その他2.7%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「医師」91.7%、「民間の医療情報提供会社」40.7%、「看護婦・検査技師などのコメディカル」34.3%、「患者（団体）」33.3%、「薬剤師」30.6%、「保健所職員」15.7%、「製薬メーカー」14.8%、その他1.9%であった。

疾患別の比較では、いずれの疾患においても9割以上が相談相手として「医師」を選んでいたが、喘息においては「患者（団体）」が、また胃がん・乳がん・大腸がんにおいては「民間の医療情報提供会社」が、他の疾患よりも高い割合を示し、「医師」に次ぐ順位に位置していたことが目立った。

1.3.18 個人の医療（健康）情報への取り扱いへの関心

インターネットの普及でプライバシー性の高い個人の医療（健康）情報が、さまざまに流通・利用されるようになっていくことに関し、個人の医療（健康）情報がどう扱われていくかについて関心の程度を尋ねた問いに対し、疾患別に集計した回答結果を以下に記す。

高血圧の疾患では「非常に関心がある」31.3%、「まあまあ関心がある」58.1%、「あまり関心はない」10.3%、「まったく関心はない」0.3%であった。「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた割合は、89.4%であった。

糖尿病の疾患では「非常に関心がある」34.5%、「まあまあ関心がある」54.5%、「あまり関心はない」10.9%、「まったく関心はない」0%であった。「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた割合は、89.0%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「非常に関心がある」38.0%、「まあまあ関心がある」52.9%、「あまり関心はない」9.1%、「まったく関心はない」0%であった。「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた割合は、90.9%であった。

喘息の疾患では「非常に関心がある」39.9%、「まあまあ関心がある」51.0%、「あまり関心はない」8.7%、「まったく関心はない」0.4%であった。「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた割合は、90.9%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「非常に関心がある」29.6%、「まあまあ関心がある」62.0%、「あまり関心はない」8.3%、「まったく関心はない」0%であった。「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた割合は、91.6%であった。

疾患別の比較では、いずれの疾患においても「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた割合が9割前後という高い数字を示していたが、「非常に関心がある」だけみると喘息が一番高かった。

1.3.19 関心の内容について

前問で、「非常に関心がある」「まあまあ関心がある」と回答した968名を対象に、どのようなことに関心があるかを尋ねた。回答があった963名のうち、疾患別に集計した回答結果を以下に記す（複数回答）。

高血圧の疾患では「どのような目的に利用されているかについて」73.1%、「第三者に利用されていないかについて」61.9%、「何の情報が収集されているかについて」55.1%、「誰が情報やデータを扱っているかについて」54.1%、「どのように内部で管理されているかについて」51.4%、「コンピュータのハッキングや不正アクセスに対して防衛対策があるかについて」41.5%、「保管された情報が間違っていないかどうかについて」31.3%、その他0%であった。

糖尿病の疾患では「どのような目的に利用されているかについて」75.3%、「第三者に利用されていないかについて」66.5%、「誰が情報やデータを扱っているかについて」59.3%、「何の情報が収集されているかについて」55.7%、「どのように内部で管理されているかについて」53.6%、「コンピュータのハッキングや不正アクセスに対して防衛対策があるかについて」44.3%、「保管された情報が間違っていないかどうかについて」27.8%、その他0.5%であった。アトピー性皮膚炎の疾患では「どのような目的に利用されているかについて」78.0%、「第三者に利用されていないかについて」69.1%、「誰が情報やデータを扱っているかについて」65.1%、「何の情報が収集されているかについて」54.7%、「どのように内部で管理されているかについて」54.4%、「コンピュータのハッキングや不正アクセスに対して防衛対策があるかについて」47.4%、「保管された情報が間違っていないかどうかについて」29.1%、その他0.6%であった。

喘息の疾患では「どのような目的に利用されているかについて」77.7%、「第三者に利用されていないかについて」66.4%、「誰が情報やデータを扱っているかについて」62.6%、「何の情報が収集されているかについて」61.3%、「どのように内部で管理されているかについて」58.0%、「コンピュータのハッキングや不正アクセスに対して防衛対策があるかについて」45.0%、「保管された情報が間違っていないかどうかについて」32.4%、その他0.8%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「どのような目的に利用されているかについて」71.7%、「第三者に利用されていないかについて」65.7%、「誰が情報やデータを扱っているかについて」63.6%、「何の情報が収集されているかについて」54.5%、「どのように内部で管理されているかについて」51.5%、「コンピュータのハッキングや不正アクセスに対して防衛対策があるかについて」38.4%、「保管された情報が間違っていないかどうかについて」35.4%、その他1.1%であった。

疾患別の比較では、いずれの疾患においても「どのような目的に利用されているかについて」が一番にあげられ、次に「第三者に利用されていないかについて」が続いていた。

1.3.20 プライバシーポリシーの必要性について

インターネットを利用して医療機関や企業が、個人の医療（健康）情報を取り扱う場合、個人情報の取得方法や管理方法に関して、個人情報の取り扱い方針を作成し、これをウェブサイト上で利用者に告知する、いわゆるプライバシーポリシーについて、その必要性を尋ねた問いに対し、疾患別に集計した回答結果を以下に記す。

高血圧の疾患では「プライバシーポリシーは不可欠である」77.8%、「プライバシーポリシーはできればあったほうがいい」17.9%、「プライバシーポリシーはなくてもいい」2.1%、「よくわからない」2.1%であった。プライバシーポリシーは不可欠である」と「プライバシーポリシーはできればあったほうがいい」を合わせた割合は、95.7%であった。

糖尿病の疾患では「プライバシーポリシーは不可欠である」78.2%、「プライバシーポリシーはできればあったほうがいい」18.6%、「プライバシーポリシーはなくてもいい」0.5%、「よくわからない」2.7%であった。「プライバシーポリシーは不可欠である」と「プライバシーポリシーはできればあったほうがいい」を合わせた割合は、96.8%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「プライバシーポリシーは不可欠である」85.3%、「プライバシーポリシーはできればあったほうがいい」12.7%、「プライバシーポリシーはなくてもいい」1.1%、「よくわからない」0.8%であった。「プライバシーポリシーは不可欠である」と「プライバシーポリシーはできればあったほうがいい」を合わせた割合は、98.0%であった。

喘息の疾患では「プライバシーポリシーは不可欠である」82.5%、「プライバシーポリシーはでき

ればあったほうがいい」14.8%、「プライバシーポリシーはなくてもいい」0.4%、「よくわからない」2.3%であった。「プライバシーポリシーは不可欠である」と「プライバシーポリシーはできればあったほうがいい」を合わせた割合は、97.3%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「プライバシーポリシーは不可欠である」75.9%、「プライバシーポリシーはできればあったほうがいい」20.4%、「プライバシーポリシーはなくてもいい」0%、「よくわからない」3.7%であった。「プライバシーポリシーは不可欠である」と「プライバシーポリシーはできればあったほうがいい」を合わせた割合は、96.3%であった。

疾患別の比較では、いずれの疾患においても「プライバシーポリシーは不可欠である」と「プライバシーポリシーはできればあったほうがいい」を合わせた割合が95%を超える高い数字を示していた。中でも、アトピー性皮膚炎では「プライバシーポリシーは不可欠である」とする割合が一番高かった。

1.3.21 プライバシーポリシーの運用法について

法的な拘束性のないプライバシーポリシーの運用に際して、第三者機関からのチェックや法的な規制の必要性を尋ねた問いに対し、疾患別に集計した回答結果を以下に記す。

高血圧の疾患では「プライバシーポリシーを法的に義務づけるべきである」40.1%、「プライバシーポリシーの策定だけでなく、これを監査・評価する第三者機関の設置が必要である」27.7%、「法的な規制もしくは強制力のあるガイドラインが必要である」25.8%、「プライバシーポリシーの自主的な運用で充分である」6.4%であった。

糖尿病の疾患では「プライバシーポリシーを法的に義務づけるべきである」40.9%、「法的な規制もしくは強制力のあるガイドラインが必要である」33.2%、「プライバシーポリシーの策定だけでなく、これを監査・評価する第三者機関の設置が必要である」20.0%、「プライバシーポリシーの自主的な運用で充分である」5.9%であった。

アトピー性皮膚炎の疾患では「プライバシーポリシーを法的に義務づけるべきである」38.5%、「プライバシーポリシーの策定だけでなく、これを監査・評価する第三者機関の設置が必要である」27.7%、「法的な規制もしくは強制力のあるガイドラインが必要である」26.9%、「プライバシーポリシーの自主的な運用で充分である」6.9%であった。

喘息の疾患では「プライバシーポリシーを法的に義務づけるべきである」45.2%、「法的な規制もしくは強制力のあるガイドラインが必要である」25.1%、「プライバシーポリシーの策定だけでなく、これを監査・評価する第三者機関の設置が必要である」24.3%、「プライバシーポリシーの自主的な運用で充分である」5.3%であった。

胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「プライバシーポリシーを法的に義務づけるべきである」44.4%、「プライバシーポリシーの策定だけでなく、これを監査・評価する第三者機関の設置が必要である」25.0%、「法的な規制もしくは強制力のあるガイドラインが必要である」24.1%、「プライバシーポリシーの自主的な運用で充分である」6.5%であった。

疾患別の比較では、いずれの疾患においても「プライバシーポリシーを法的に義務づけるべきである」が1位となっていた。これに「プライバシーポリシーの策定だけでなく、これを監査・評価する第三者機関の設置が必要である」「法的な規制もしくは強制力のあるガイドラインが必要である」と合わせると、いずれも9割を超えていた。「プライバシーポリシーの自主的な運用で充分である」とする割合はいずれの疾患においても7%以下であった。

1.3.22 倫理規範やガイドラインについて

インターネット上で提供される情報やサービスの質を確保するため、情報やサービスの提供者が自主的に定めていく倫理規範やガイドラインについてどう思うかと尋ねた問いに対し、疾患別に集計した回答結果を以下に記す。

高血圧の疾患では「ぜひ必要だと思う」60.5%、「やや必要だと思う」37.1%、「あまり必要だと思わない」2.4%、「必要ない」0%であった。「ぜひ必要だと思う」と「やや必要だと思う」を合わせた割合は、97.6%であった。

糖尿病の疾患では「ぜひ必要だと思う」61.8%、「やや必要だと思う」35.9%、「あまり必要だと思わない」1.4%、「必要ない」0.9%であった。「ぜひ必要だと思う」と「やや必要だと思う」を合わせた割合は、97.7%であった。

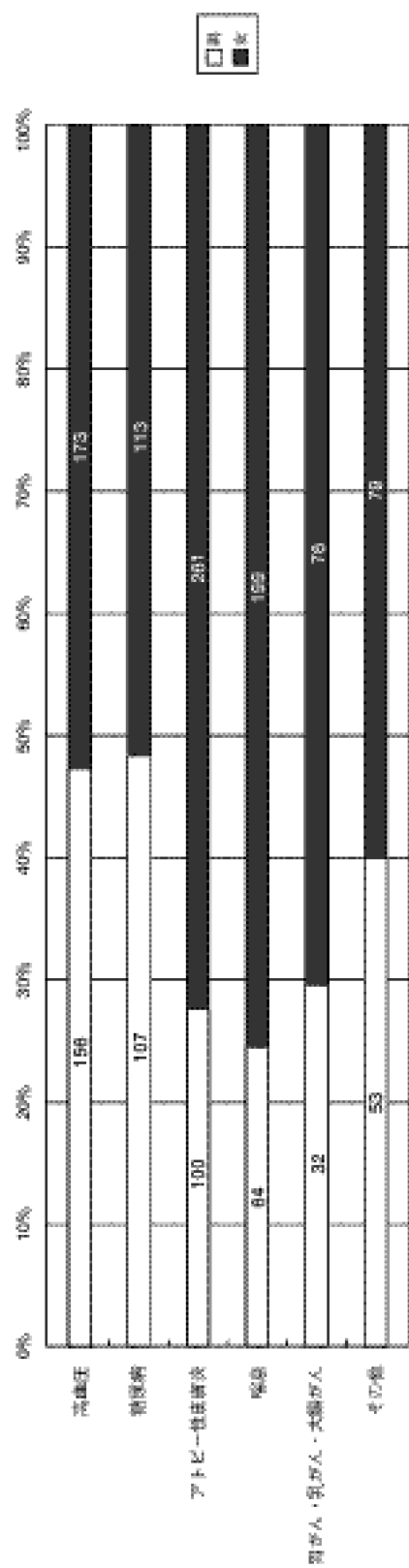
アトピー性皮膚炎の疾患では「ぜひ必要だと思う」64.8%、「やや必要だと思う」33.5%、「あまり必要だと思わない」1.7%、「必要ない」0%であった。「ぜひ必要だと思う」と「やや必要だと思う」を合わせた割合は、98.3%であった。

喘息の疾患では「ぜひ必要だと思う」60.8%、「やや必要だと思う」35.7%、「あまり必要だと思わない」3.4%、「必要ない」0%であった。「ぜひ必要だと思う」と「やや必要だと思う」を合わせた割合は、96.5%であった。

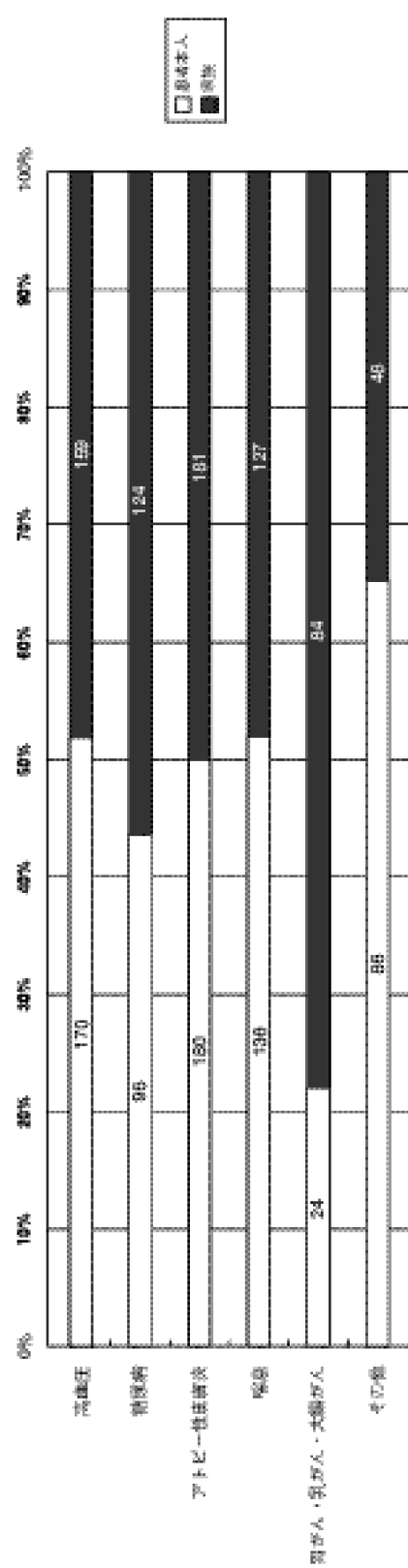
胃がん・乳がん・大腸がんの疾患では「ぜひ必要だと思う」61.1%、「やや必要だと思う」34.3%、「あまり必要だと思わない」3.7%、「必要ない」0.9%であった。「ぜひ必要だと思う」と「やや必要だと思う」を合わせた割合は、95.4%であった。

疾患別の比較では、いずれの疾患においても「ぜひ必要だと思う」が6割以上、また「ぜひ必要だと思う」と「やや必要だと思う」を合わせた割合も95%を超えていて、倫理規範やガイドラインの必要性を感じていることが示された。

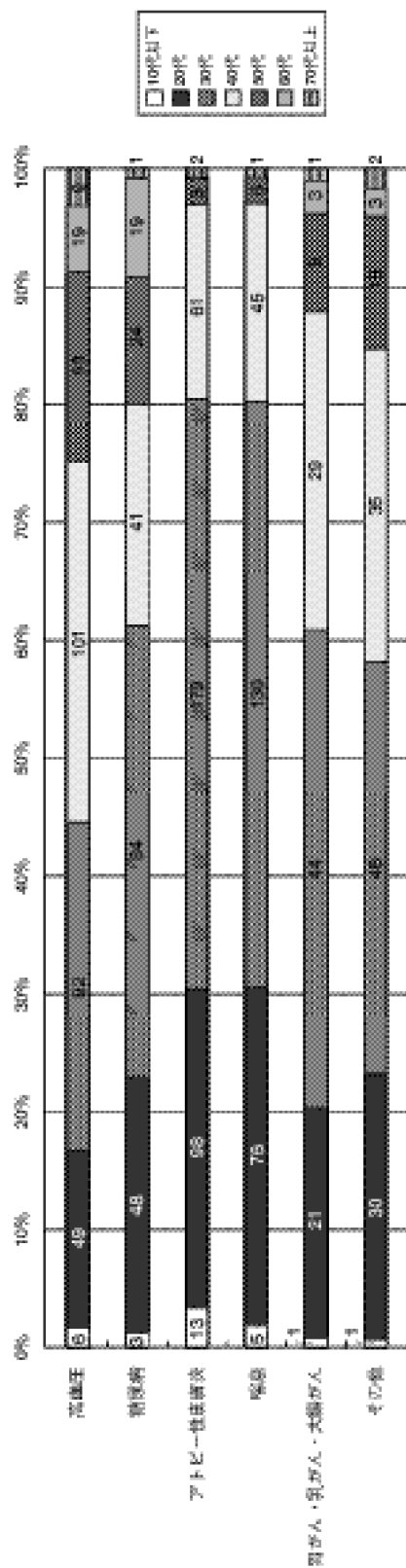
■性別 × 病気の種類



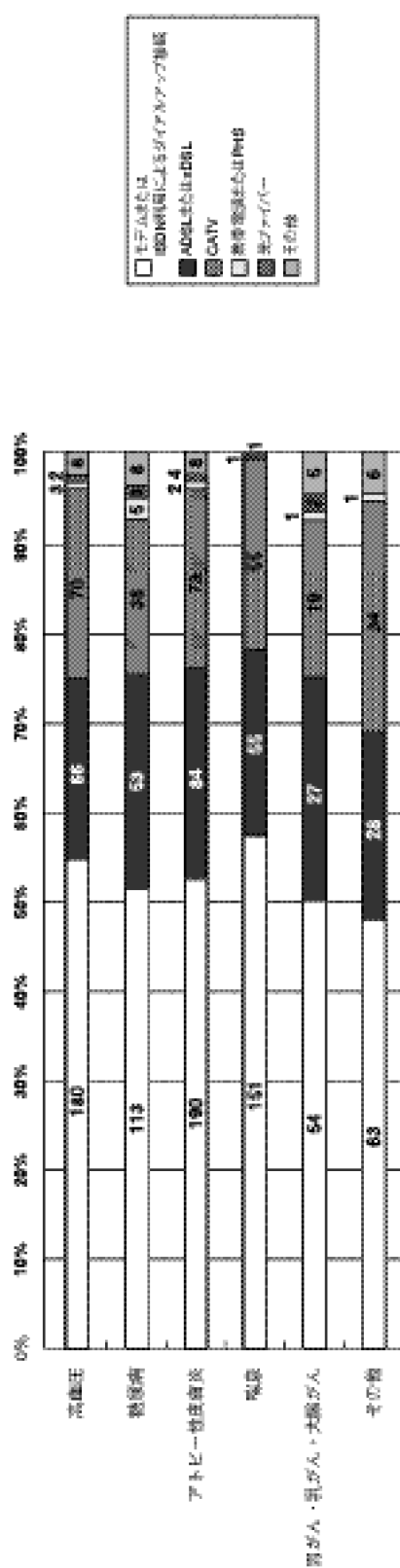
■患者本人・家族 × 病気の種類



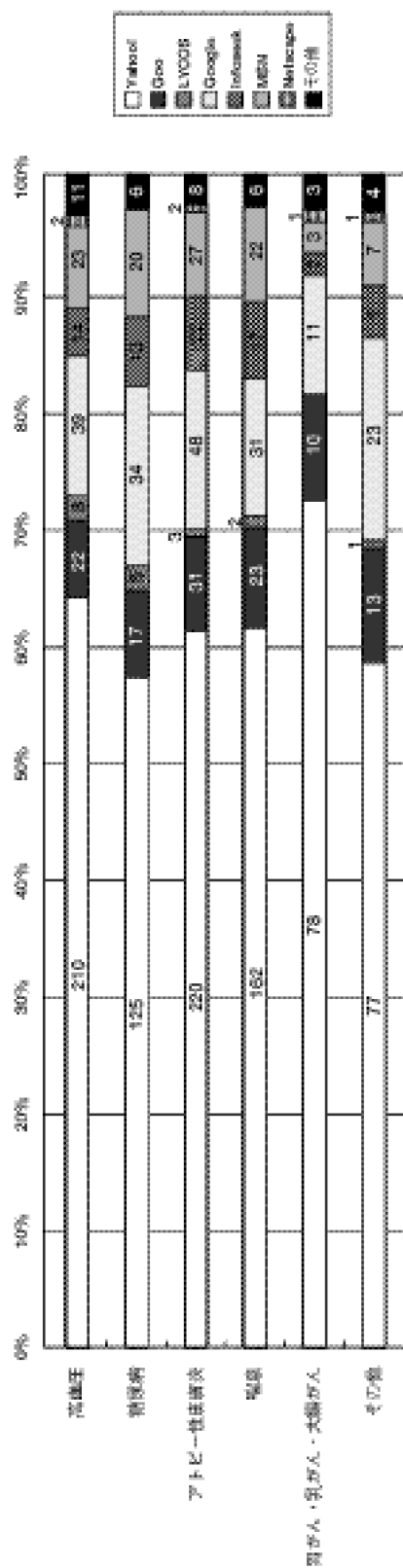
■年代 × 病気の種類



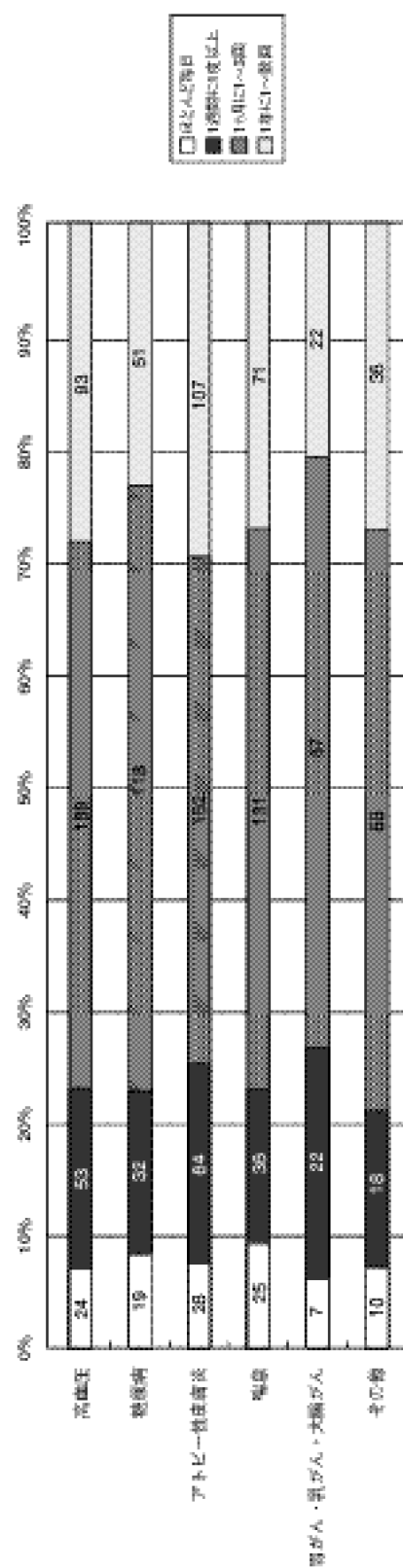
■問1 インターネットへの接続方法 × 病気の種類



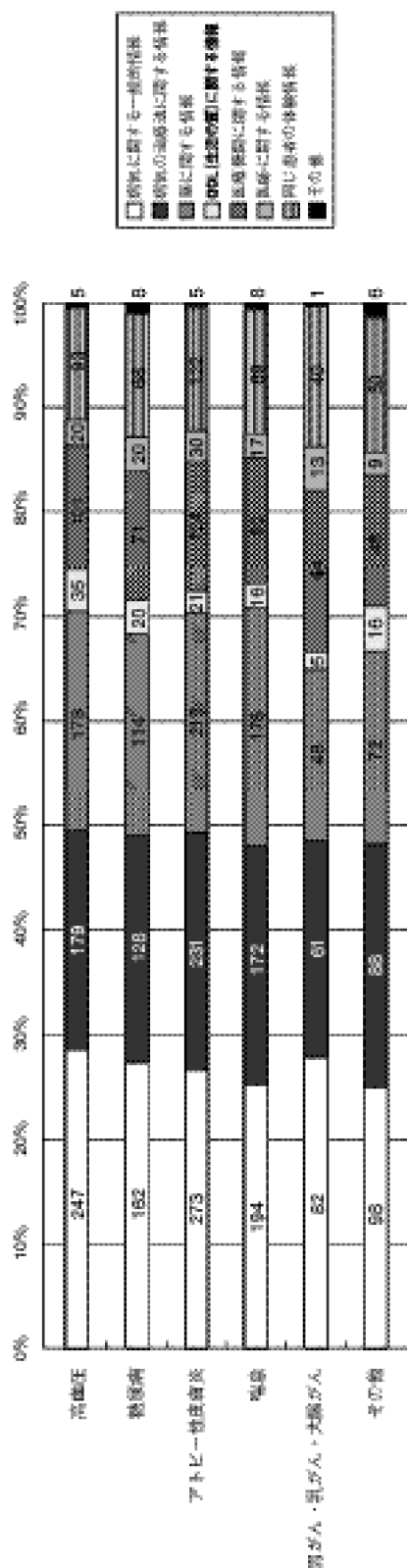
■問2 医療(健康)情報を検索する時、最もよく利用する検索エンジン×病気の種類



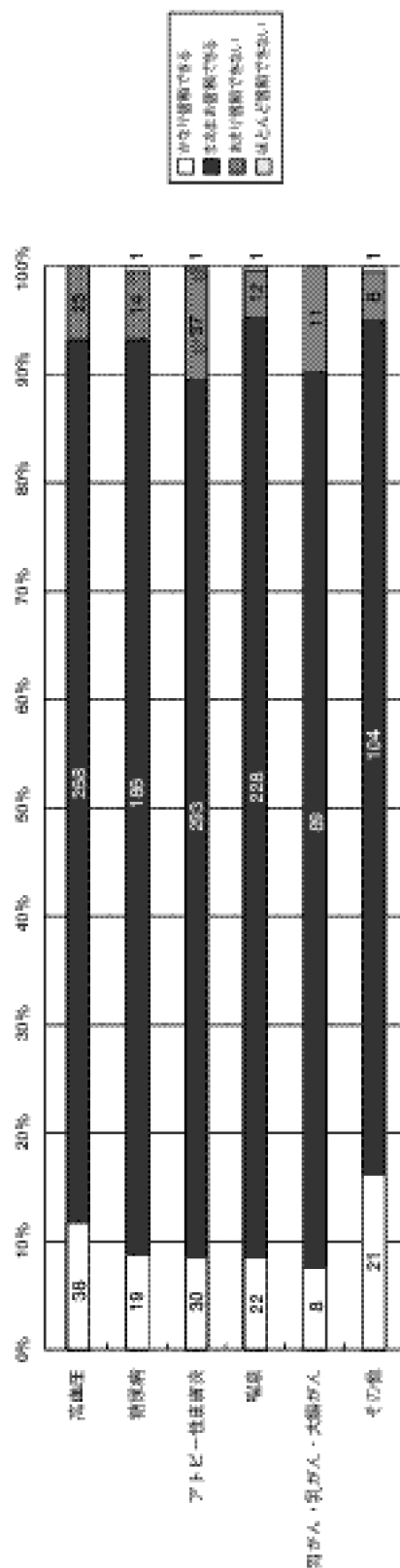
■問3 インターネットを利用して病気や薬などに関する情報をどのくらいの頻度で利用されていますか？
(掲示板やオンライン会議室は除きます)×病気の種類



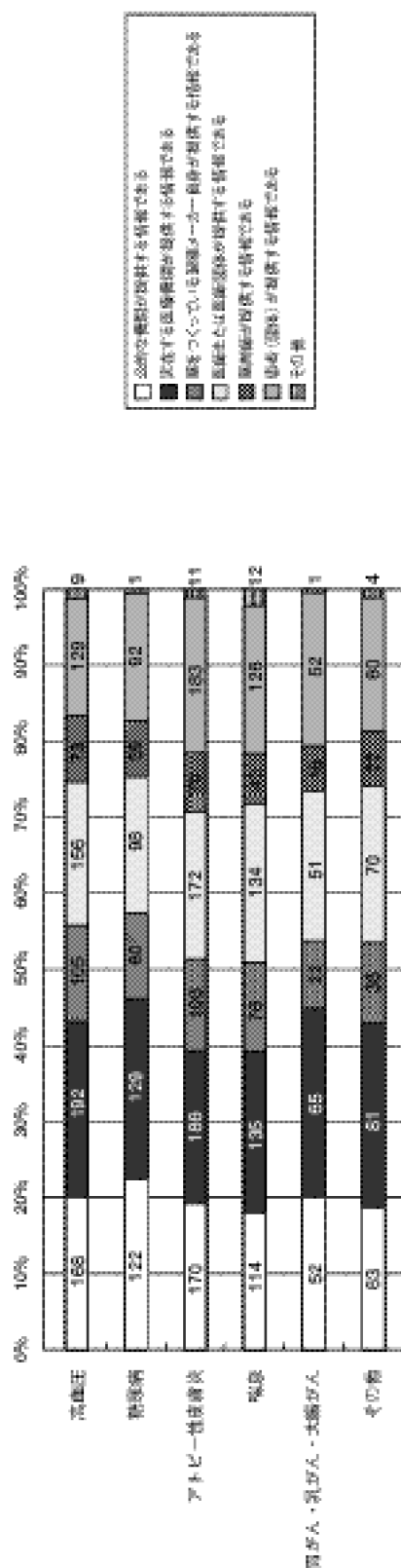
■問4 利用されている情報はどのようなものですか？(いくつでも) × 病気の種類



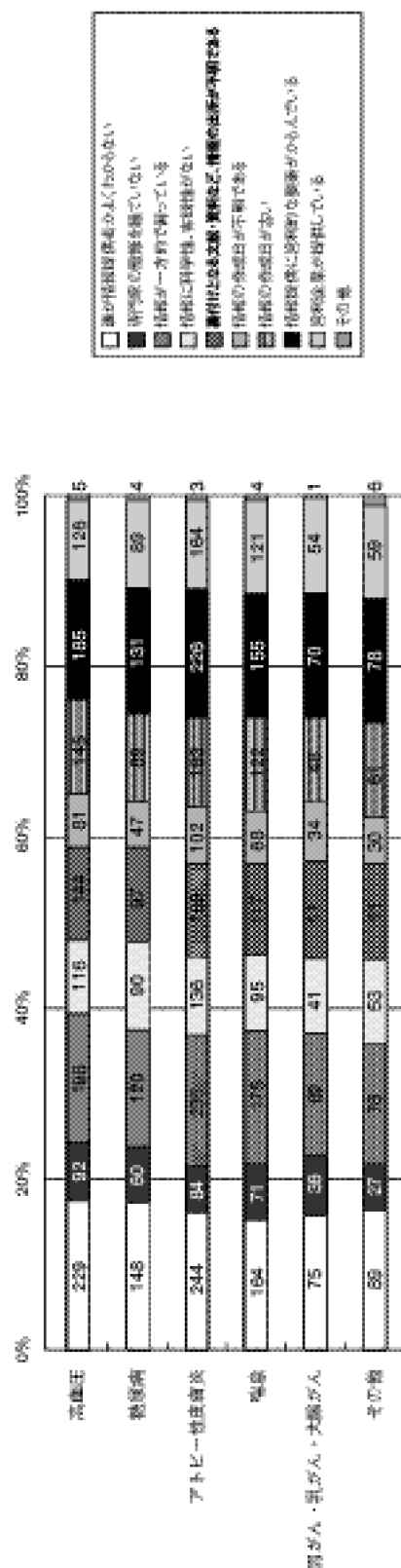
■問5 利用されている情報は全体的にみて、「信頼できる」と思われますか？ × 病気の種類



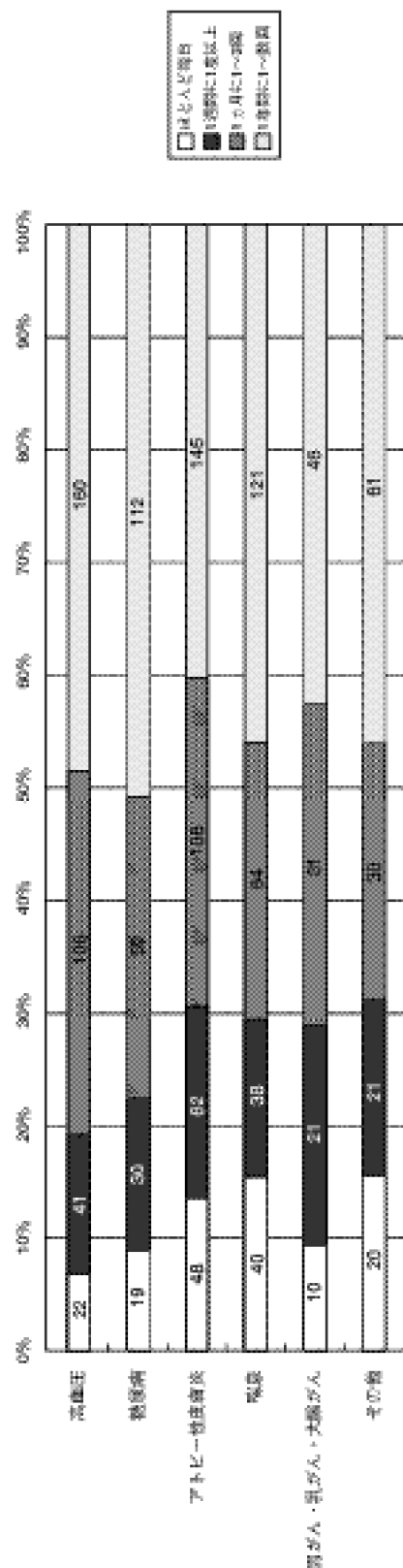
■問6 情報を利用される時、内容の信頼性の基準としてどのような点に留意されますか？
「信頼できる」と思われる要素の中で重要なものをあげてください。× 病気の種類



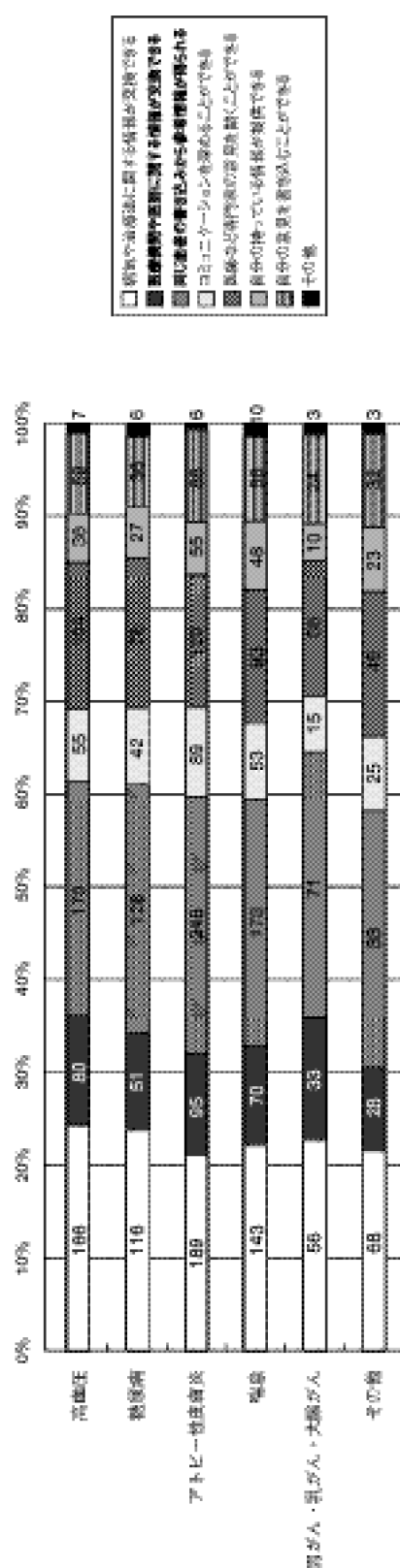
■問7 情報を利用される時、利用者側からみて「信頼性を損ねる」と考えられることは何ですか？ × 病気の種類



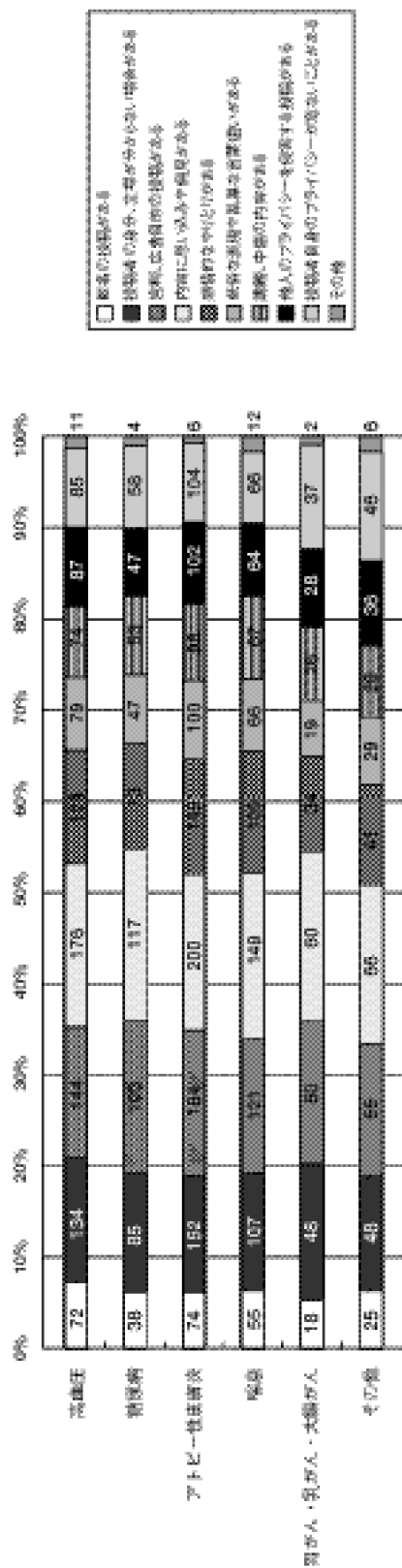
■問8 インターネット上の掲示板やオンライン会議室をどの程度利用されていますか？ × 病気の種類



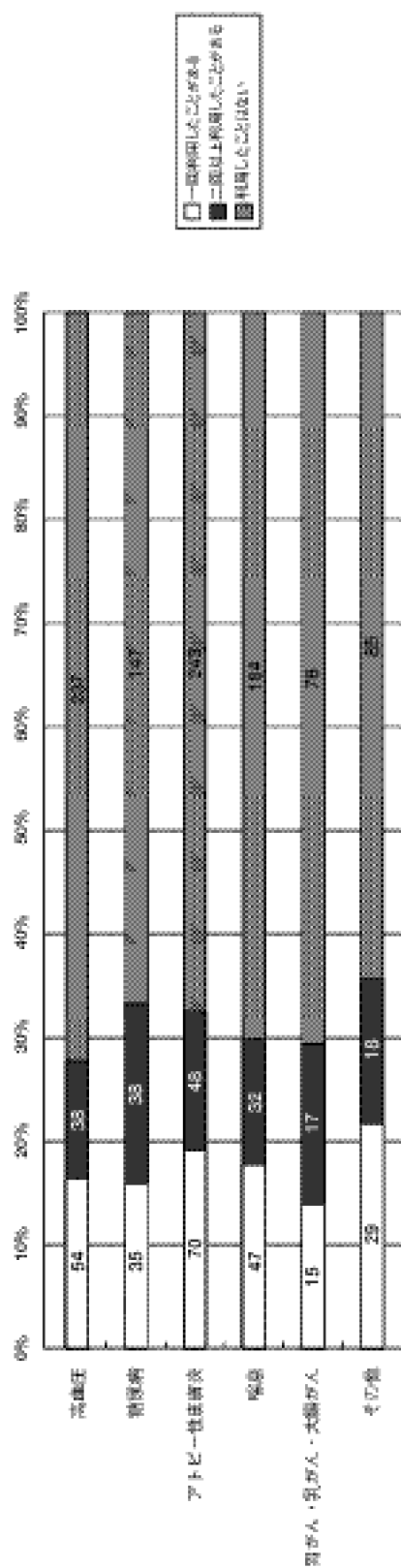
■問9 掲示板やオンライン会議室を利用されるメリット(利点)は何ですか？ × 病気の種類



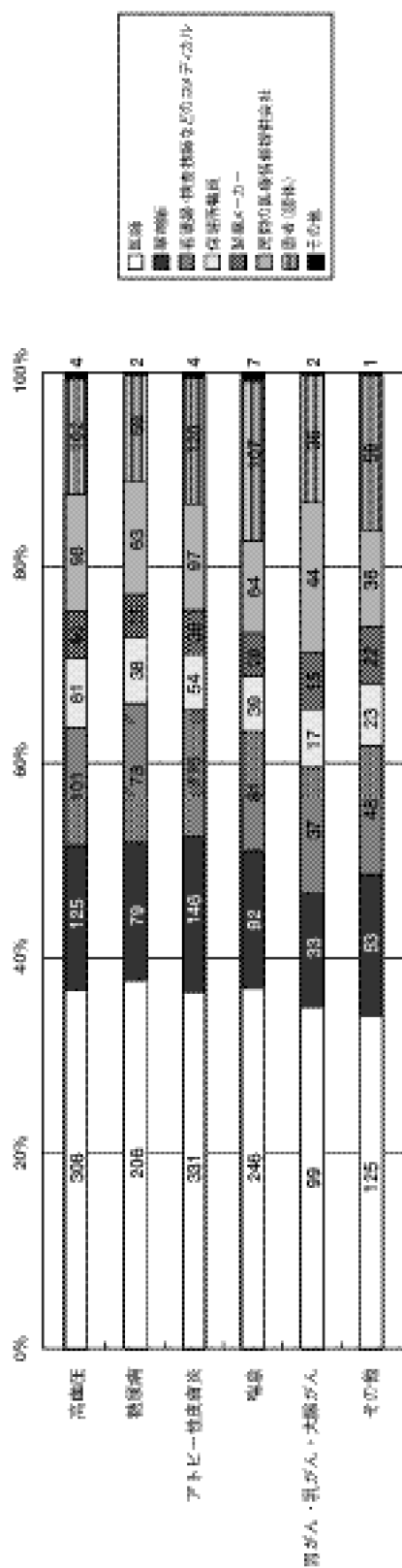
■問10 掲示板やオンライン会議室を利用される時の問題点はありませんか？×病気の種類



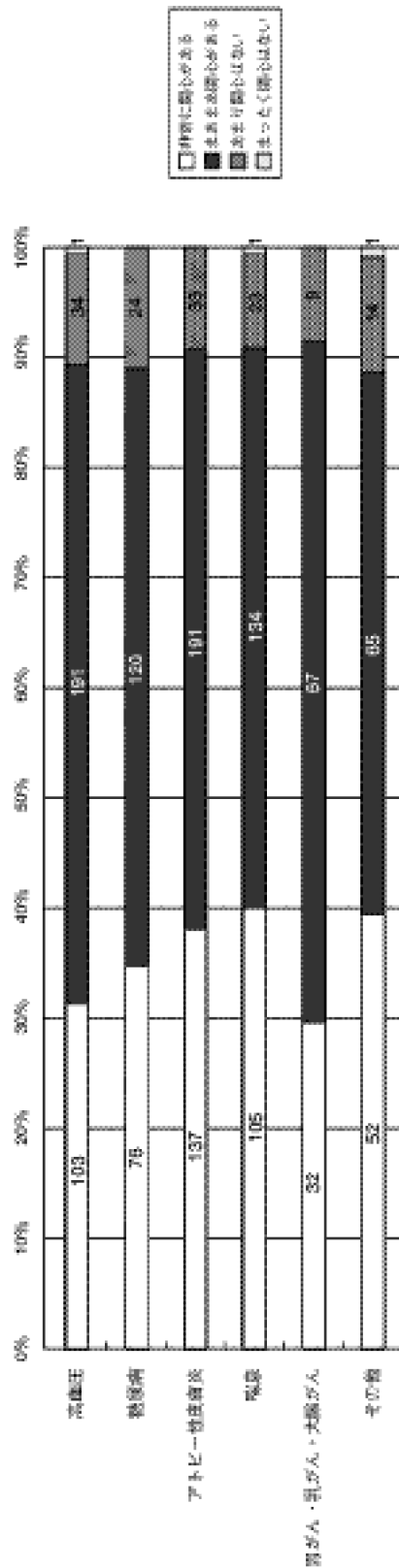
■問11 今までにインターネットで医療相談をされたことはありますか？×病気の種類



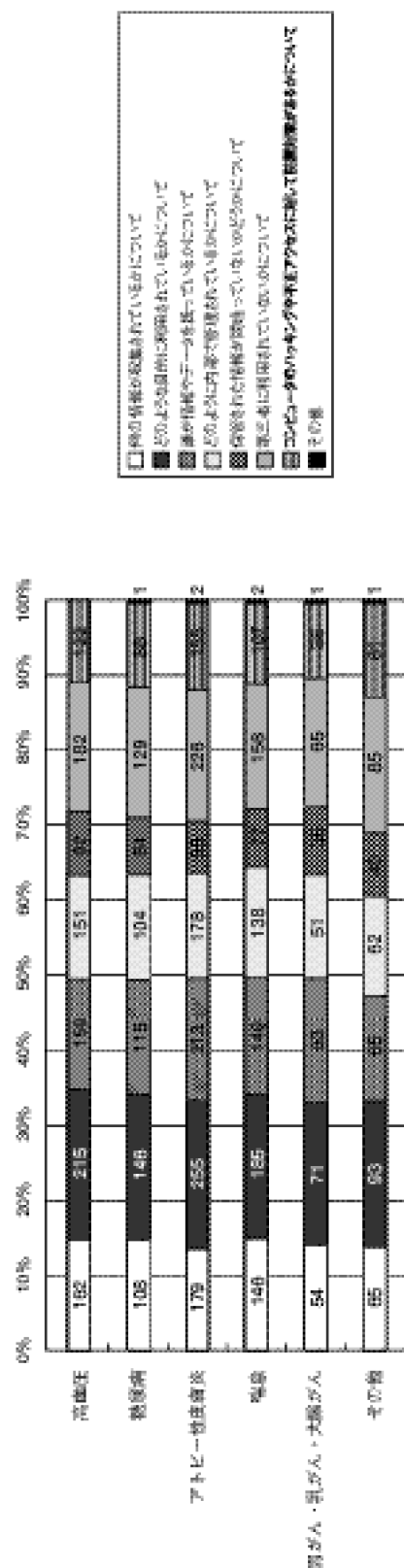
■問13 あなたがオンラインで医療や健康に関する相談をされたとしたら、信頼できる相手としては誰を選ばれますか？×病気の種類



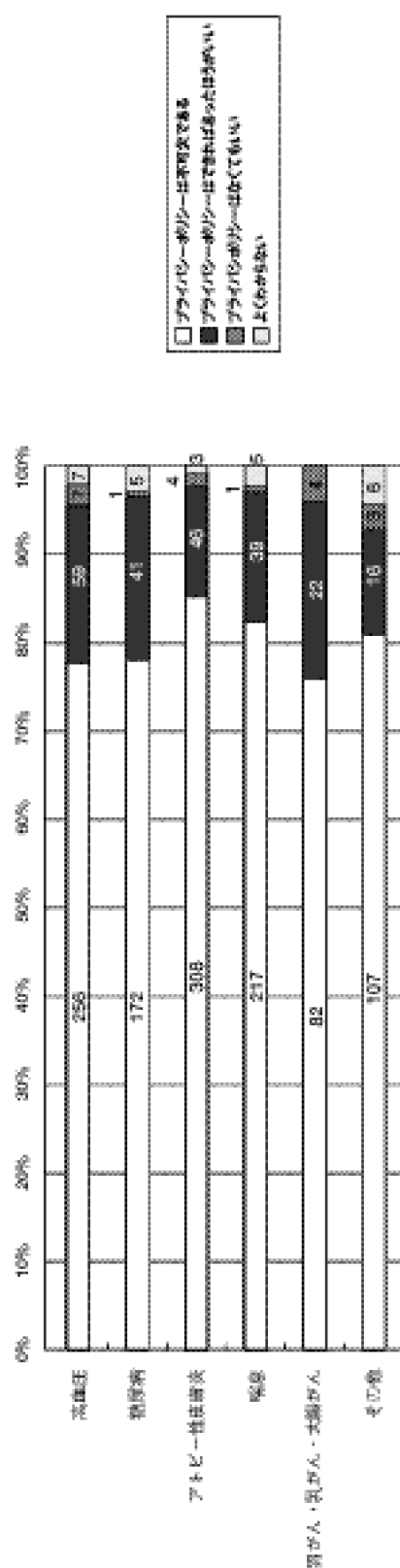
■問14 個人の医療(健康)情報がどう扱われていくかについて関心がありますか？×病気の種類



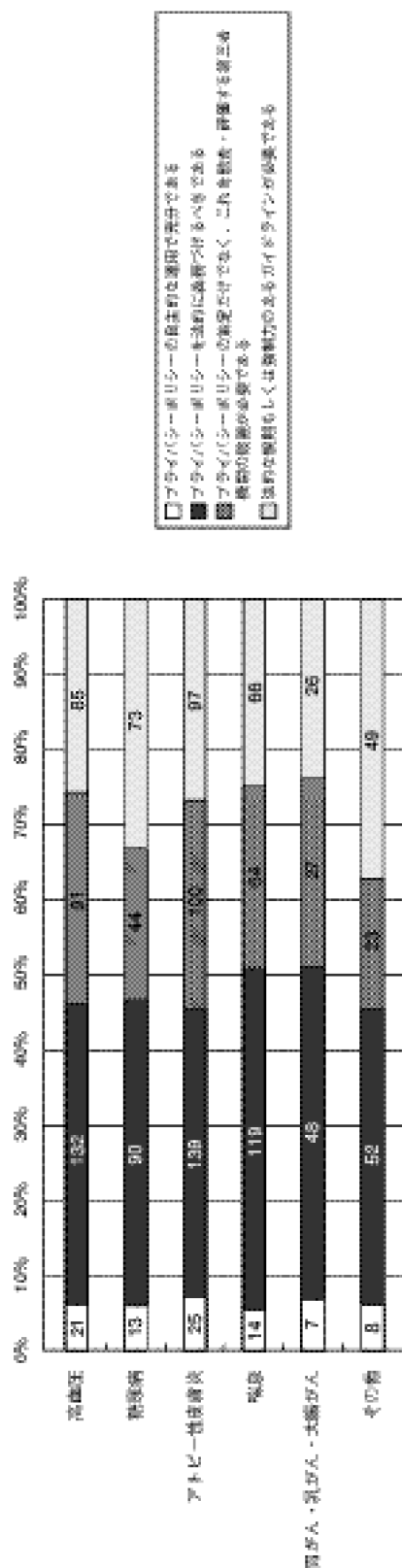
▶ 「非常に関心がある」「まあまあ関心がある」とされた方へどのようなことに関心がありますか？×病気の種類



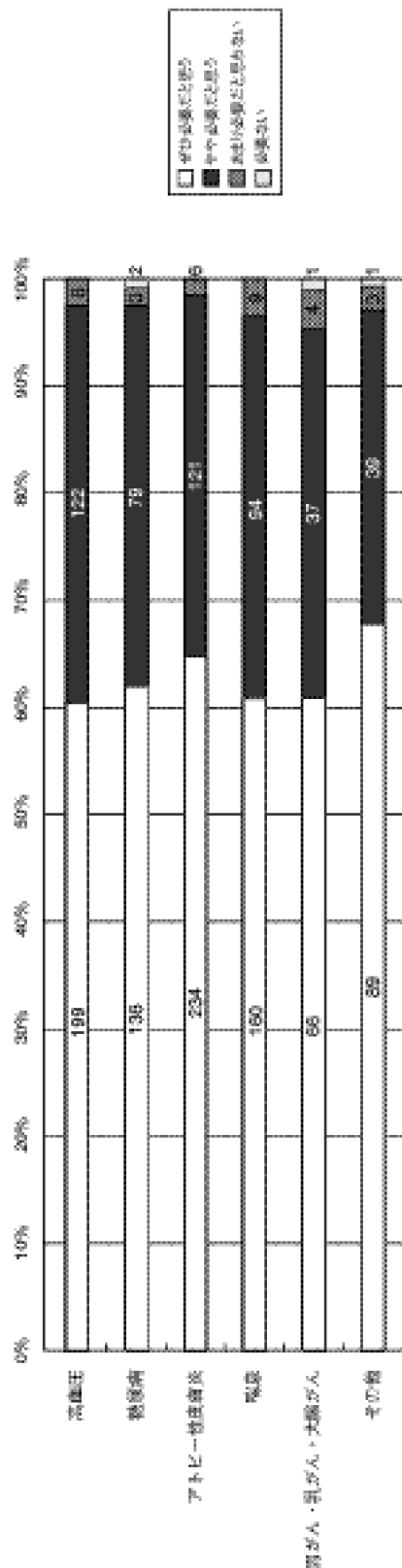
■問15 医療機関や企業が、インターネットで個人の医療(健康)情報を扱う場合は、このプライバシーポリシーが必要だと思われませんか？×病気の種類



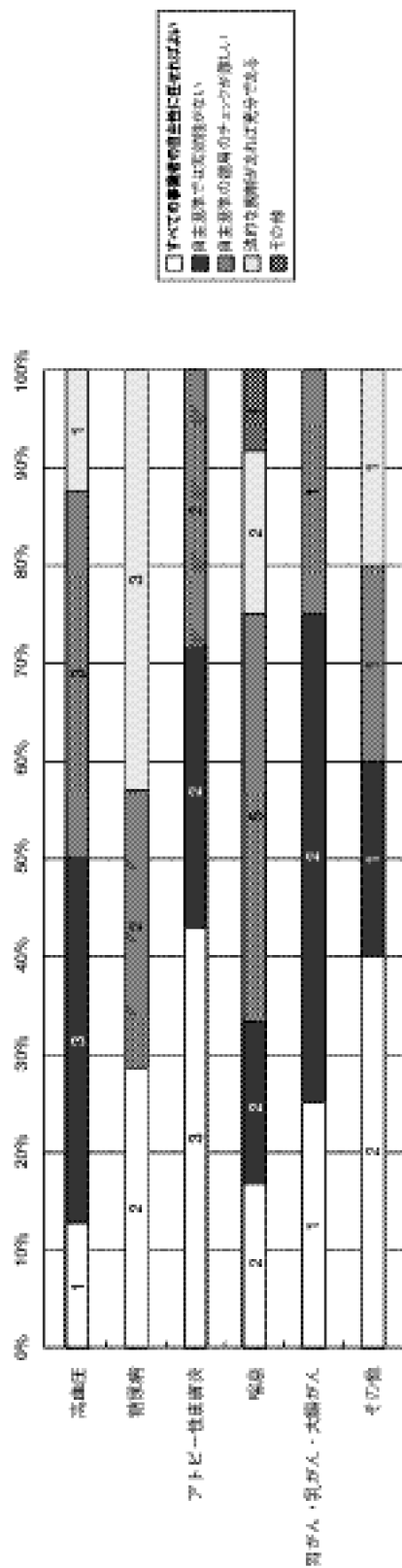
■問16 プライバシーポリシーの自主的な運用に加えて、これをチェックする第三者機関や法的な規則などの対策が必要だと思われますか？×病気の種類



■問17 倫理規範もしくはガイドラインについてどう思われますか？×病気の種類



▶ 「あまり必要だと思わない」「必要ない」とされた理由は何ですか？ × 病気の種類

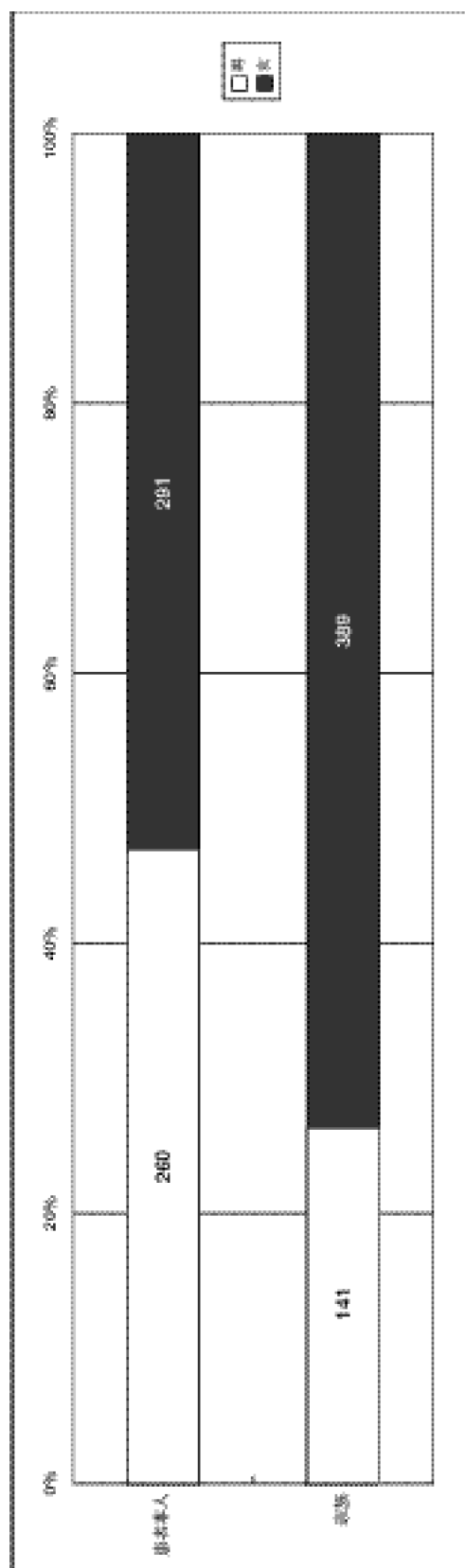


資料1.4. 患者・家族別によるクロス集計結果

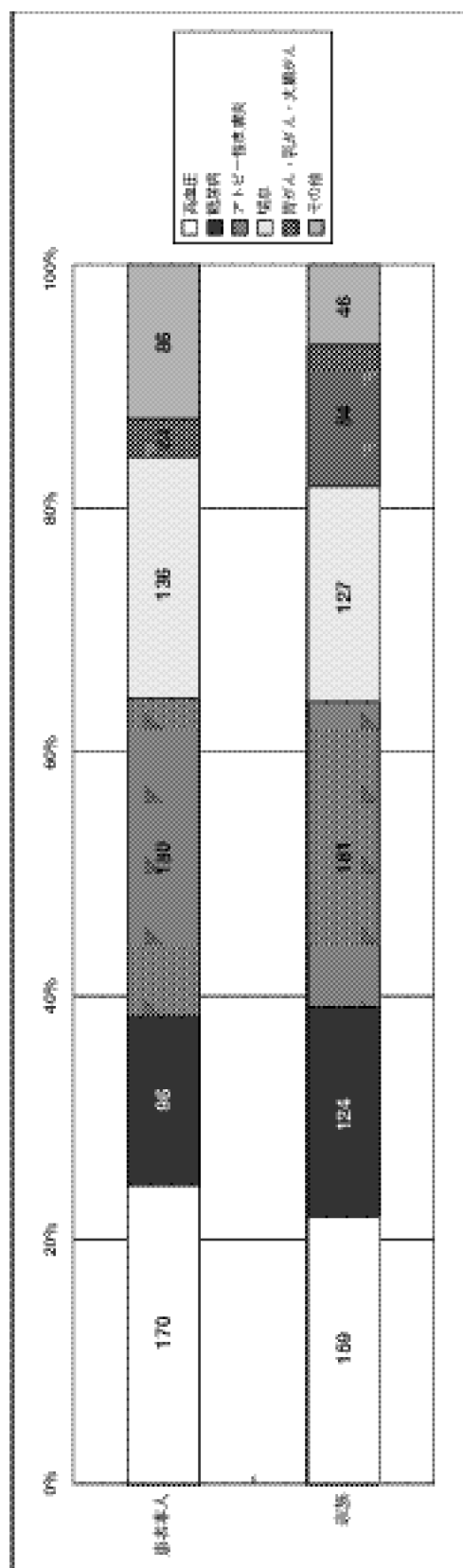
1.4. 患者・家族別によるクロス集計結果

回答者を患者本人と家族グループに分け、質問項目に対するクロス集計を行った。
(詳細分析は割愛)

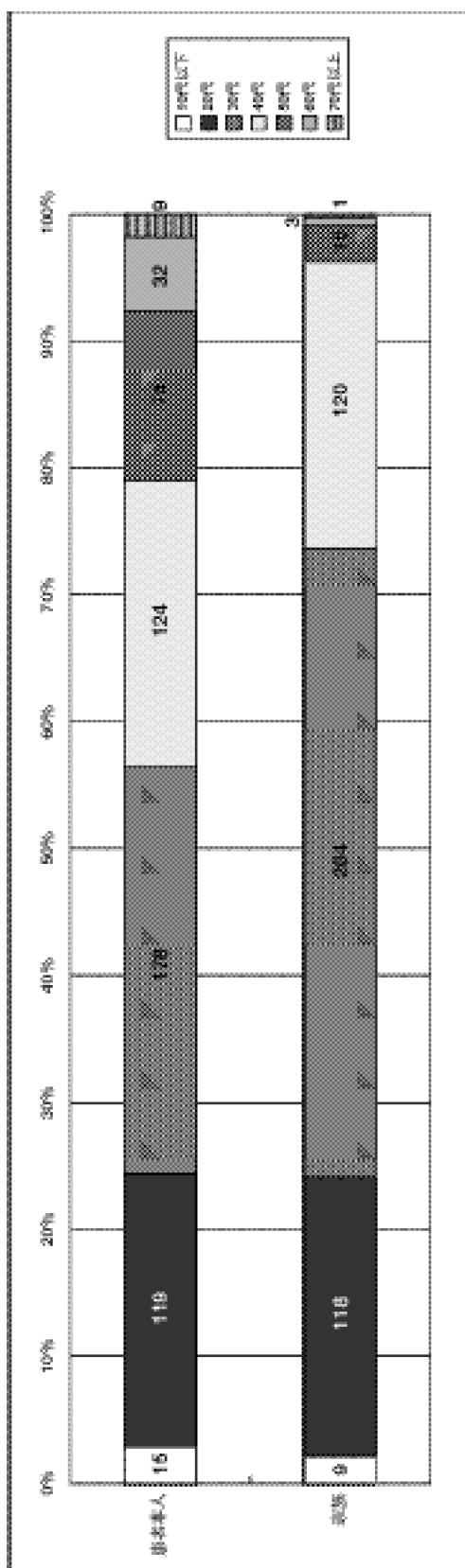
■性別 × 患者本人・家族



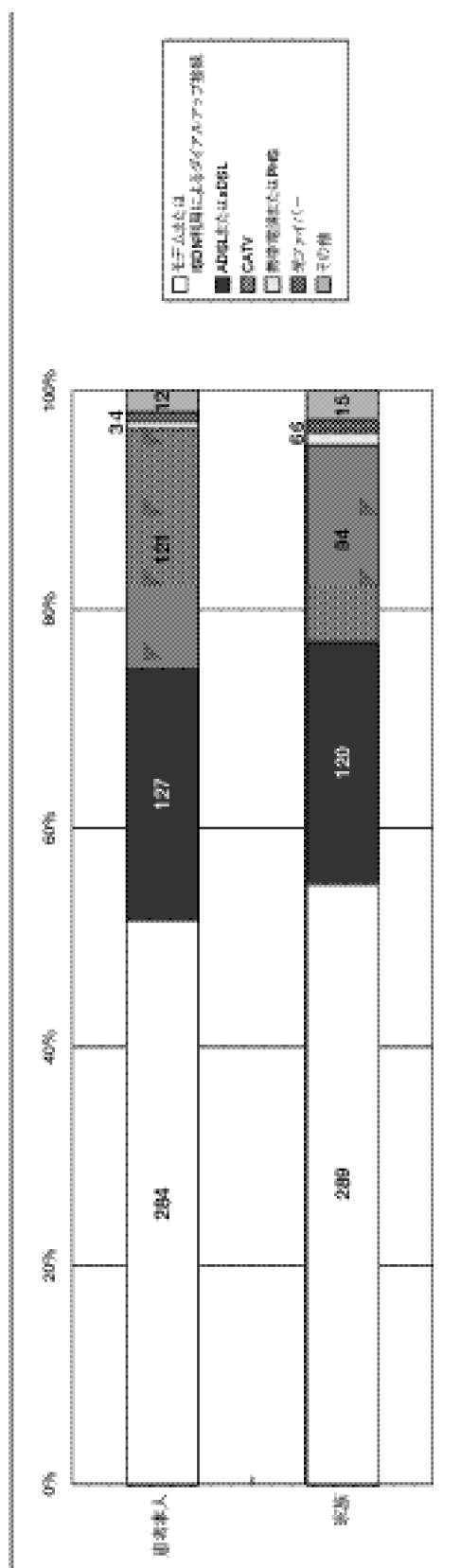
■病気の種類 × 患者本人・家族



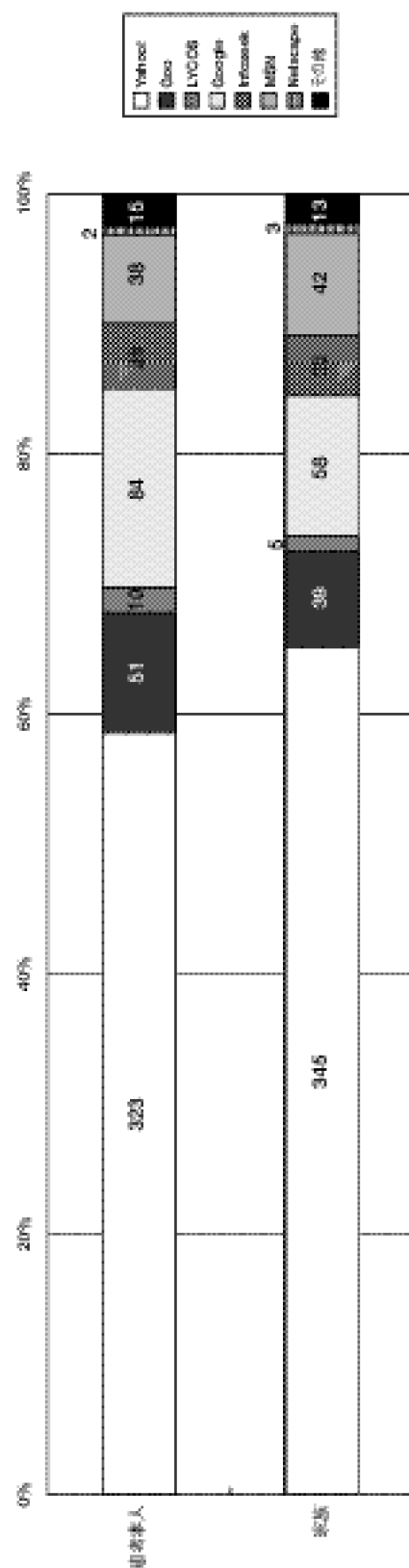
■年代×患者本人・家族



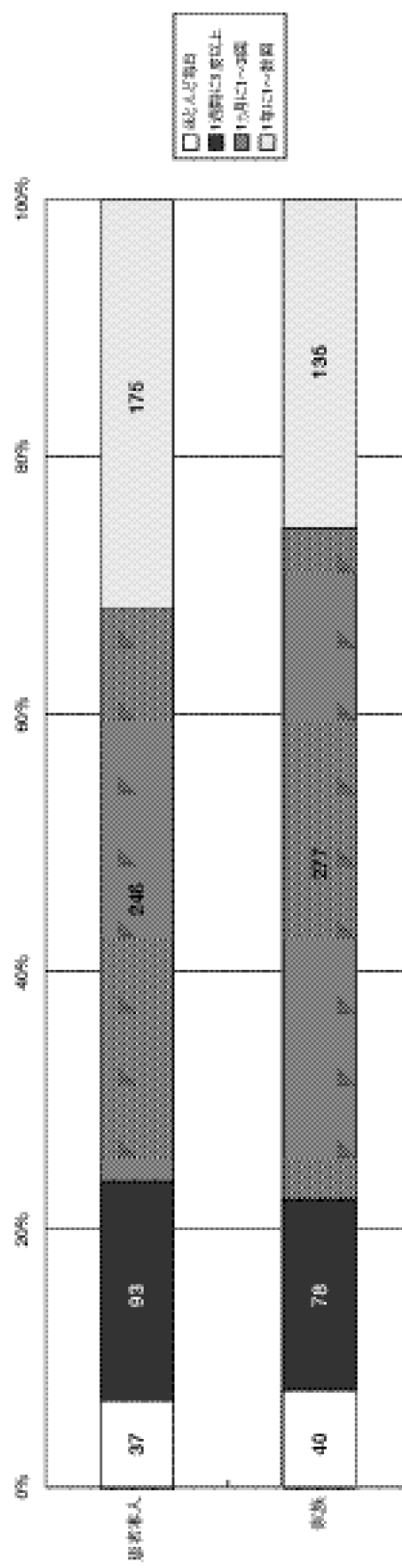
■問1 インターネットへの接続方法×患者本人・家族



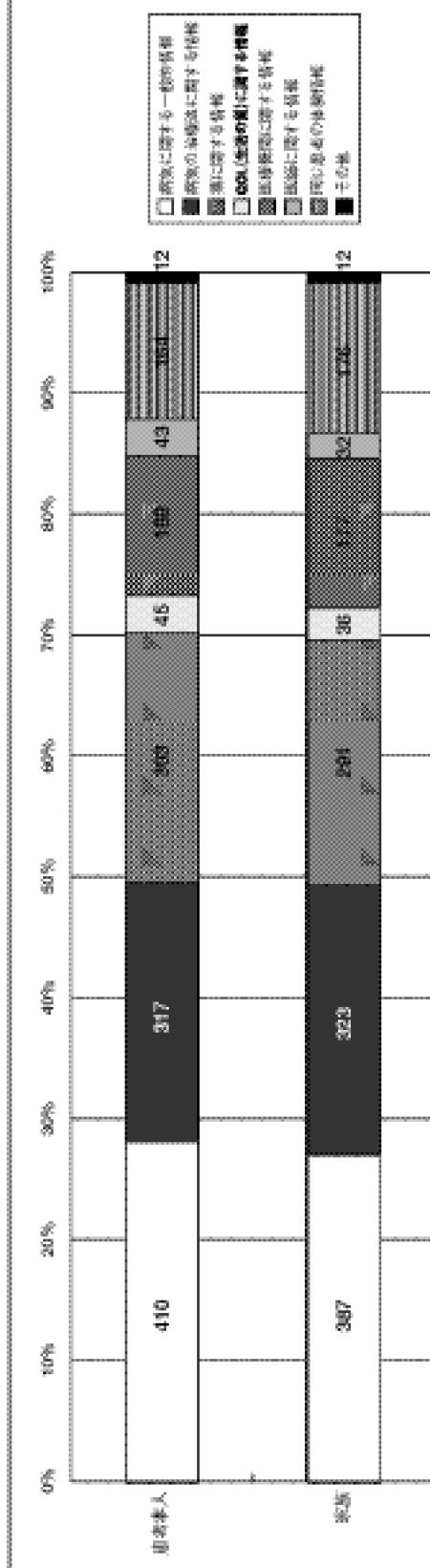
問2 医療(健康)情報を検索する時、最もよく利用する検索エンジン×患者本人・家族



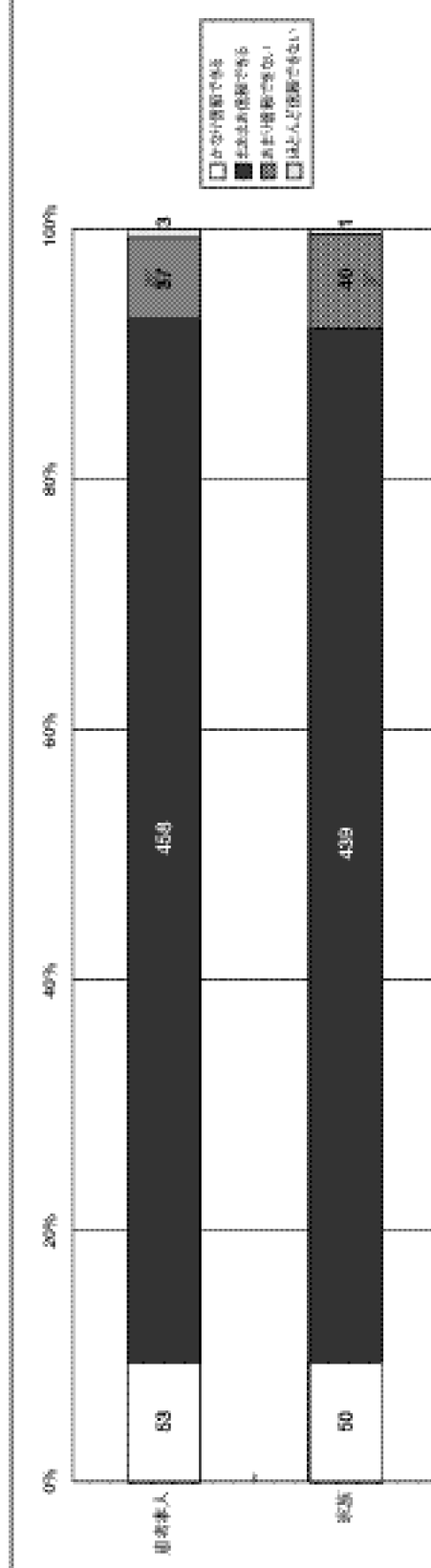
問3 インターネットを利用して病気や薬などに関する情報をどのくらいの頻度で利用されていますか？
(掲示板やオンライン会議室は除きます)×患者本人・家族



■問4 利用されている情報はどのようなものですか？(いくつでも) × 患者本人・家族

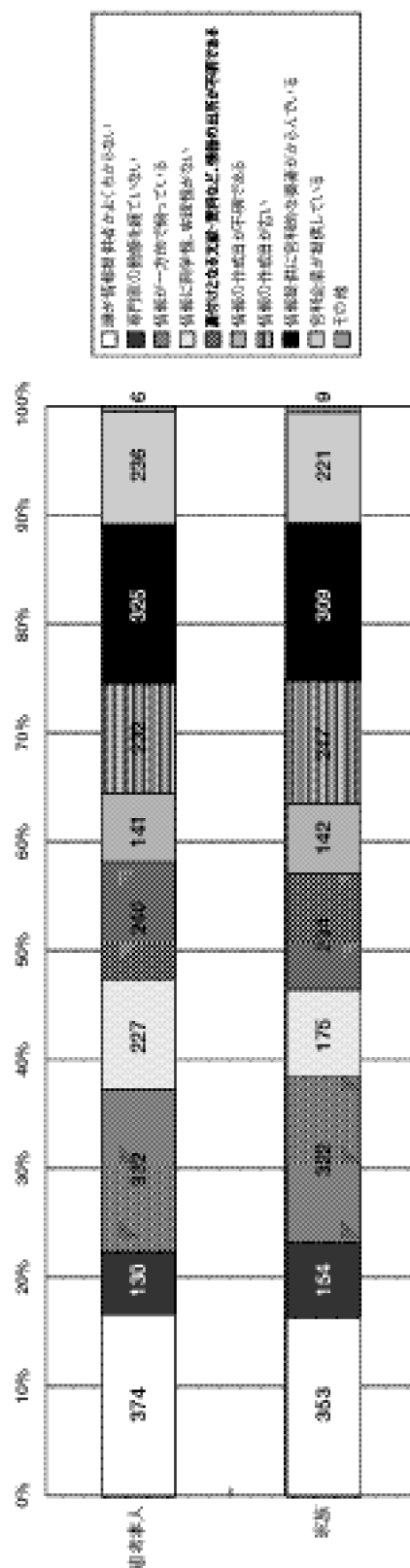


■問5 利用されている情報は全体的にみて、「信頼できる」と思われますか？ × 患者本人・家族

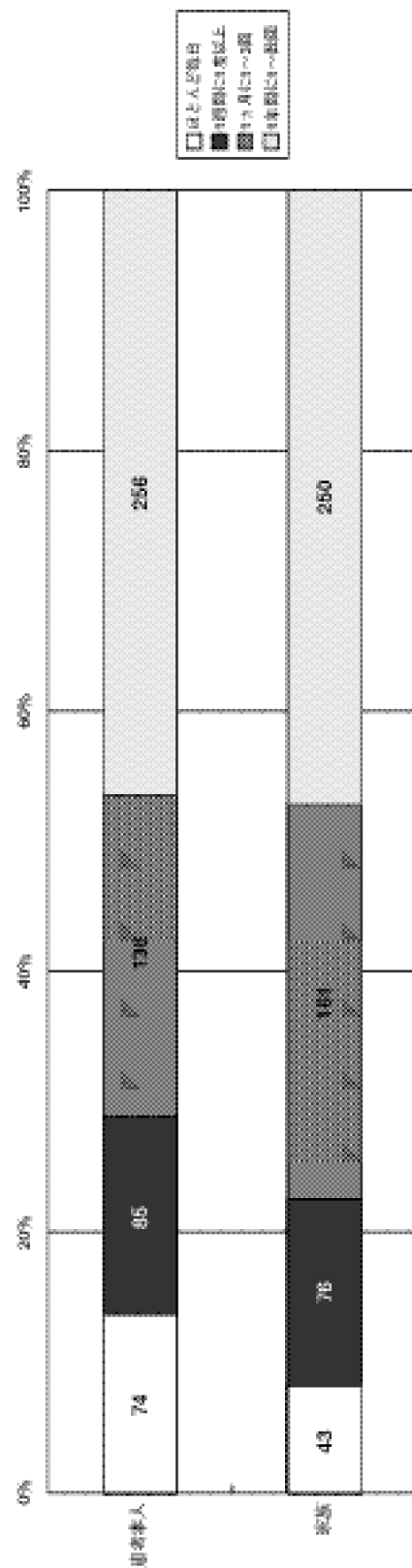




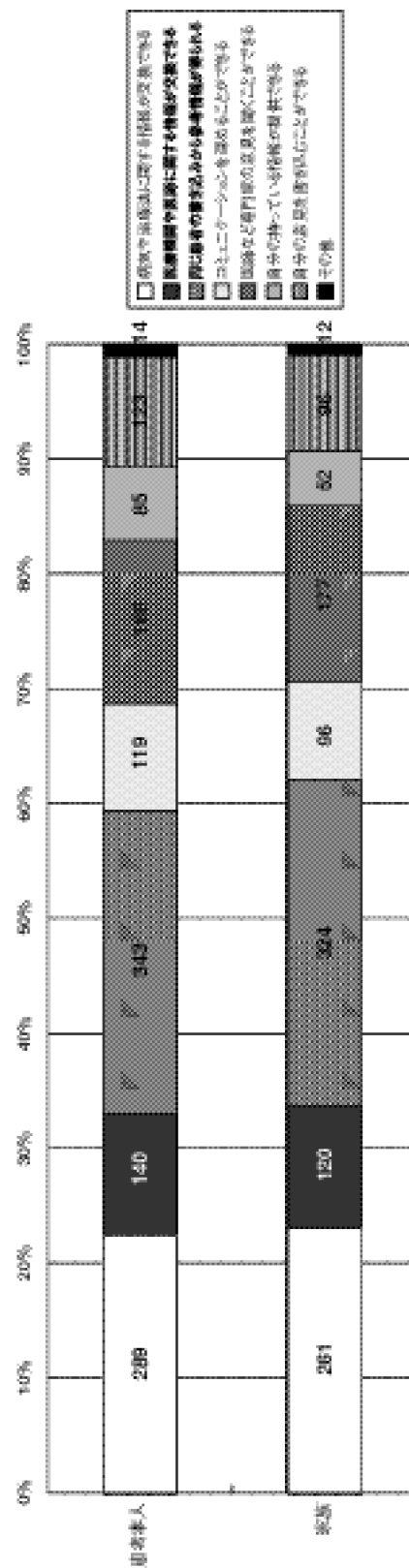
問7 情報を利用される時、利用者側からみて「信頼性を損ねる」と考えられますか？×患者本人・家族



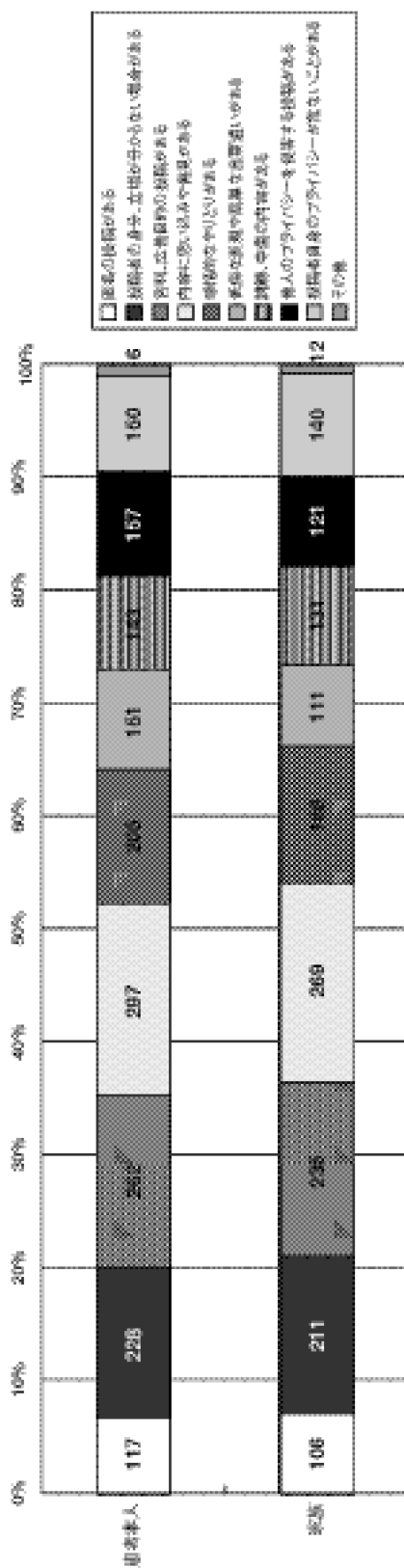
■問8 インターネット上の掲示板やオンライン会議室をどの程度利用されていますか？ × 患者本人・家族



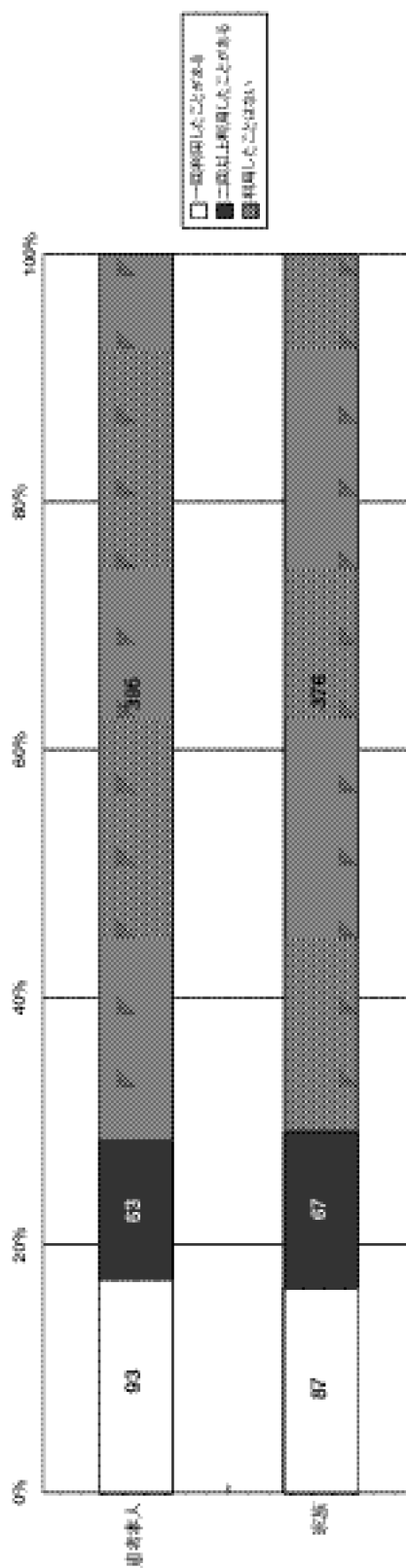
■問9 掲示板やオンライン会議室を利用されるメリット(利点)は何ですか？ × 患者本人・家族



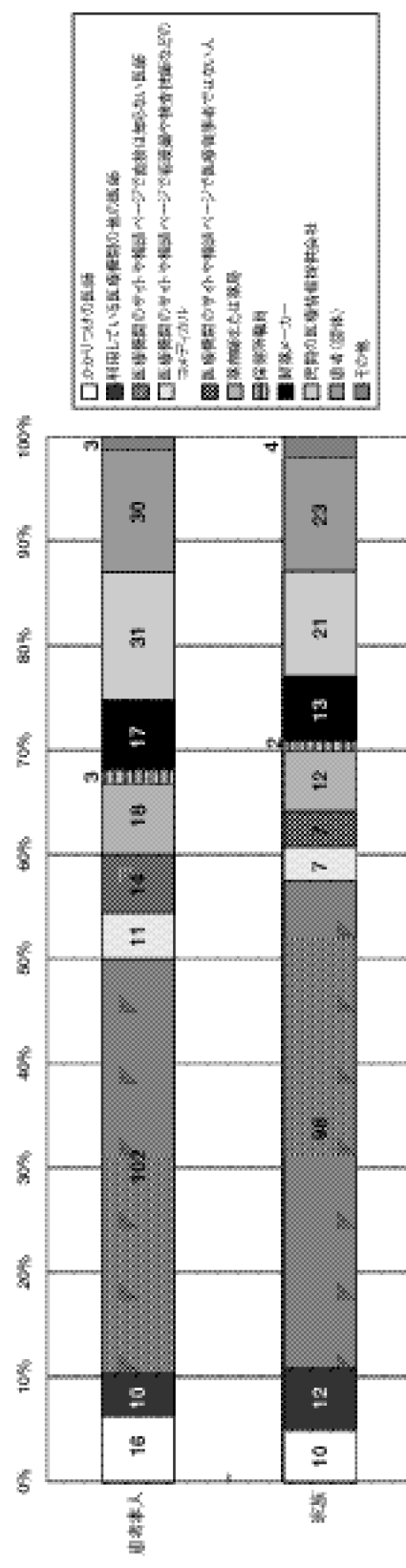
■問10 掲示板やオンライン会議室を利用される時の問題点はありませんか？ × 患者本人・家族



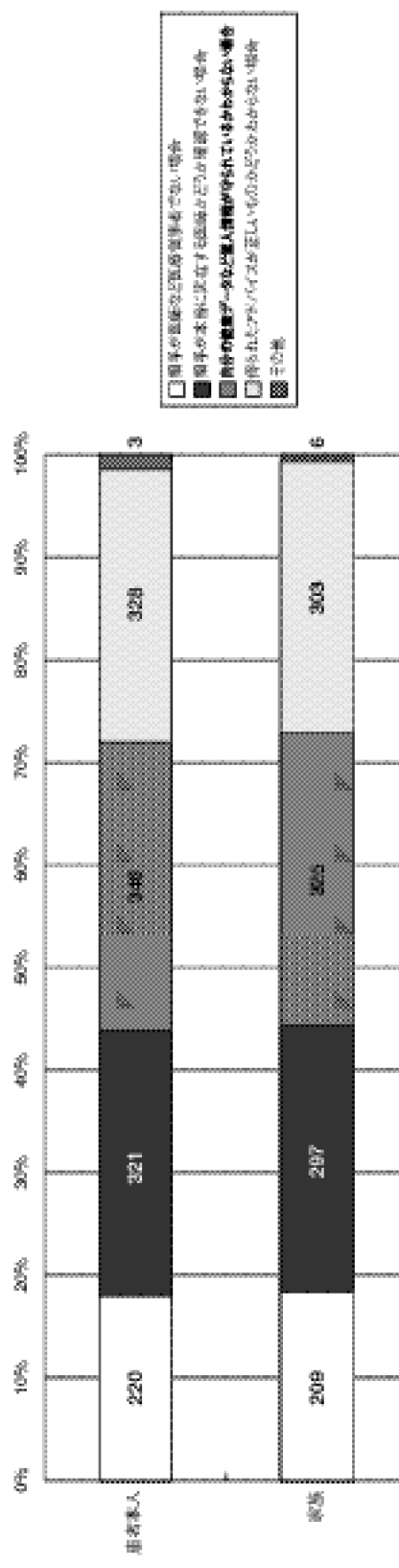
■問11 今までにインターネットで医療相談をされたことはありますか？ × 患者本人・家族



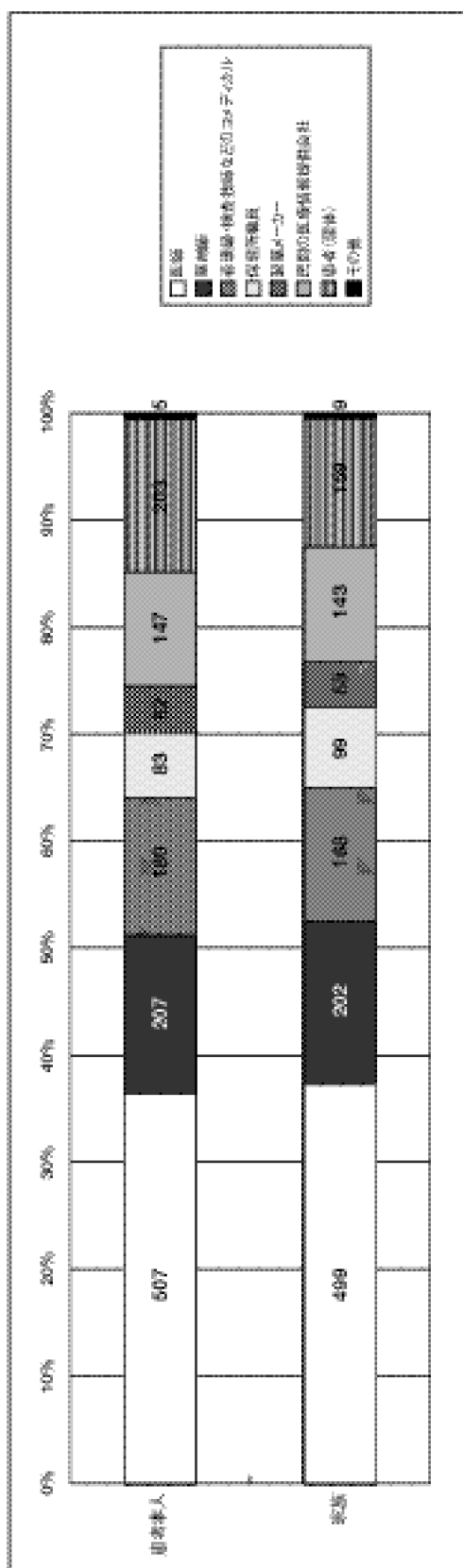
◆上記で「利用したことがある」方へ。その時の相談の相手はどのような立場の方でしたか？（いくつでも）×患者本人・家族



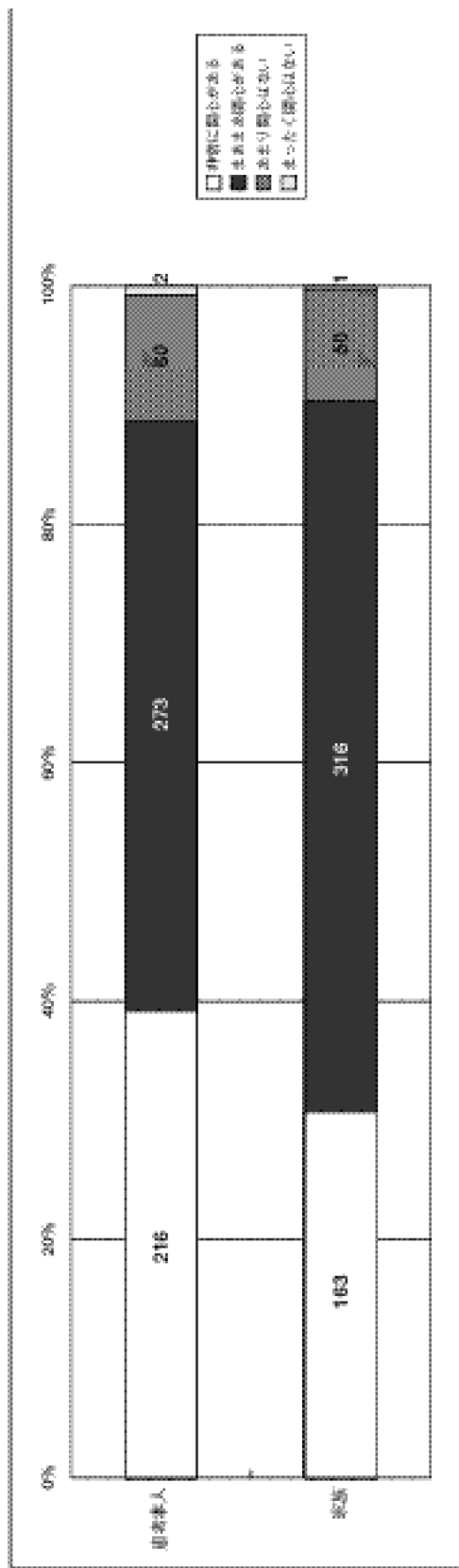
■問12 今までの医療相談において、または今後、医療相談などのオンラインでのケアサービスを利用されるにおいて、利用者側からみて「不安に感じる」場合があるとすればそれはどのような時ですか？（いくつでも）×患者本人・家族



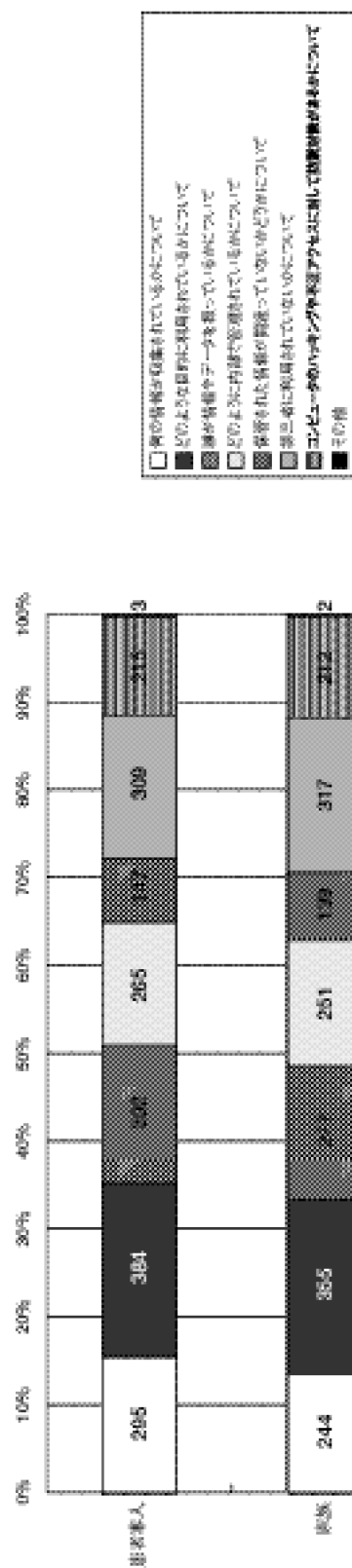
■問13 あなたがオンラインで医療や健康に関する相談をされたとしたら、信頼できる相手としては誰を選ばれますか？ × 患者本人・家族



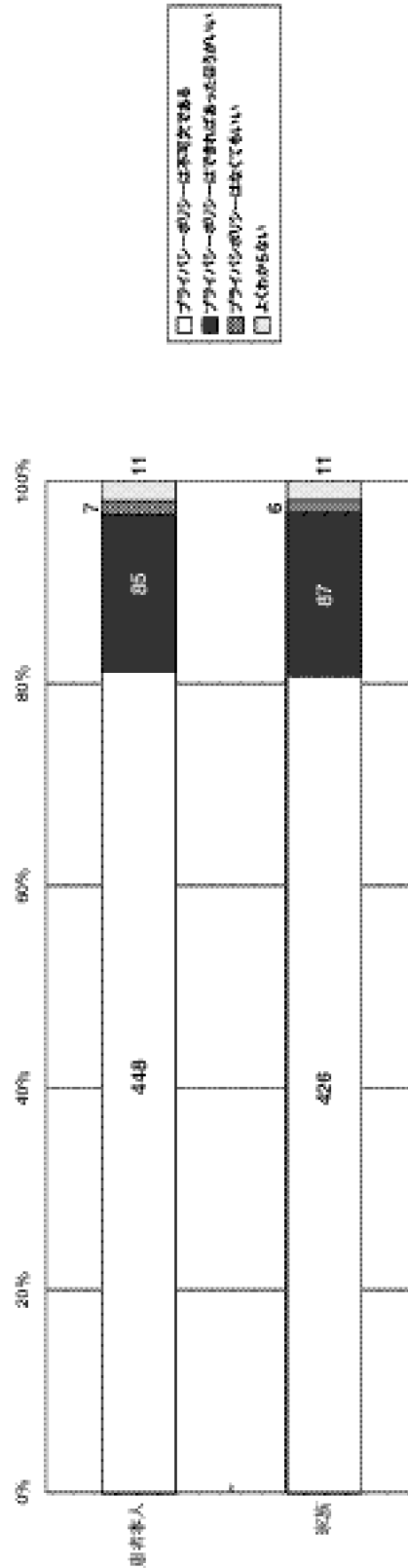
■問14 個人の医療(健康)情報がどう扱われていくかについて関心がありますか？ × 患者本人・家族



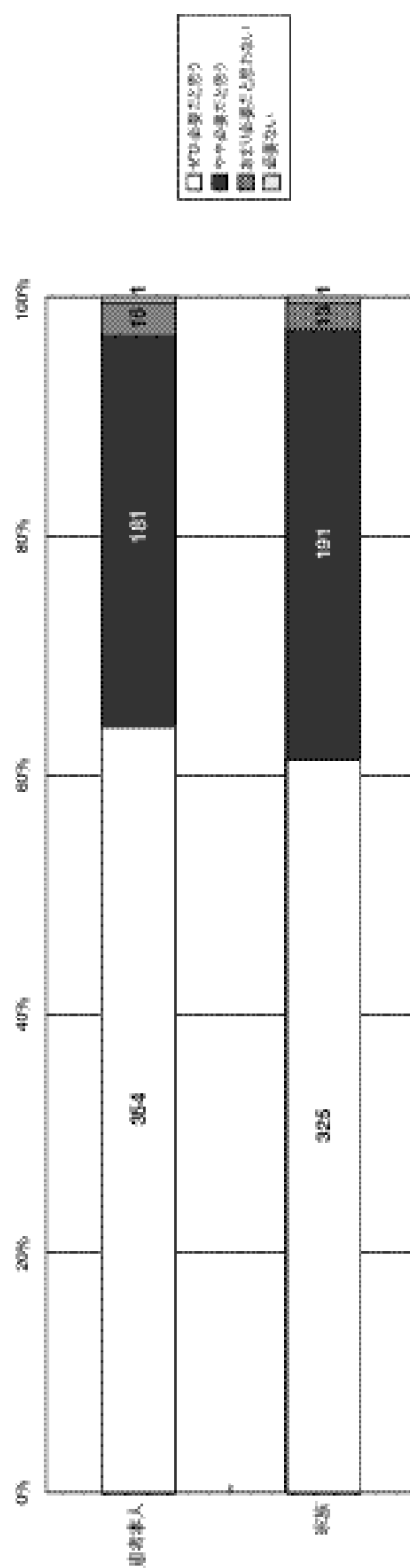
▶「非常に関心がある」「まあまあ関心がある」とされた方へどのようなことに関心がありますか？×患者本人・家族



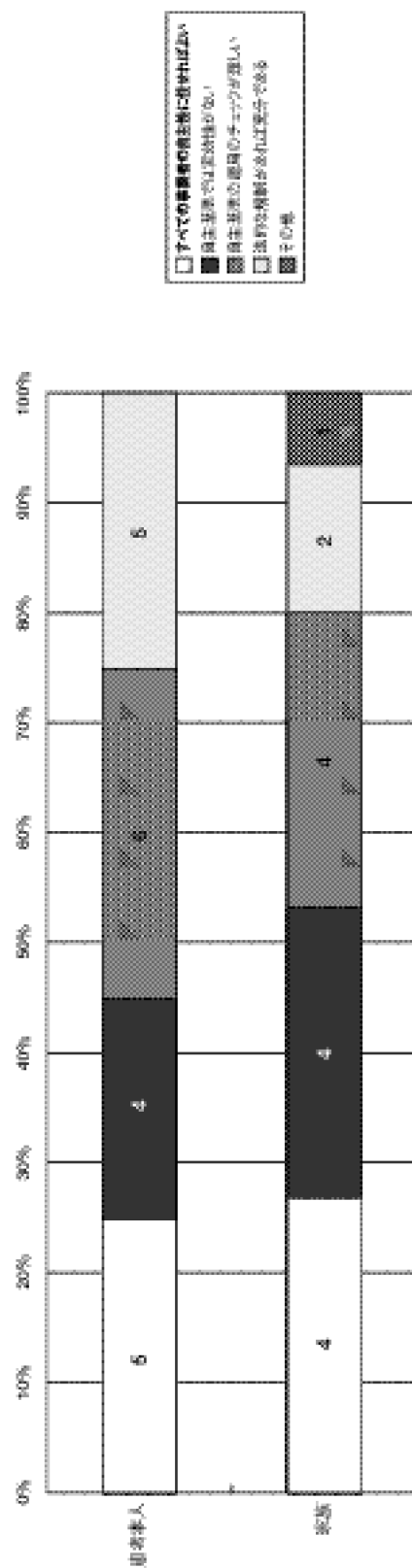
■問15 医療機関や企業が、インターネットで個人の医療(健康)情報を扱う場合は、このプライバシーポリシーが必要だと思われませんか？×患者本人・家族



問17 倫理規範もしくはガイドラインについてどう思われますか？ ×患者本人・家族



▶ 「あまり必要だと思わない」「必要ない」とされた理由は何ですか？ × 患者本人・家族

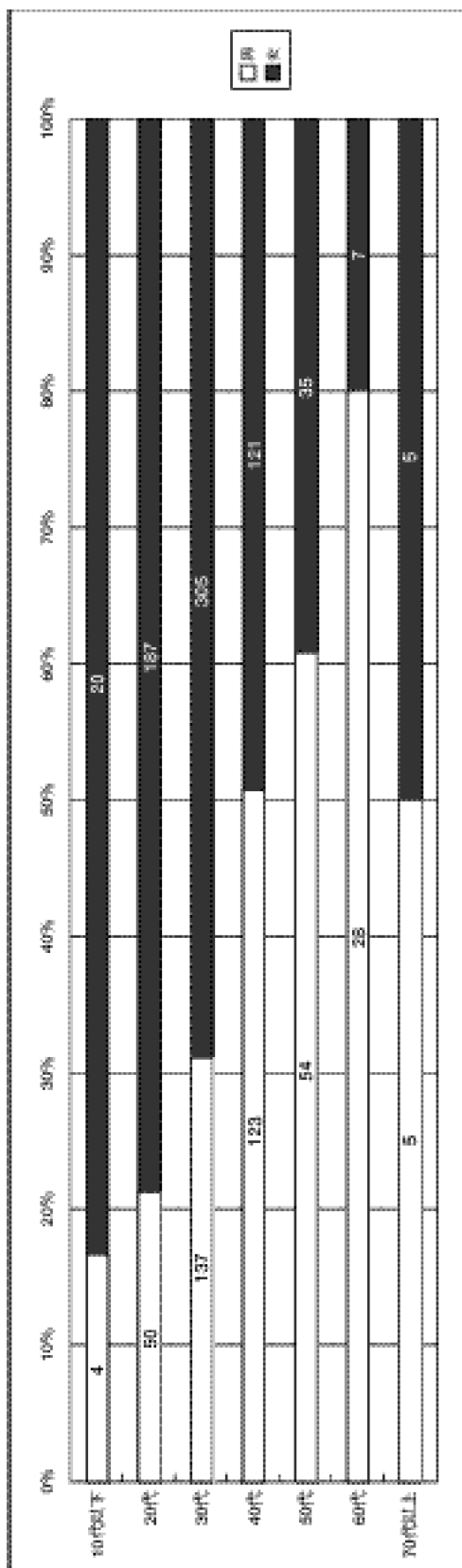


資料1.5. 年代別によるクロス集計結果

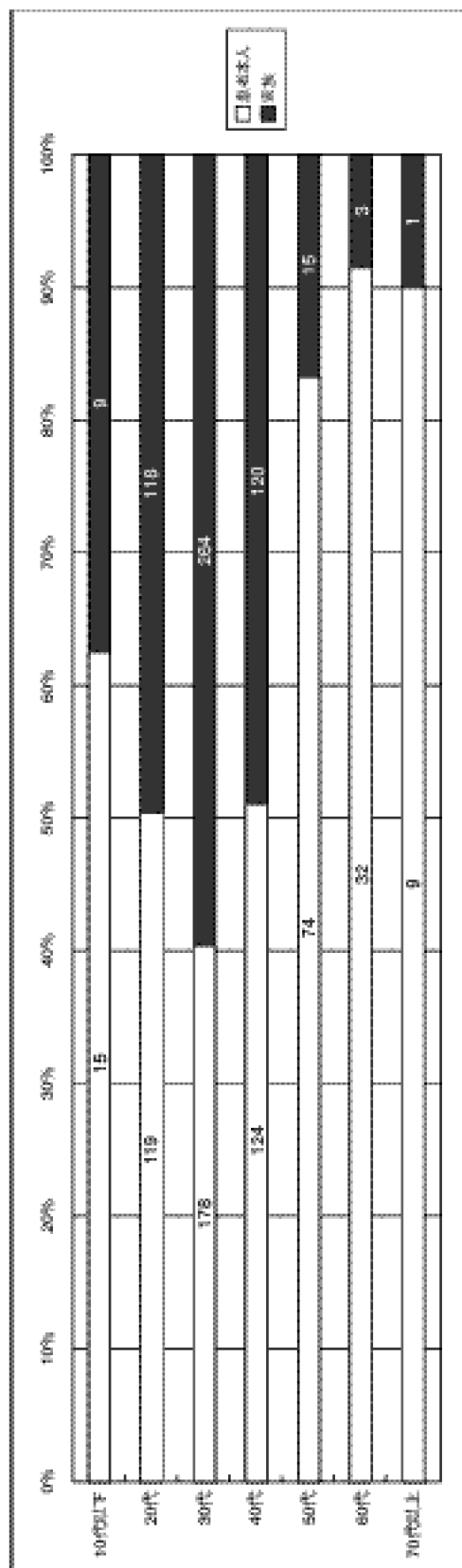
1.5. 年代別によるクロス集計結果

回答者を年代別グループに分け、質問項目に対するクロス集計を行った。
(詳細分析は割愛)

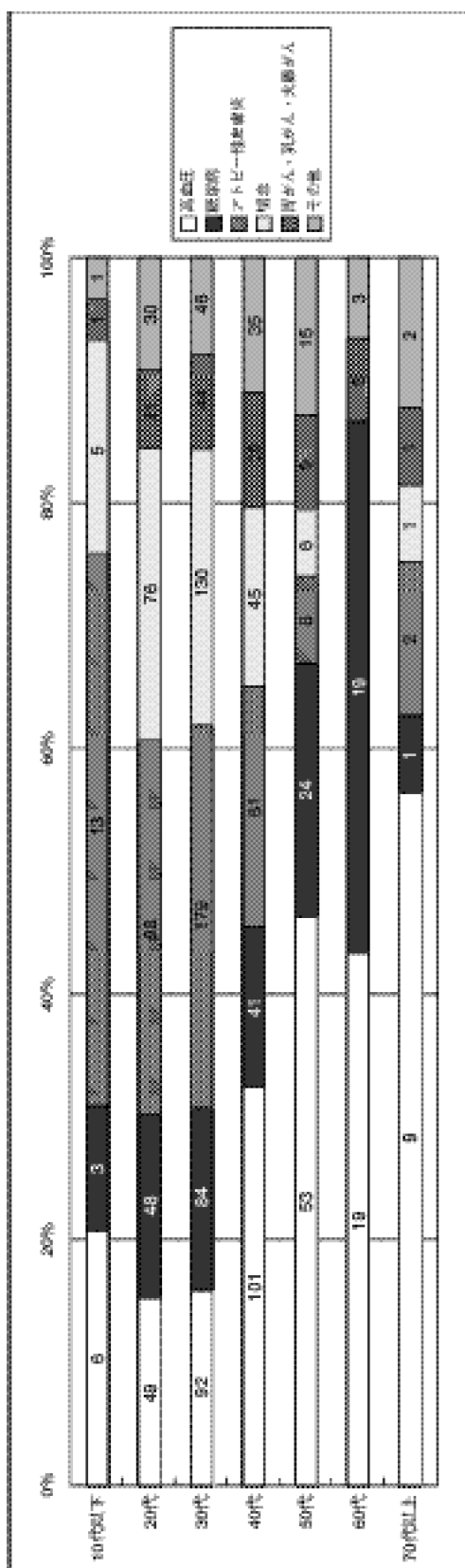
■性別×年代



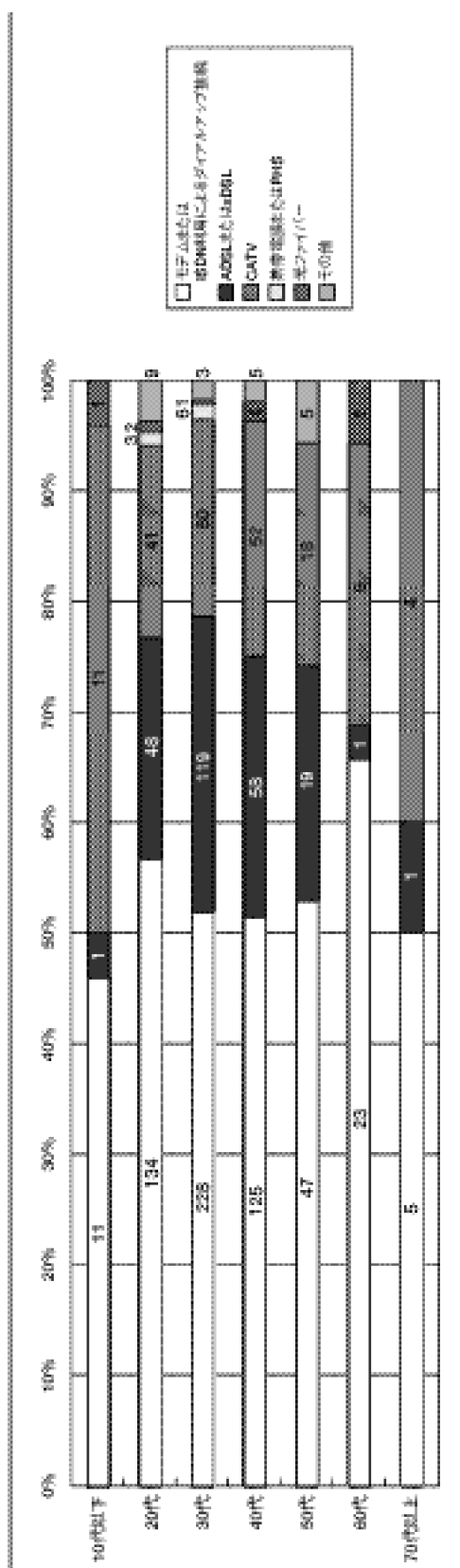
■患者本人・家族×年代



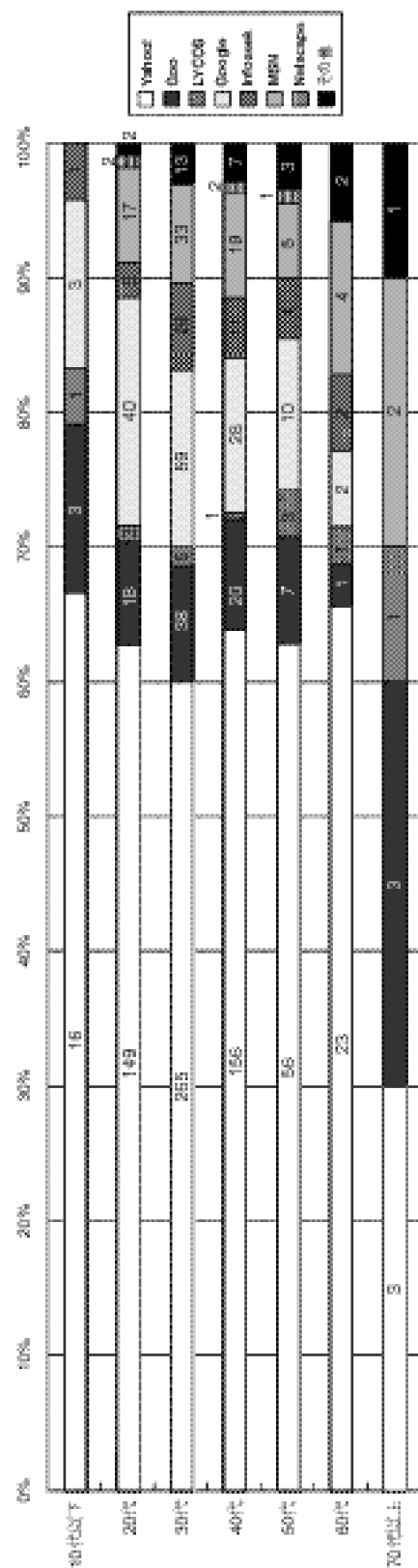
■病気の種類 × 年代



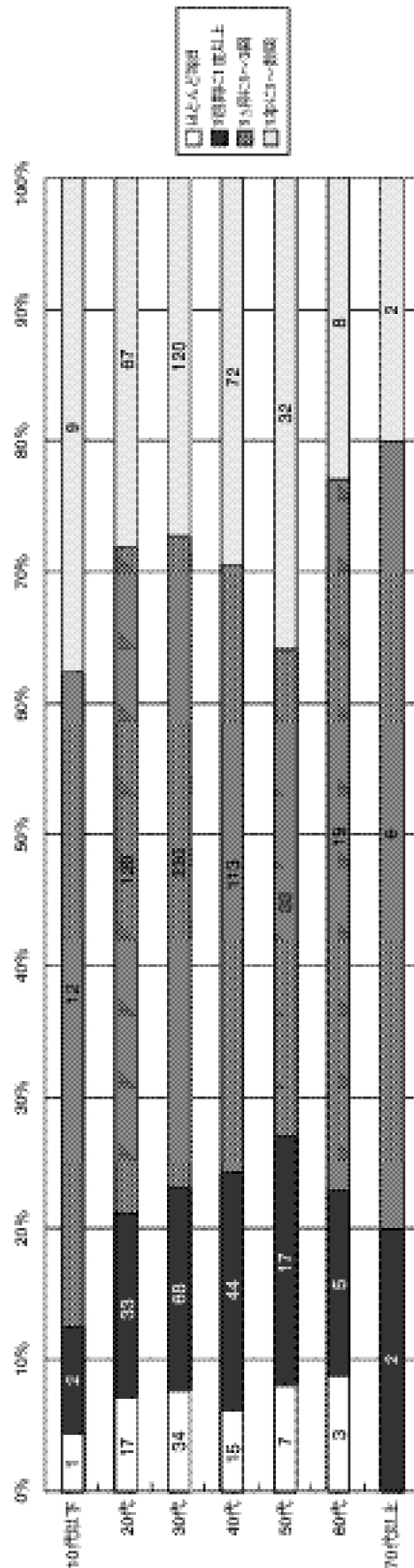
■問1 インターネットへの接続方法 × 年代



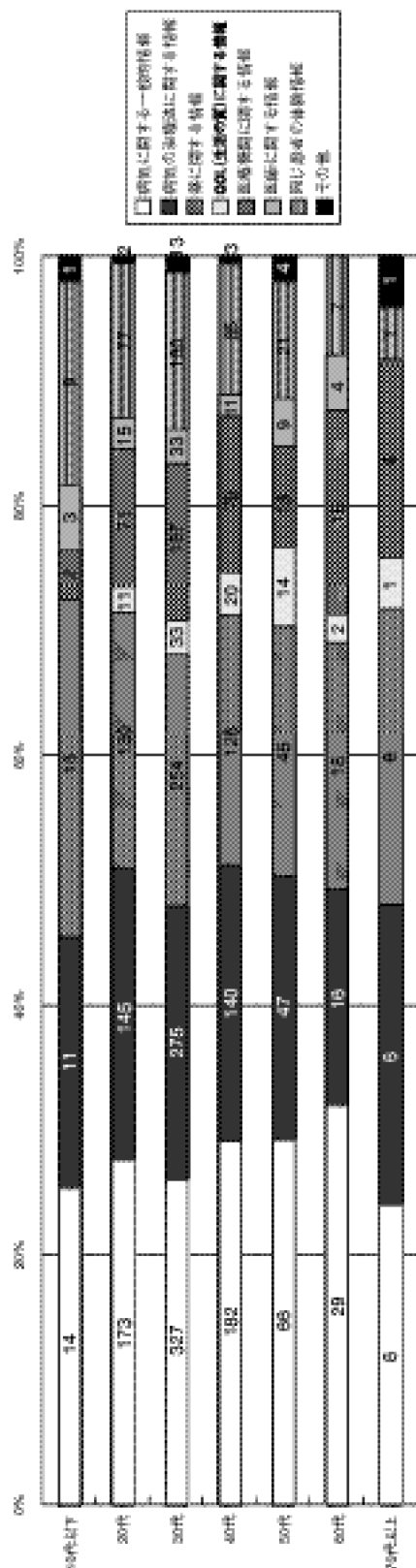
■問2 医療(健康)情報を検索する時、最もよく利用する検索エンジン×年代



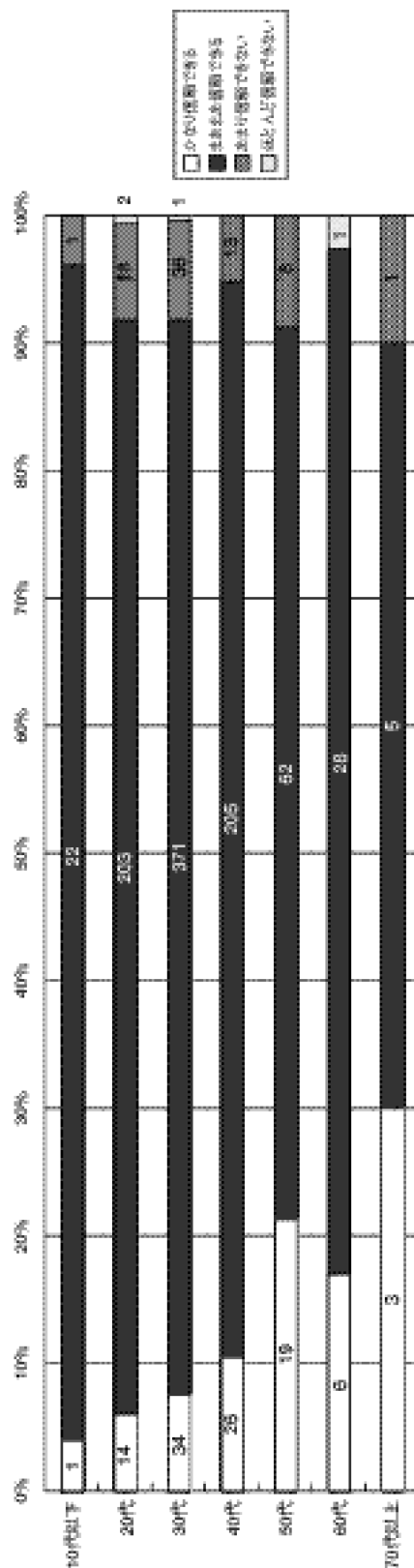
■問3 インターネットを利用して病気や薬などに関する情報をどのくらいの頻度で利用されていますか？
(掲示板やオンライン会議室は除きます) × 年代



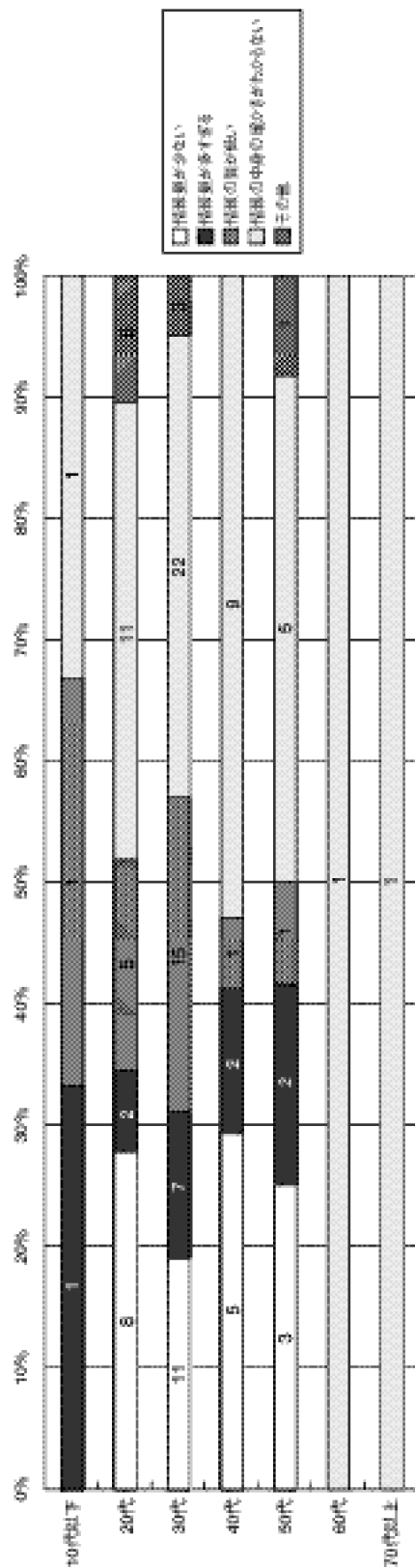
■問4 利用されている情報はどのようなものですか？(いくつでも)×年代



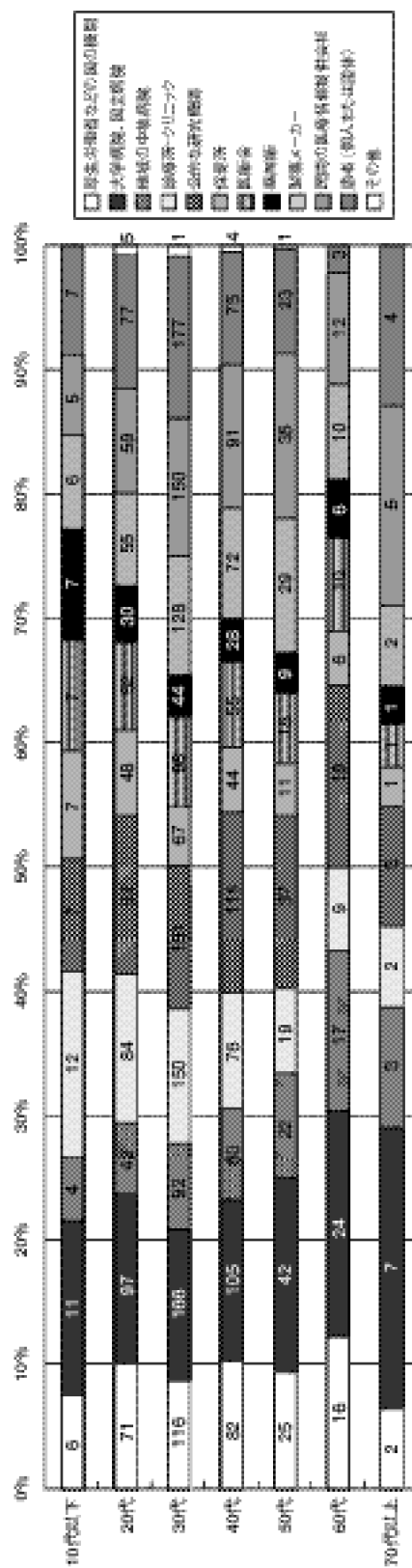
■問5 利用されている情報は全体的にみて、「信頼できる」と思われますか？×年代



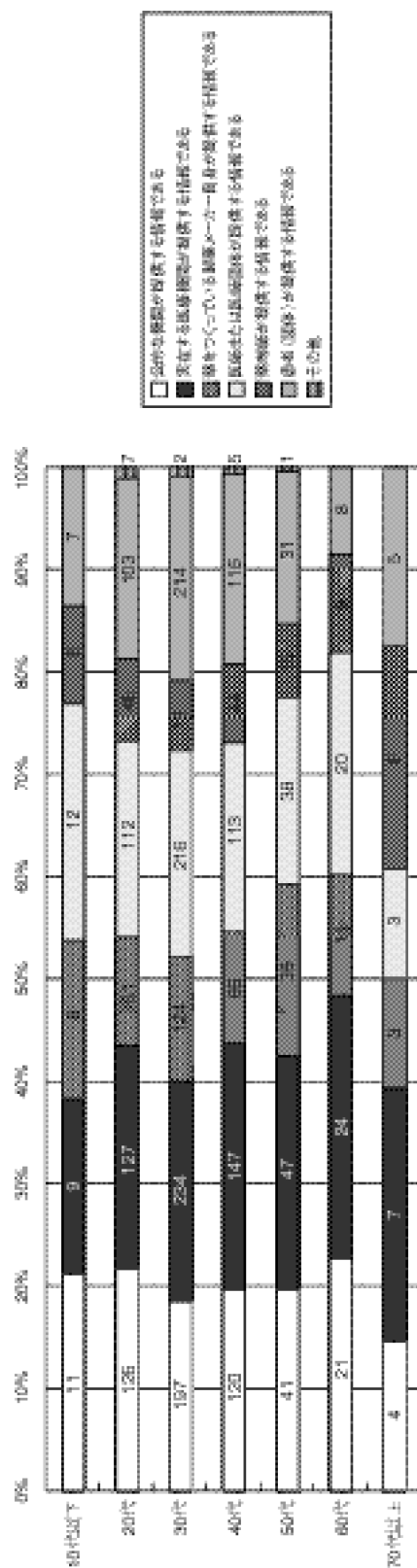
▶ 「あまり信頼できない」「ほとんど信頼できない」とされた理由は？×年代



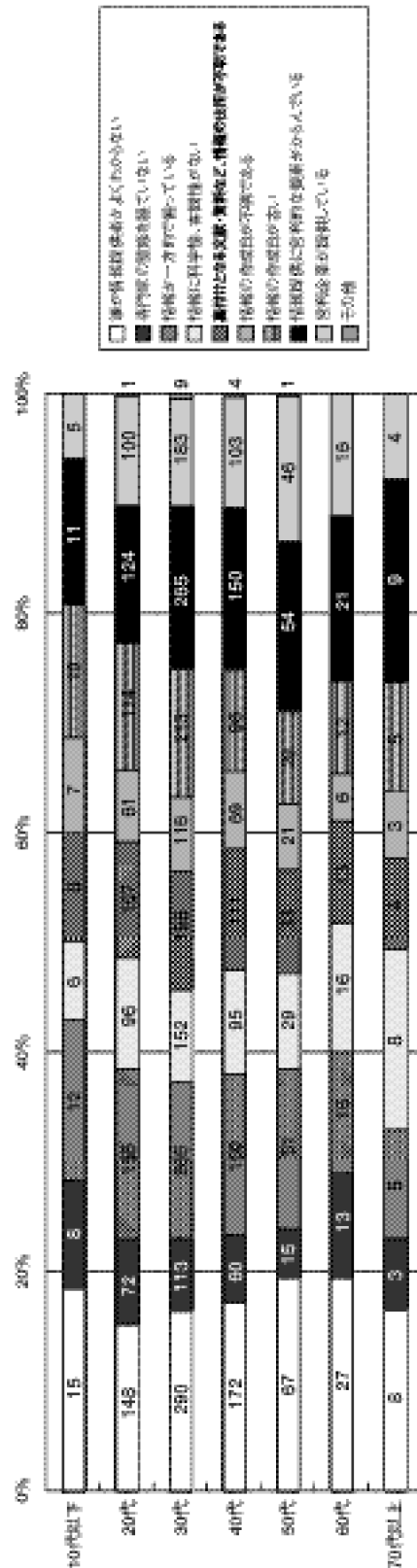
▶ 「かなり信頼できる」「まあまあ信頼できる」とされた方へ主にその情報は、
どのようなウェブサイト(運営の主体者)で提供されている情報ですか？×年代



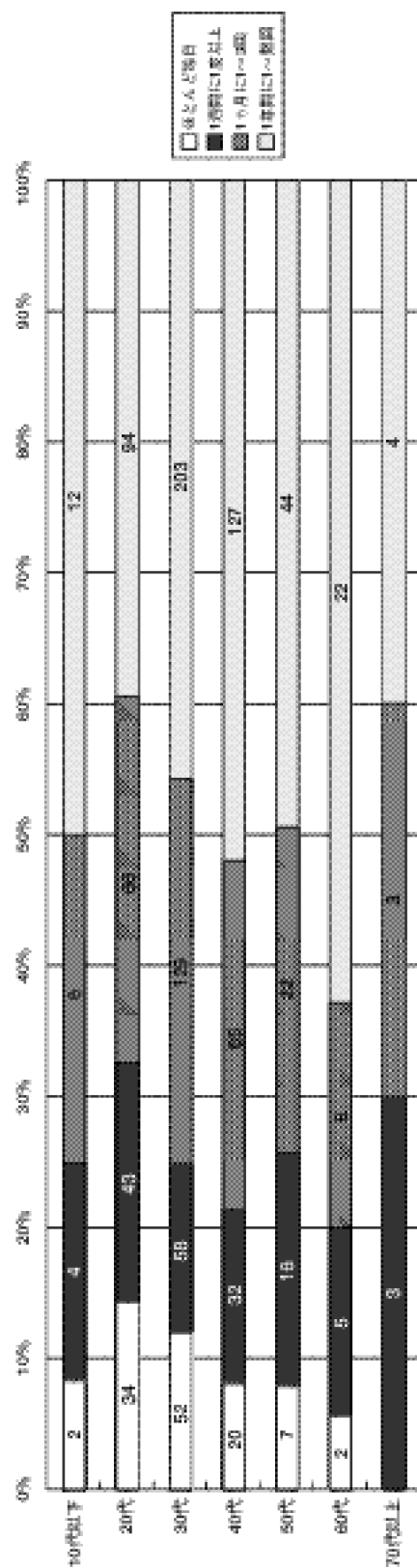
■問6 情報を利用される時、内容の信頼性の基準としてどのような点に留意されますか？
「信頼できる」と思われる要素の中で重要なものをあげてください。×年代



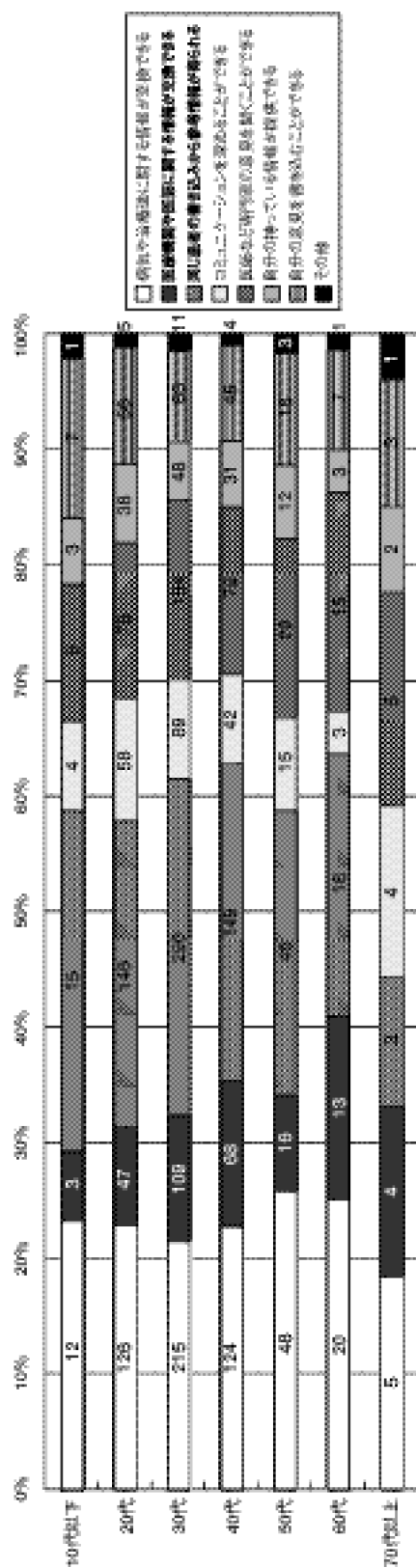
■問7 情報を利用される時、利用者側からみて「信頼性を損ねる」と考えられることは何ですか？ ×年代



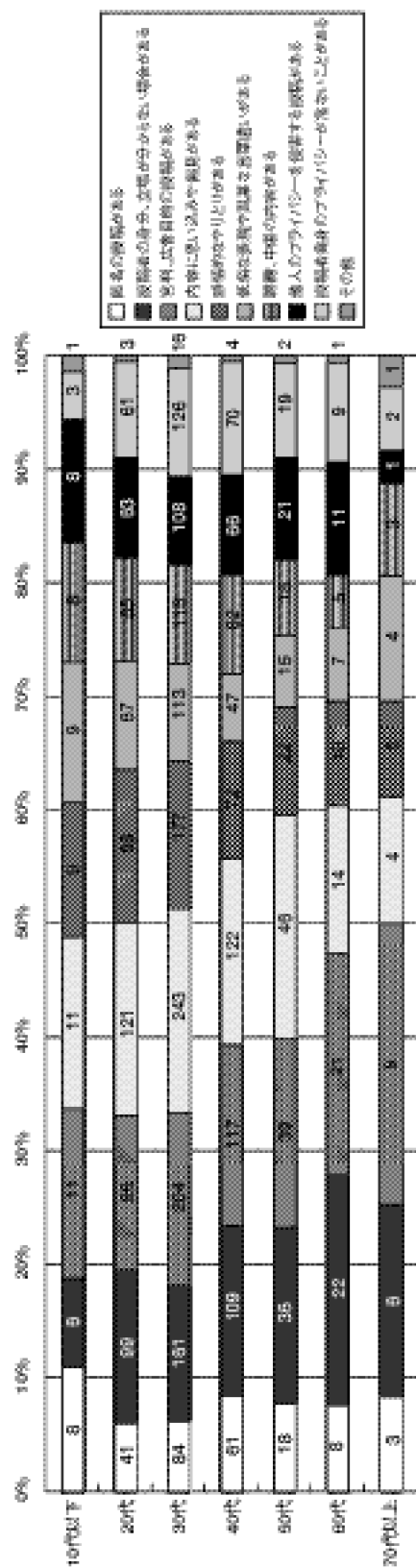
■問8 インターネット上の掲示板やオンライン会議室をどの程度利用されていますか？×年代



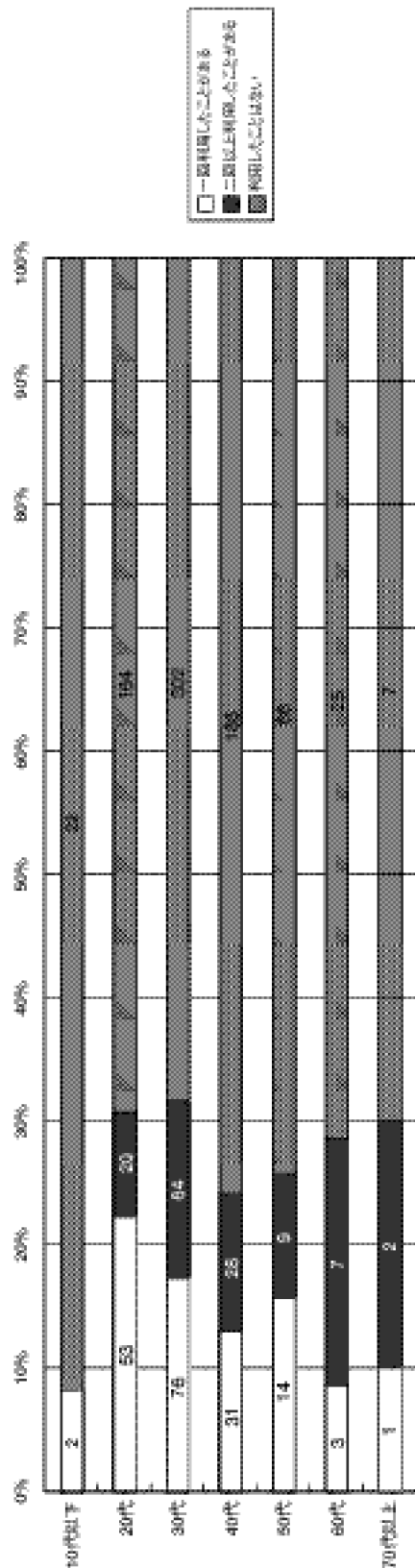
■問9 掲示板やオンライン会議室を利用されるメリット(利点)は何ですか？×年代



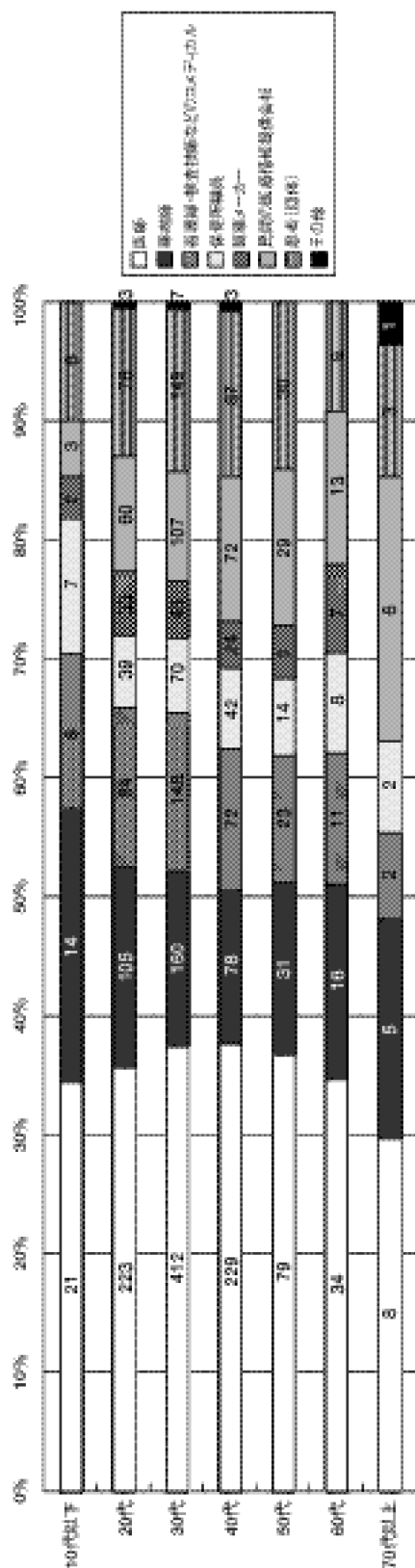
■問10 掲示板やオンライン会議室を利用される時の問題点はありませんか？×年代



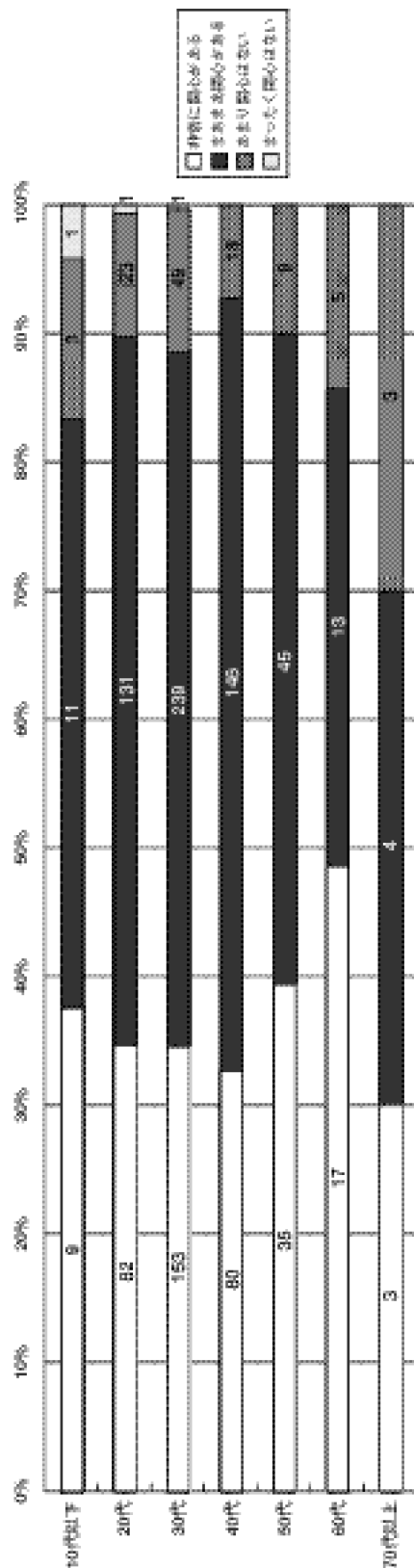
■問11 今までにインターネットで医療相談をされたことはありますか？×年代



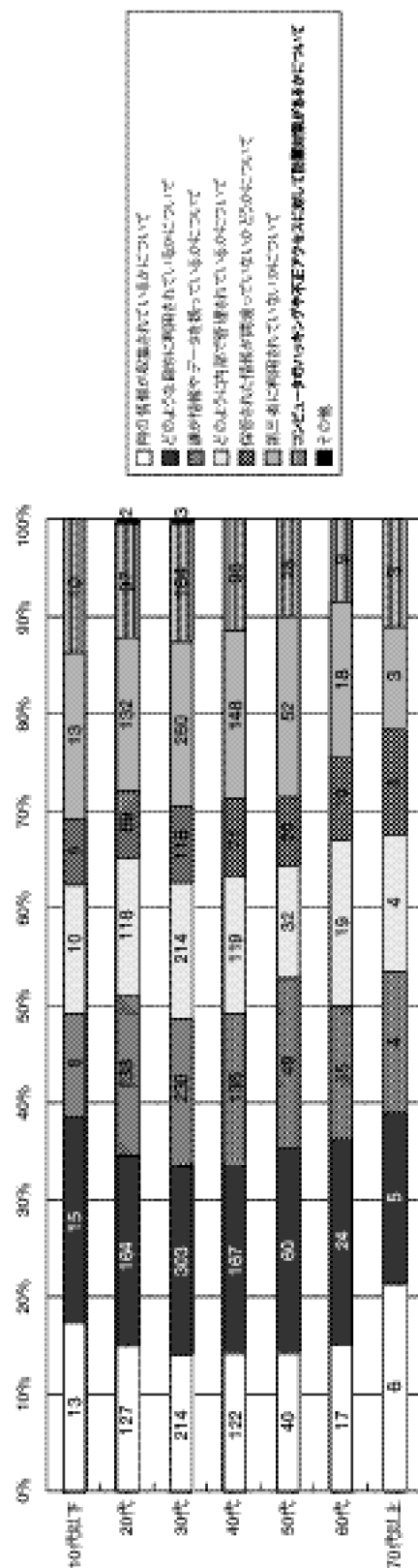
■問13 あなたがオンラインで医療や健康に関する相談をされたとしたら、信頼できる相手としては誰を選ばれますか？×年代



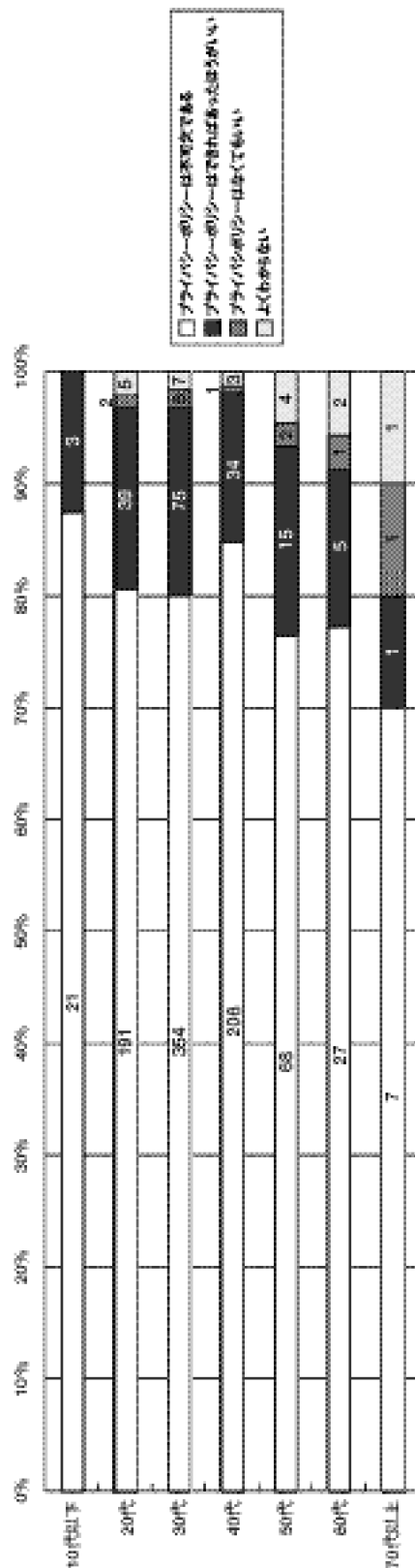
■問14 個人の医療(健康)情報がどう扱われていくかについて関心がありますか？×年代



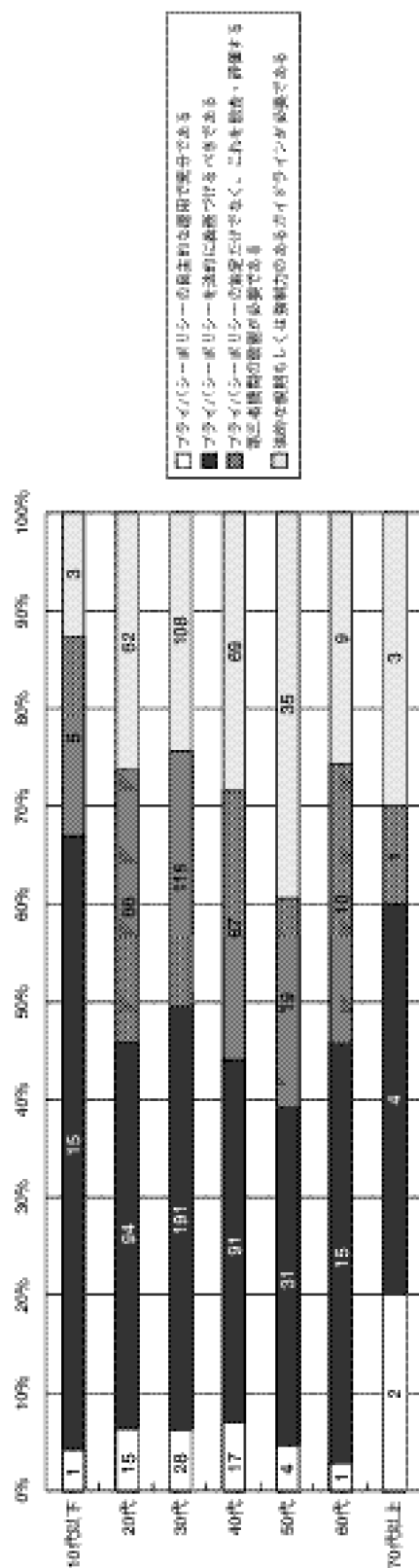
▶「非常に関心がある」「まあまあ関心がある」とされた方へどのようなことに関心がありますか？×年代



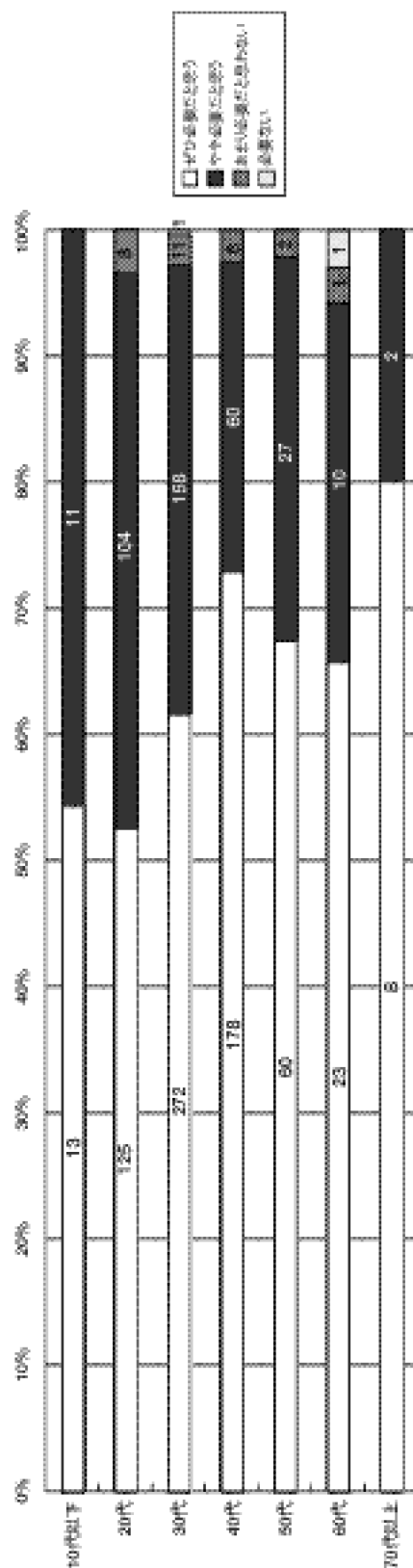
■問15 医療機関や企業が、インターネットで個人の医療(健康)情報を扱う場合は、このプライバシーポリシーが必要だと思われますか？×年代



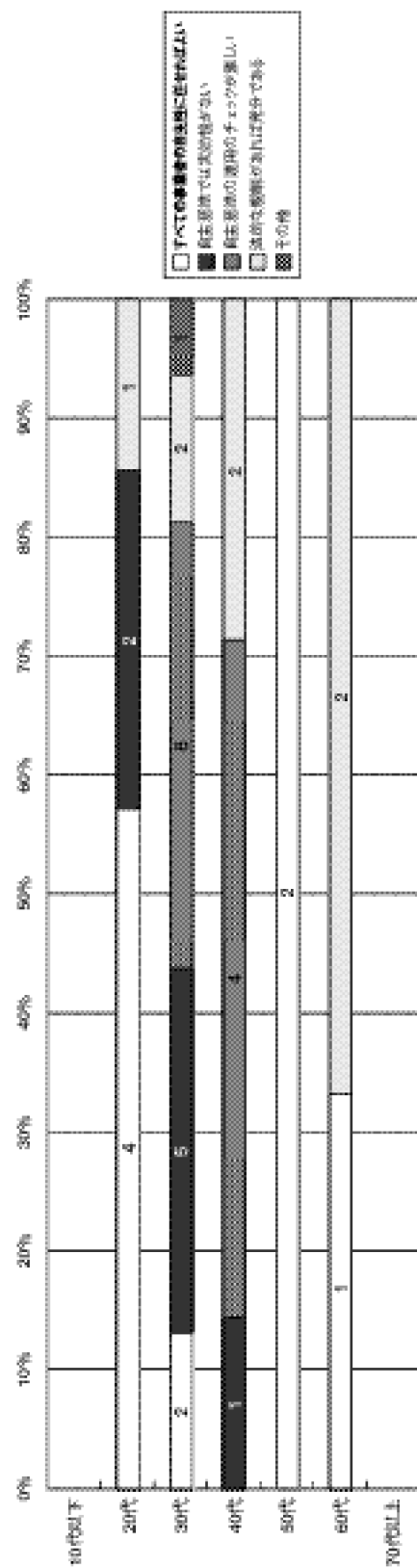
■問16 プライバシーポリシーの自主的な運用に加えて、これをチェックする第三者機関や法的な規則などの対策が必要だと思われますか？×年代



■問17 倫理規範もしくはガイドラインについてどう思われますか？×年代



▶ 「あまり必要だと思わない」「必要ない」とされた理由は何ですか？ × 年代



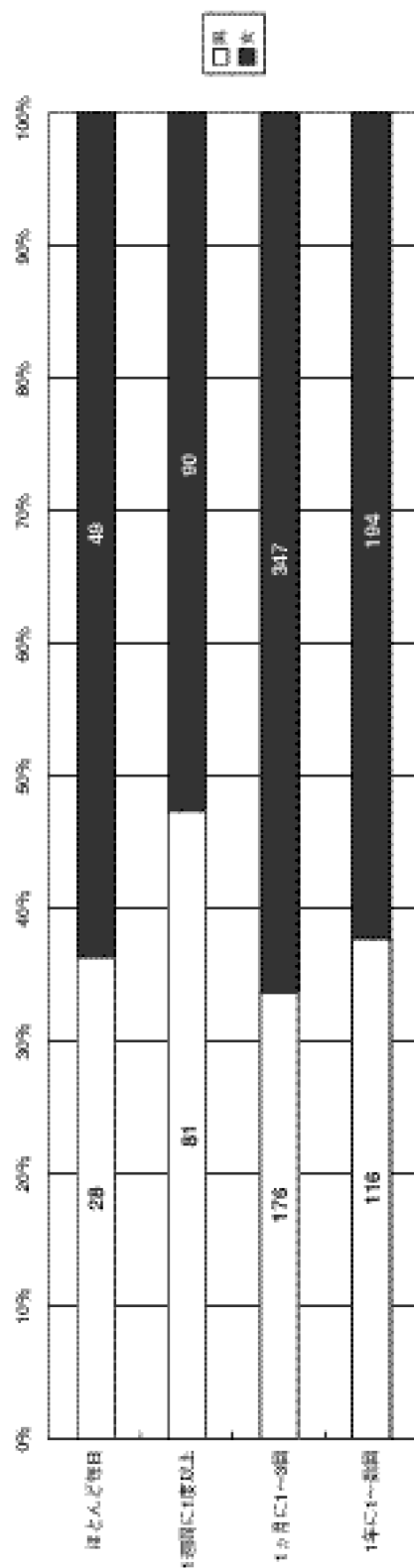
資料1.6. 利用頻度によるクロス集計結果

1.6. 利用頻度によるクロス集計結果

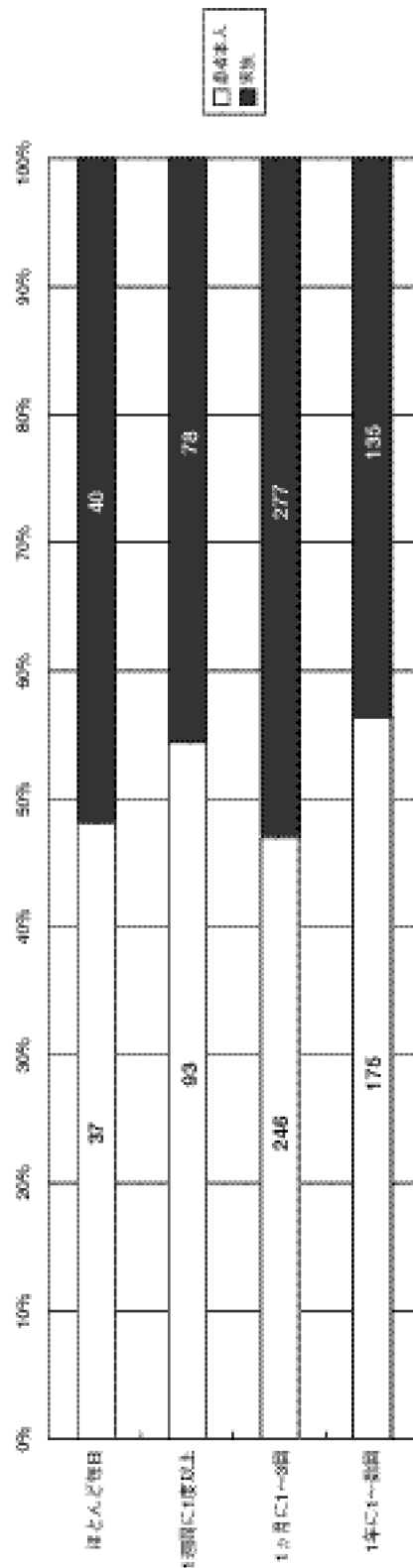
回答者を問3のインターネットの利用頻度の回答によって4群に分け、質問項目に対するクロス集計を行った。

(詳細分析は割愛)

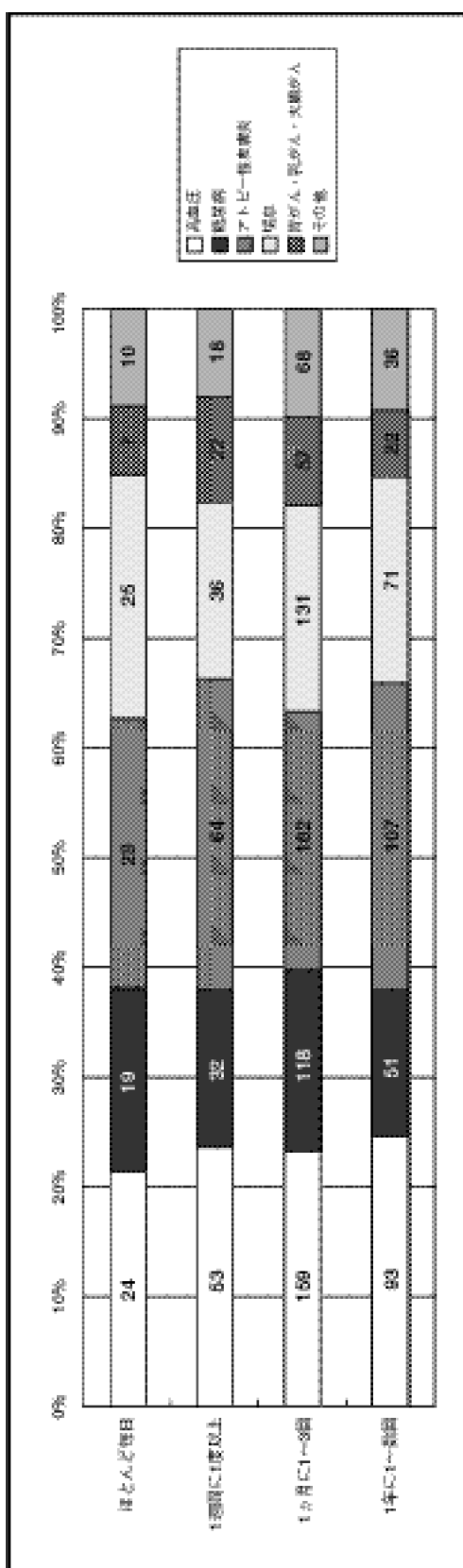
■性別 × 問3 医療情報利用頻度



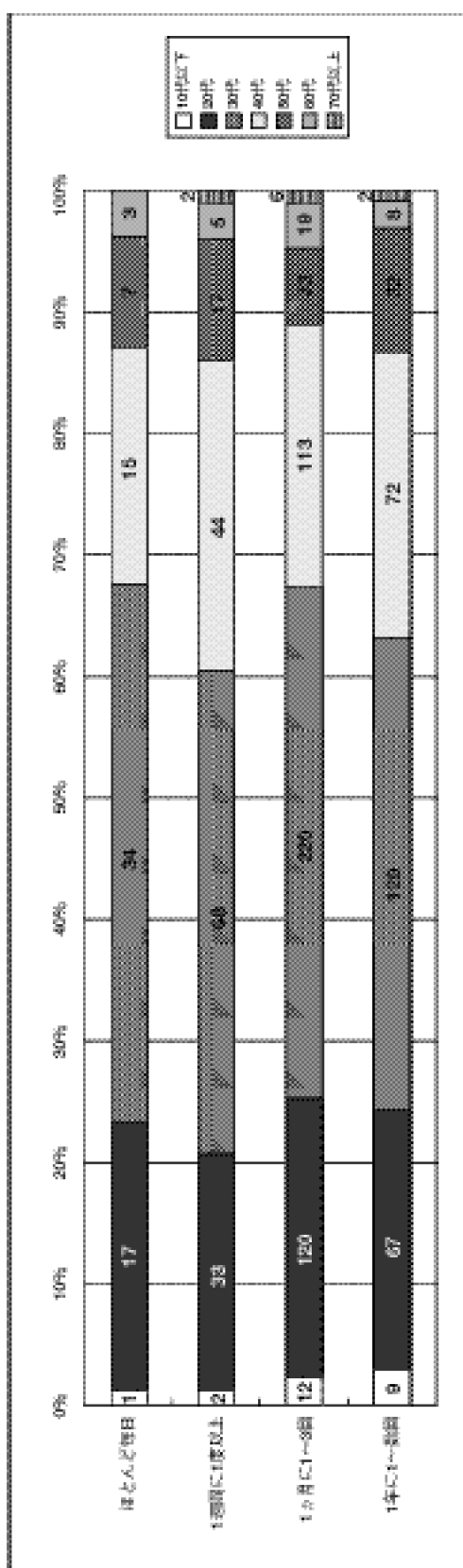
■患者本人・家族 × 問3 医療情報利用頻度



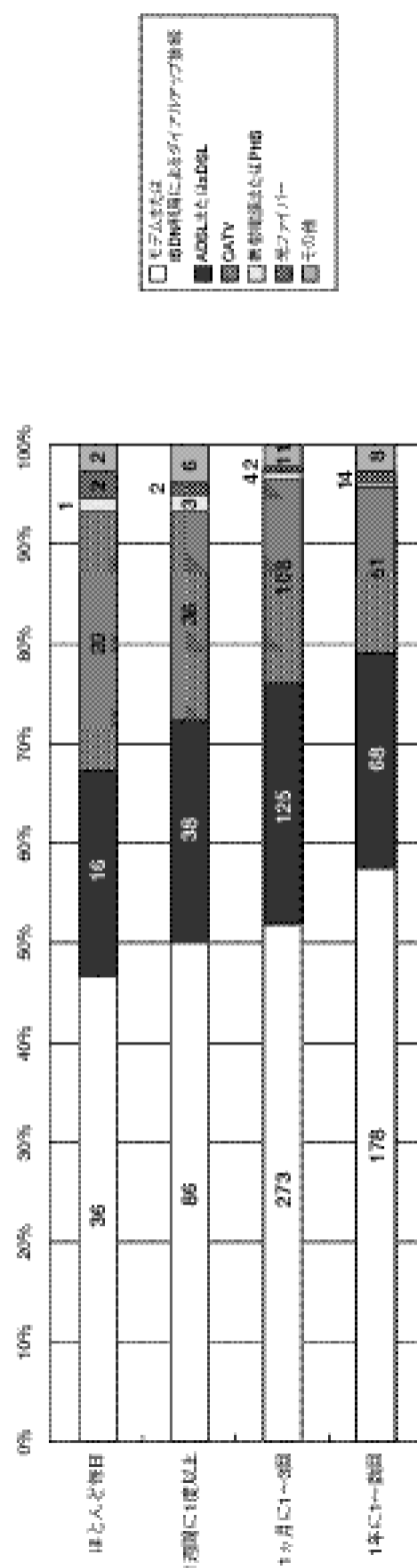
■性別×問3 医療情報利用頻度



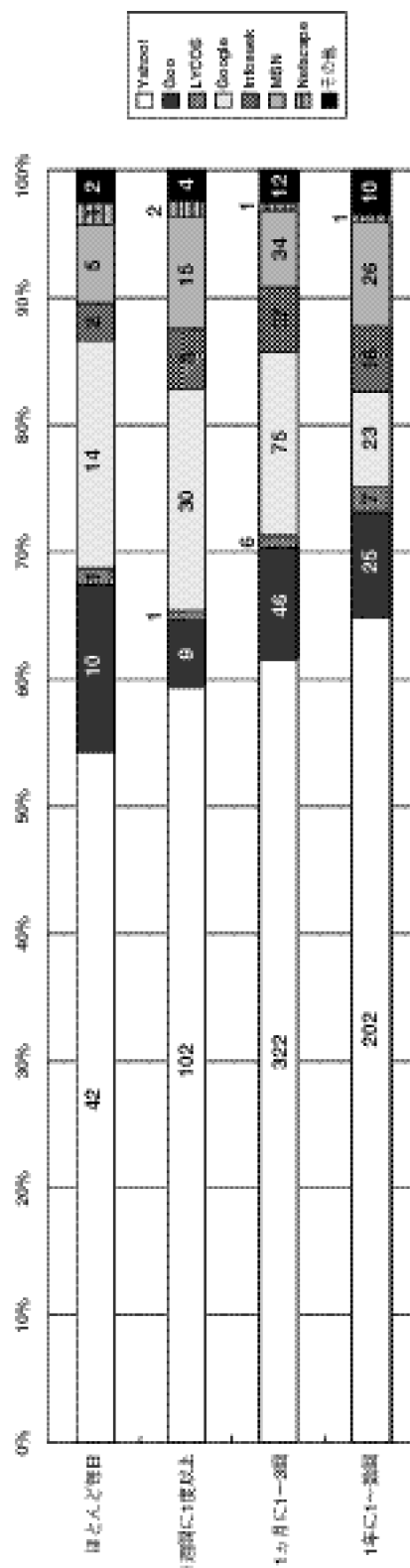
■年代×問3 医療情報利用頻度



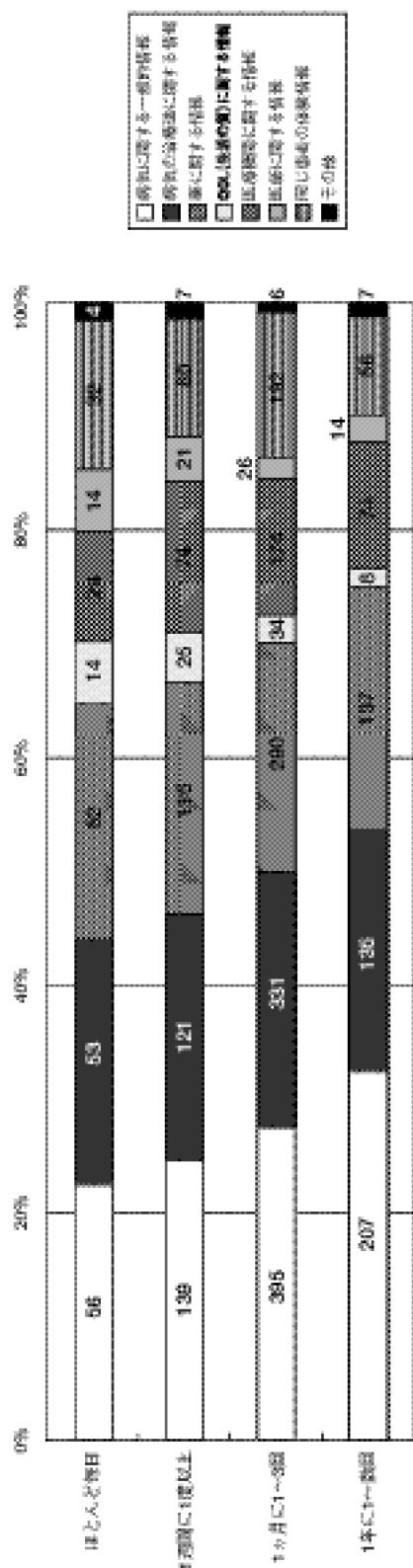
■問1 インターネットへの接続方法 × 問3 医療情報利用頻度



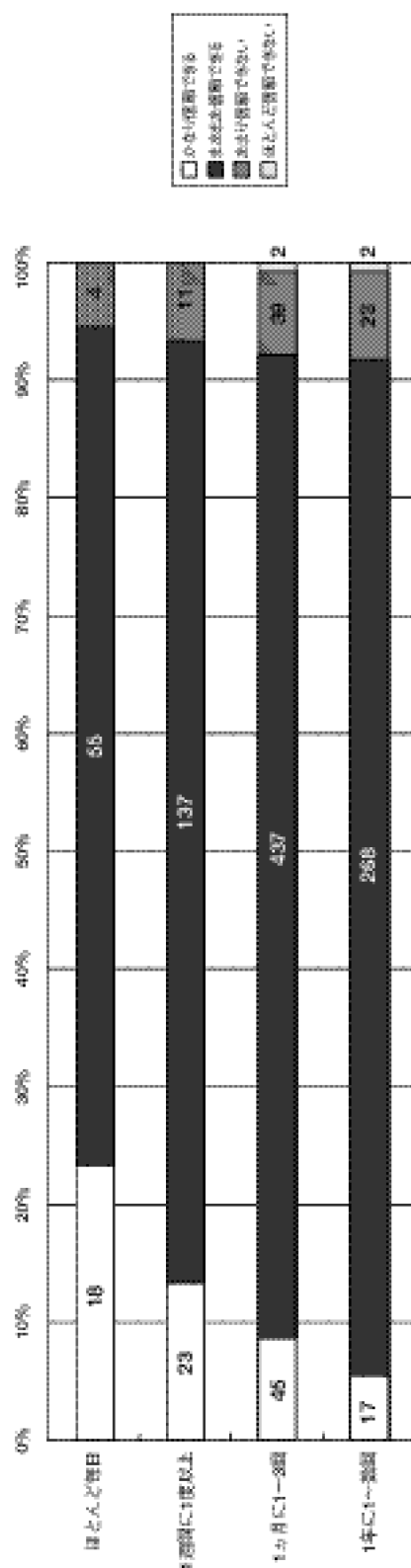
■問2 医療(健康)情報を検索する時、最もよく利用する検索エンジン × 問3 医療情報利用頻度



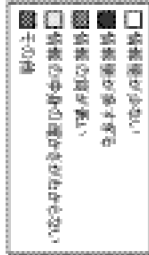
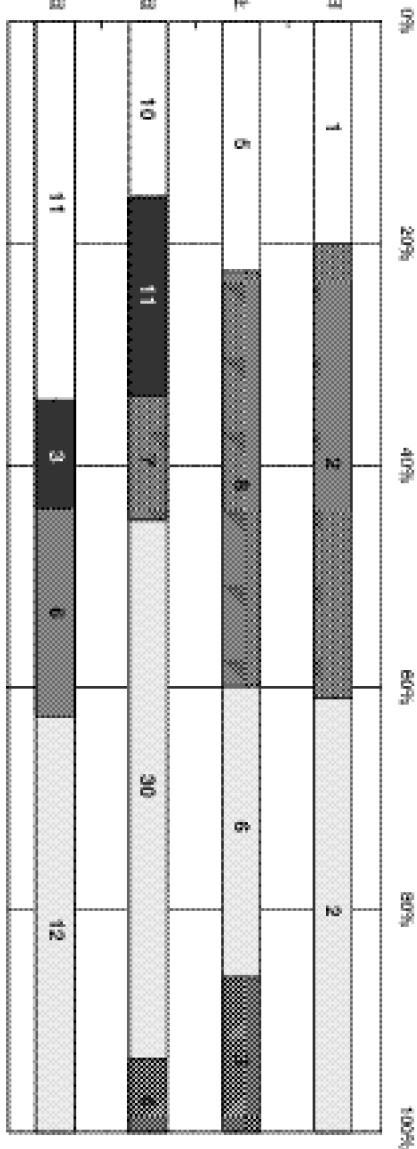
■問4 利用されている情報はどのようなものですか？(いくつでも) × 問3 医療情報利用頻度



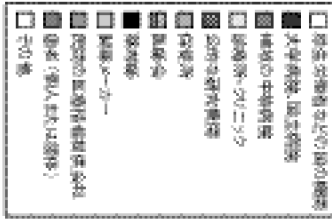
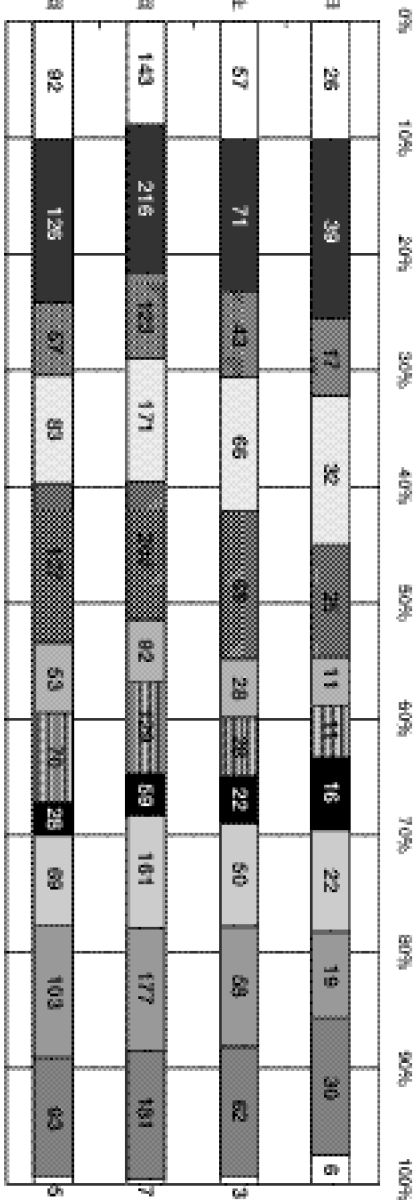
■問5 利用されている情報は全体的にみて、「信頼できる」と思われますか？ × 問3 医療情報利用頻度



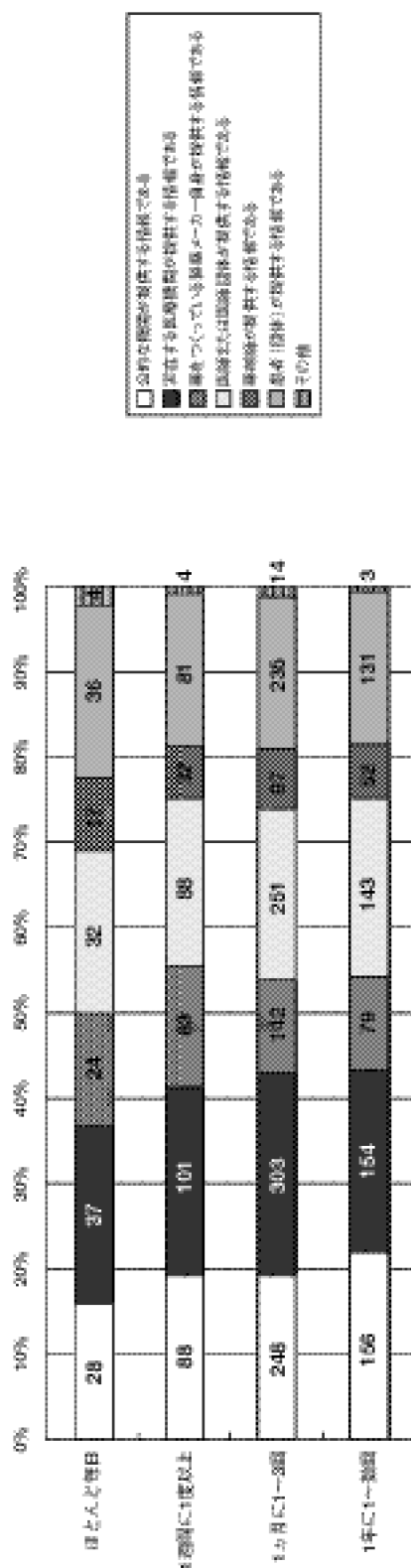
▶ 「あまり信頼できない」「ほとんど信頼できない」とされた理由は？ × 問3 医療情報利用頻度



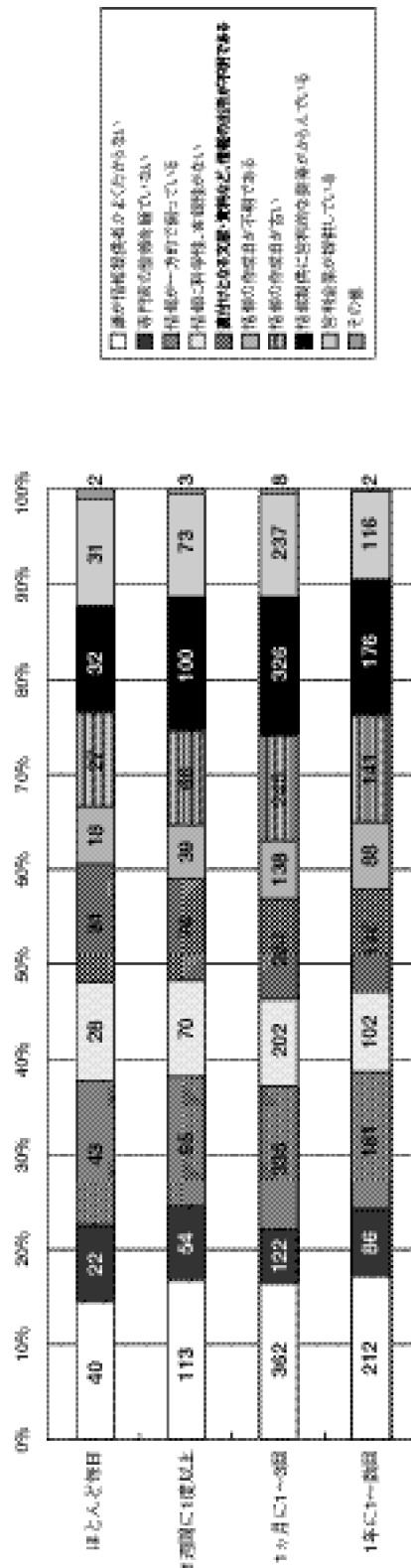
▶ 「かなり信頼できる」「まあまあ信頼できる」とされた方へ主にその情報は、どのようなウェブサイト(運営の主体者)で提供されている情報ですか？ × 問3 医療情報利用頻度



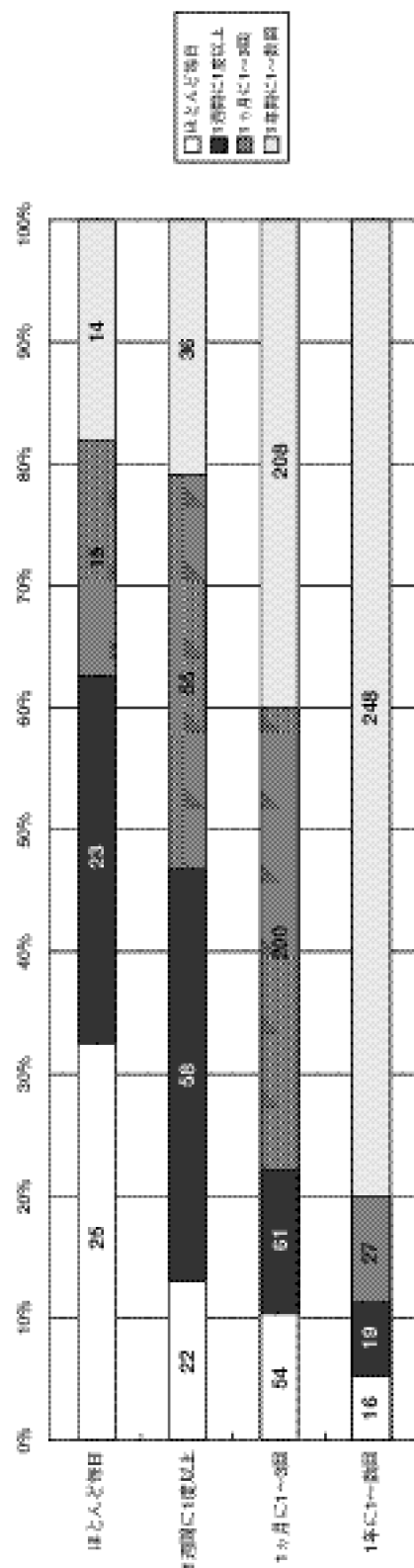
■問6 情報を利用される時、内容の信頼性の基準としてどのような点に留意されますか？
「信頼できる」と思われる要素の中で重要なものをあげてください。×問3 医療情報利用頻度



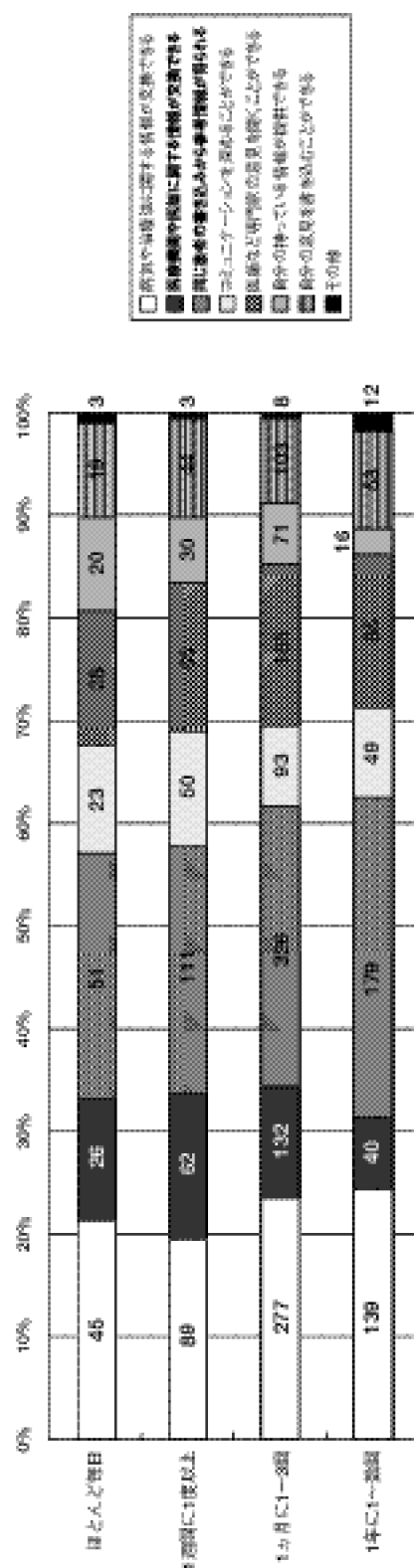
■問7 情報を利用される時、利用者側からみて「信頼性を損ねる」と考えられることは何ですか？ ×問3 医療情報利用頻度



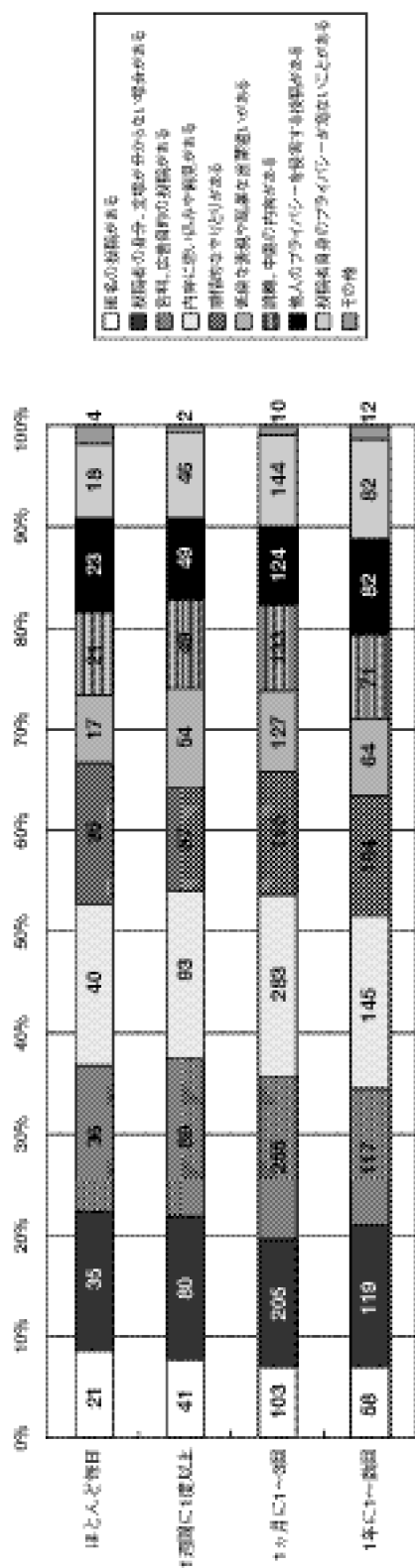
■問8 インターネット上の掲示板やオンライン会議室をどの程度利用されていますか？ × 問3 医療情報利用頻度



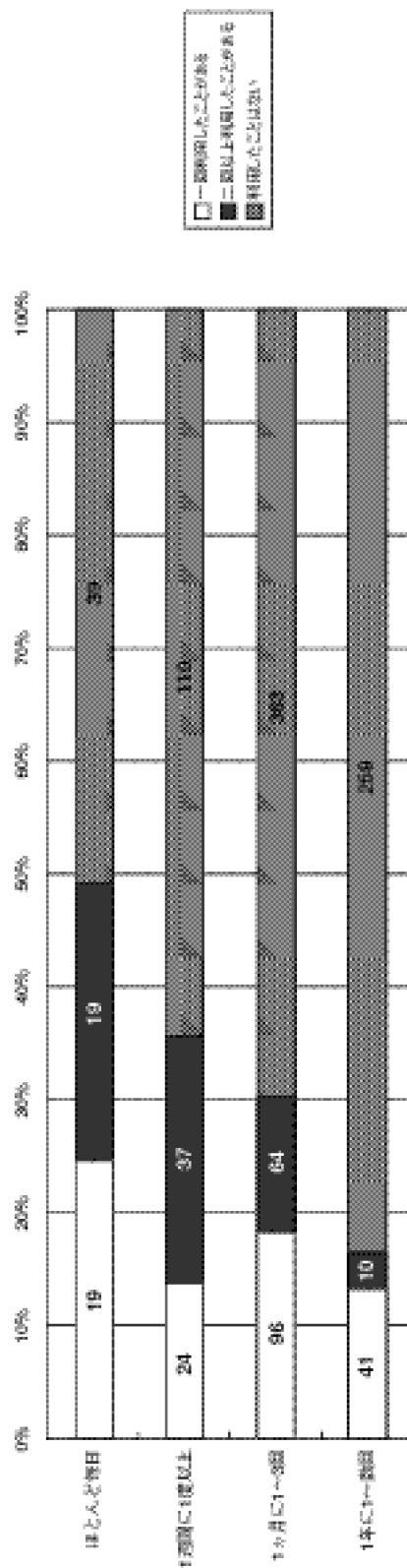
■問9 掲示板やオンライン会議室を利用されるメリット(利点)は何ですか？ × 問3 医療情報利用頻度



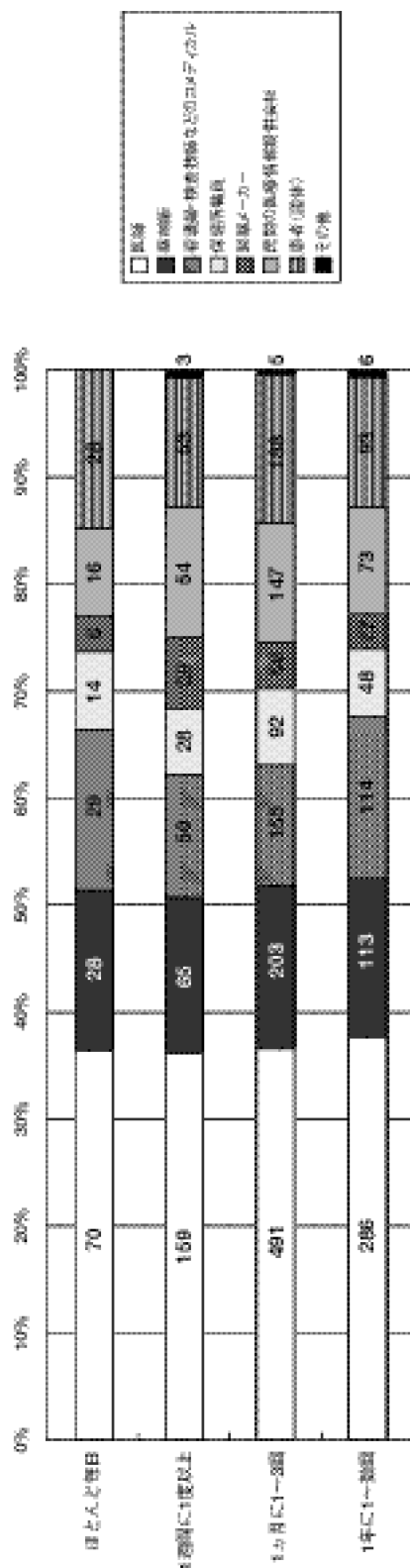
■問10 掲示板やオンライン会議室を利用される時の問題点はありますか？ × 問3 医療情報利用頻度



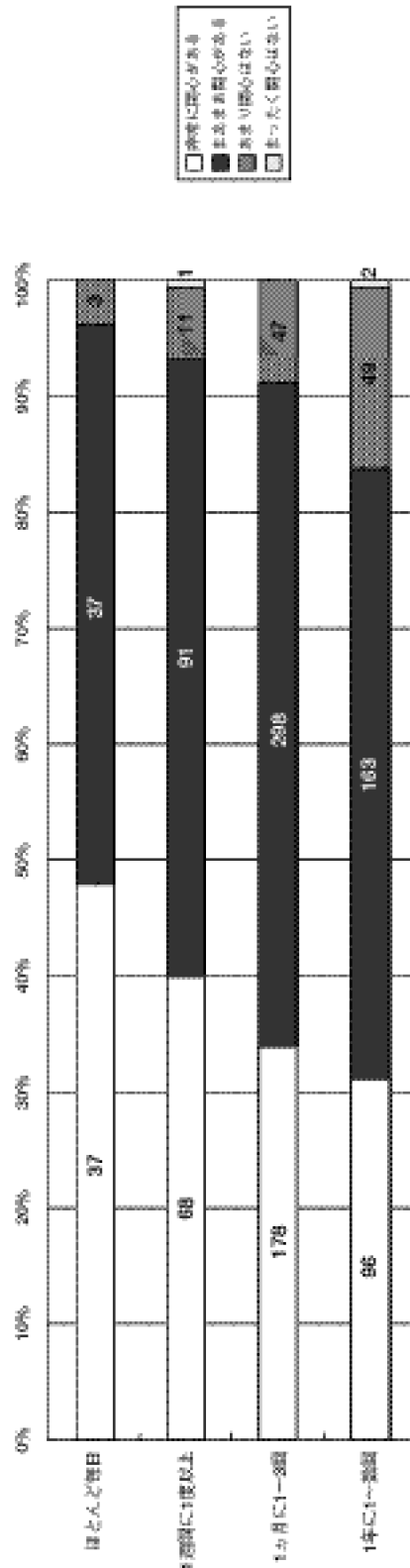
■問11 今までにインターネットで医療相談をされたことはありますか？ × 問3 医療情報利用頻度



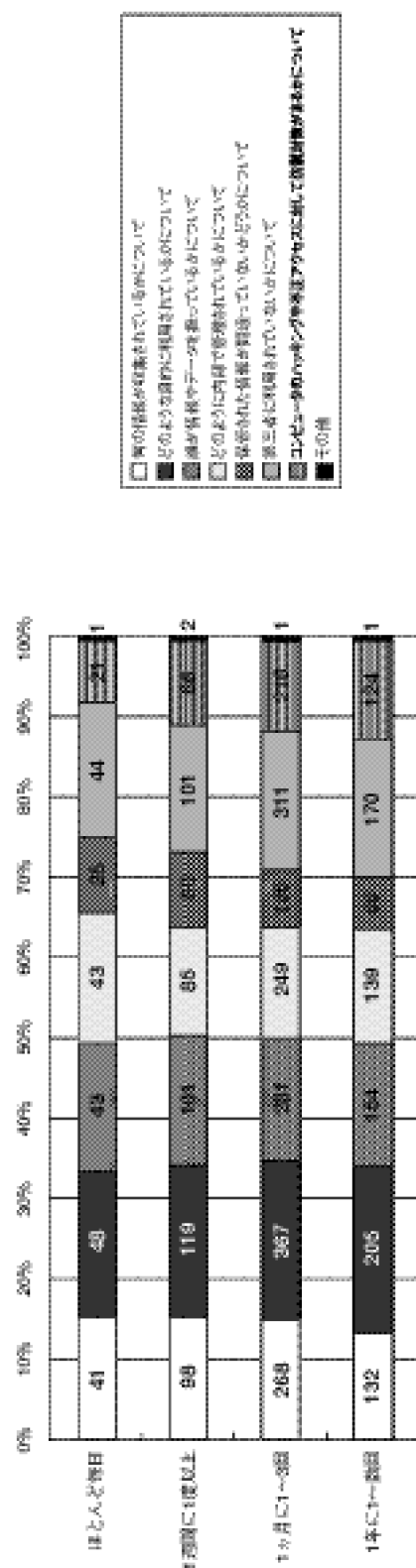
■問13 あなたがオンラインで医療や健康に関する相談をされたとしたら、
信頼できる相手としては誰を選ばれますか？ ×問3 医療情報利用頻度



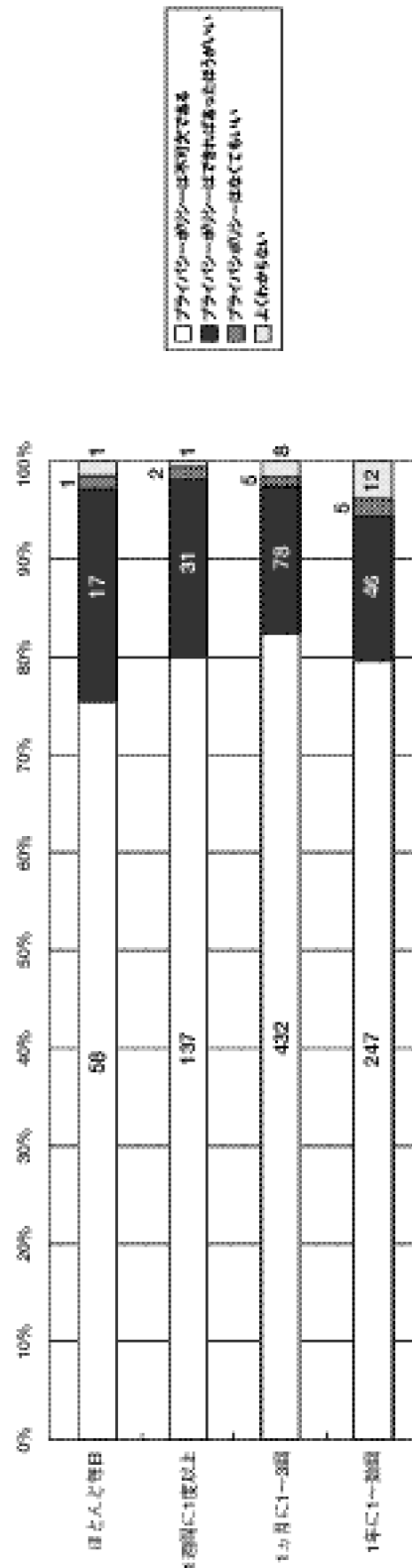
■問14 個人の医療(健康)情報がどう扱われていくかについて関心がありますか？ ×問3 医療情報利用頻度



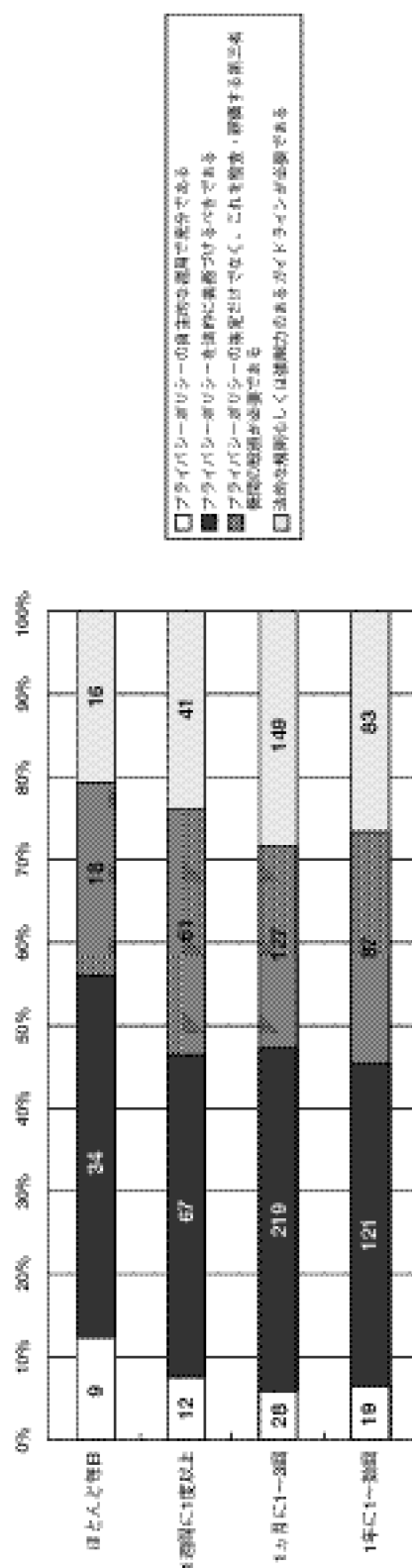
▶「非常に関心がある」「まあまあ関心がある」とされた方へどのようなことに関心がありますか？×問3 医療情報利用頻度



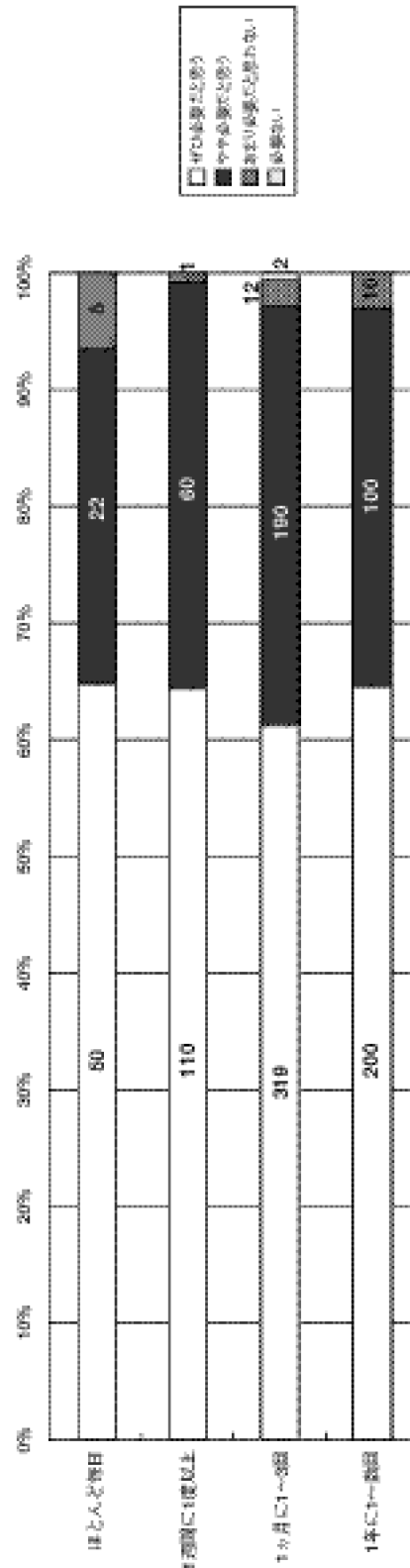
■問15 医療機関や企業が、インターネットで個人の医療(健康)情報を扱う場合は、このプライバシーポリシーが必要だと思われますか？×問3 医療情報利用頻度



■問16 プライバシーポリシーの自主的な運用に加えて、これをチェックする第三者機関や法的な規則などの対策が必要だと思われますか？ × 問3 医療情報利用頻度



■問17 倫理規範もしくはガイドラインについてどう思われますか？ × 問3 医療情報利用頻度



▶ 「あまり必要だと思わない」「必要ない」とされた理由は何ですか？ × 問3 医療情報利用頻度

